

横須賀市体育・スポーツのあゆみ年表  
(昭和元年～平成 21 年)

横須賀市教育委員会事務局  
生涯学習部スポーツ課

## はじめに

昭和 53 年、横須賀市政施行 70 周年記念事業の一つとして「横須賀市体育のあゆみ」を刊行いたしました。この年は、本市が「健康都市横須賀」を宣言し、市民待望の「横須賀市総合体育会館」が竣工した年でもあります。

以来 30 年余が経過し、この間、第 53 回国民体育大会「かながわ・ゆめ国体」の開催はじめ、様々な体育・スポーツに関する活動が展開され、その内容も充実発展してまいりました。

今日、市民の健康で幸せな生活のために、スポーツの果たす役割は極めて重要であり、その重要性は、今後、さらに増していくことは言うまでもありません。

その意味で、本市スポーツの将来を見定めるために、今日までの先人の残したあゆみと業績を整理・記録し残すことは重要なことです。

ここに、「横須賀市体育のあゆみ」以降の 30 年余を含めた、昭和元年から現在までの本市体育・スポーツのあゆみを年表として残すことになり、平成 18 年から現在まで資料の収集整理に努めてまいりました。

しかし、時間の経過による資料の散逸や時間の制約、紙面の制限等から、記載内容に不十分な事項がありますので、今後の年表の充実のため、お気づきの点についてご指摘いただければ幸いです。

おわりに、年表作成に当たり、ご協力いただいた関係各位に深く感謝申し上げます。

平成 23 年（2011 年）3 月

横須賀市教育委員会事務局生涯学習部

スポーツ課長 伊藤 学

## 例 言

- ・年表の期間は、昭和元年から平成 21 年とした
- ・スポーツの事項に、できるだけ学校体育の事項を加えるようにした
- ・本市の事項と同時代の国・県の事項を対応させ、時代の推移を理解しやすくした
- ・国の事柄は●印、県の事柄は▲印、国際的なものは◆印で表記した
- ・人権尊重の立場等から、現在では表現が適切でないものがあるが、当時の表現としてそのまま扱った
- ・人名の敬称、敬語は省略した
- ・学校名、団体名について、記載スペースの制約から簡略化して記載した
- ・大会成績については、原則として、中・高等学校関係は、団体種目が県大会優勝以上、個人種目が関東大会入賞以上とし、一般は、特に全国的に顕著なものとした
- ・事業・大会等の開催月や内容の不明なものは（－）で表記した

年代	横須賀の体育・スポーツ	国・県内の体育・スポーツ
1926 (昭和元)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「横須賀卓球協会」発足（4月）</li> <li>・ 「横須賀水泳協会」発足。会長、大井鉄丸(市長)（6月）</li> <li>・ 「三浦半島陸上クラブ」発足（7月）</li> <li>・ 第1回市民体育大会（陸上競技）開催（12月）</li> <li>・ 第1回三浦半島中等学校陸上競技大会開催（海軍逸見グラウンド。現在の横須賀駅裏）（12月）</li> <li>・ 第1回市民体育大会庭球競技大会を開催（12月）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ヘルシンキの国際スキー連盟総会で全日本スキー連盟の加盟が承認される（2月）</li> <li>▲ 在郷軍人会横浜北部分会弓道部、本県下初の弓道審査会開催の予定（2月）</li> <li>▲ 県、「体育運動ノ振興ニ関スル件」を訓令（4月）</li> <li>● 「日本女子スポーツ連盟」発足（4月）</li> <li>● 学校体操授業要目改正（5月）</li> <li>● 「日本アマチュア拳闘連盟」発足（7月）</li> <li>● 明治神宮体育大会（第3回）の主権が、新たに設立（9月）された明治神宮体育会に移る（10月）</li> <li>▲ 神奈川県、学校体操教授要目改正（昭和元年5月27日）に伴う各市町村の講習会開催に対し、その講習会の内容、結果などを報告するよう市町村長に指示（9月）</li> <li>● 明治神宮野球場竣工（10月）</li> <li>▲ 横浜高商、開校式に大運動会開催（10月）</li> <li>▲ 横浜庭球協会、日本で初めての「シティートーナメント」を開催（10月）</li> <li>● 第1回全日本ボクシング選手権、靖国神社相撲場で開催（11月）</li> </ul>
1927 (昭和2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 報知新聞社主催全国小学校陸上競技大会で船越小学校高等科が優勝（5月）</li> <li>・ 岡田三善市長就任（～昭和2）（7月）</li> <li>・ 横須賀青年団第1回陸上競技大会を海兵団運動場で開催（7月）</li> <li>・ 全国少年野球大会（神宮球場）で福島代表と決勝戦。本県代表の豊島小学校高等科、準優勝に輝く（8月）</li> <li>・ 第2回市民体育大会（柔道が加わる）、不入斗練兵場で開催（11月）</li> <li>・ 三浦半島小学校児童競技大会、県横須賀中で開催（11月）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 運動競技は文部省所管となる（1月）</li> <li>▲ 神奈川県女子師範学校、体育部設置。生徒への体育の普及を図る（4月）</li> <li>● 「日本ラグビー協会」発足（4月）</li> <li>● 第1回全日本オープン・ゴルフ選手権大会を横浜保土ヶ谷ゴルフ場で開催（5月）</li> <li>▲ 県、学校体操設備標準を指示（6月）</li> <li>● 「大日本排球協会」発足（7月）</li> <li>● スポーツのラジオ中継放送開始。野球では8月13日甲子園における中等学校優勝野球大会が初めて（8月）</li> <li>● 第1回都市対抗野球大会（東京日日新聞社主催）、神宮球場で開催（8月）</li> <li>▲ 県、運動競技会への学生・生徒・児童の参加について、「学生生徒の参加する全国的競技会は2年以上ごとに1回、中等学校以下の生徒児童は不参加、但し開催地域付近の学校はこの限りにあらず」と指示（9月）</li> <li>▲ 県下男子中等学校連合体育大会開催（10月）</li> <li>▲ 県下女子中等学校連合体育大会開催（10月）</li> <li>● ゼ杯庭球試合に清水善三、原田武一、太田芳郎、三木竜喜、インターゾーン決勝進出。仏5-0日（-）</li> <li>▲ 横浜高商、横浜工高にホッケー部設立（-）</li> <li>▲ 小田原市少年相撲始まる（-）</li> <li>● 「大日本体育協会」、財団法人の法人格を取得（-）</li> </ul>
1928 (昭和3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小栗盛太郎市長就任（～昭和5）（3月）</li> <li>・ 「横須賀柔道有段者会」発足。第1回臨時海軍准士官昇段審査会（三段までの）実施（4月）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● コルチナ・ダンペッチオで開かれた国際学生スキー大会に矢沢武雄らのオリンピック代表参加（1月）</li> </ul>

年代	横須賀の体育・スポーツ	国・県内の体育・スポーツ
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 不入斗練兵場の一部払い下げを受け、木造スタンド付の不入斗野球場完成（－）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「日本学生陸上競技連合」発足（1月）</li> <li>● 第4回明治神宮体育大会（金田市金谷山）にスキー初参加（2月）</li> <li>● 第1回東西対抗選抜ラグビー試合甲子園で行われる（2月）</li> <li>◆ 第2回冬季オリンピック大会（サンモリッツ）開催。日本選手初めて出場（2月）</li> <li>▲ 県下中等学校の連合野外演習実施（4月）</li> <li>● 第1回日本学生陸上競技対抗選手権大会、神宮競技場で開催（5月）</li> <li>● 神宮プール竣工。5月28日から第9回極東選手権大会に使用（5月）</li> <li>▲ 県、中学校規則第3項中の「撃剣、柔術」を「剣道、柔道」に改正（5月）</li> <li>▲ 県下女子中等学校第1回球技大会、女子師範で開催（6月）</li> <li>◆ 第9回夏季オリンピック大会（アムステルダム）開催。参加国46、参加数3,015名。三段跳、織田、200m平泳、鶴田、優勝（7～8月）</li> <li>▲ 鎌倉－逗子間遠泳大会開催。鎌倉海水浴場開設以来の快挙（8月）</li> <li>● ラジオ体操開始（11月）</li> <li>▲ 横浜運動クラブ主催第1回横浜市内中等学校陸上競技大会開催予定（11月）</li> <li>▲ 「小田原市体育協会」「茅ヶ崎市体育協会」発足（－）</li> </ul>

<p>1929 (昭和4)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県下女子中等学校卓球大会で実科高等女学校岩堀美代子選手、優勝（4月）</li> <li>・ 三浦半島地区卓球選手権大会開催。本市の選手優勝（5月）</li> <li>・ 第1回市民水泳大会を大津海岸仮設プールで実施（8月）</li> <li>・ 横須賀海軍工廠慰安会体育大会を不入斗練兵場で開催（10月）</li> <li>・ 三浦半島小学校児童競技大会、県横須賀中で開催（10月）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▲ 横浜公園内に平和球場新設（3月）</li> <li>▲ 「県中等学校体育指導者連盟」発足（4月）</li> <li>▲ 横浜公園スタンド内の柔・剣道場開き挙行（6月）</li> <li>● 日本庭球連盟主催第1回全日本学生庭球選手権大会、上井草、早大で開催（8月）</li> <li>▲ 横浜工高射撃クラブ主催第1回県下中等学校射撃大会、引越射撃場で開催（10月）</li> <li>● 「大日本スケート競技連盟」発足（10月）</li> <li>▲ 県下第1回体操競技大会開催（11月）</li> <li>▲ YMC A主催第1回横浜市内中学校フィールド競技大会、横浜工高グラウンドで開催（11月）</li> <li>● 花園ラグビー場開場（11月）</li> <li>● 文部省に体育運動審議会設置（11月）</li> <li>● 東西学生1位対抗サッカー試合開始（12月）</li> <li>▲ 神奈川県女子師範学校、全生徒に水泳を実施（－）</li> <li>▲ 磯子にホッケー場が初めて完成（－）</li> <li>▲ 「横浜体育協会」発足（－）</li> <li>▲ 県中等学校体育指導者連盟発足（－）</li> </ul>
-----------------------	---	---

<p>1930 (昭和5)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高橋節雄市長就任（～昭和7）（3月）</li> <li>・ 県横高女（大津高）で三浦郡青年団競技大会開催（9月）</li> <li>・ 県指定巡回体操指導講習会開催（10月）</li> <li>・ 県柔道有段者会对横須賀柔道有段者会对抗試合を横浜市開港記念会館で開催（11月）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 第1回全日本スケート選手権大会、八戸市長根リンク、日光精工所リンクで開催（1月）</li> <li>▲ 神青クラブ主催第1回県下青年陸上競技大会、南沢小学校で開催（4月）</li> <li>● 「日本体操連盟」発足（4月）</li> <li>● 第9回極東選手権競技大会（野球）、東京神宮外苑で開催（5月）</li> </ul>
-----------------------	--	---

年代	横須賀の体育・スポーツ	国・県内の体育・スポーツ
		<ul style="list-style-type: none"> <li>▲ 「県中等学校体育連盟」発足（6月）</li> <li>▲ 横浜市宮元町プール（50m）開設。夜間施設を持つ（6月）</li> <li>▲ 日本初の夜間の水上競技会、元町プールで開催（7月）</li> <li>▲ 平和球場スタンド下に柔剣道場付設（8月）</li> <li>◆ 第1回ヨーロッパ体育会議、ベルリンで開催（8月）</li> <li>▲ 県、体育運動主事就任（8月）</li> <li>▲ 県下女子卓球大会開催（9月）</li> <li>● 「大日本バスケットボール協会」発足（9月）</li> <li>◆ 第3回国際女子陸上競技大会、ブラハで開催。日本から人見絹江以下6選手が参加し、4位となる（9月）</li> <li>▲ 「県箏球連盟」発足。これを記念し、第1回連盟戦挙行（10月）</li> <li>▲ 県下女子中等学校体育大会開催。22校 1,000名参加（10月）</li> <li>▲ 横浜市民ラグビー大会開催（11月）</li> <li>◆ 「デンマーク体操協会」発足（-）</li> </ul>

<p>1931 (昭和6)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 酒井衛ら有志中心に「横須賀庭球クラブ」発足（-）</li> <li>・ 東日本女子選手権東西対抗代表決定戦に実科高等女学校楠山選手、代表になる（6月）</li> <li>・ 市民体育大会柔道大会（450名の参加）、豊島小で開催（11月）</li> <li>・ 県指定体操指導講習会、南下浦小で開催（12月）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「日本学生庭球連盟」発足（1月）</li> <li>● 中学校令施工規則改正。剣道・柔道を体操科の中で必修とする（1月）</li> <li>● 明治神宮外苑野球場の拡張工事竣工。収容人員6万5千人の大球場になる（4月）</li> <li>● 明治神宮外苑プール完成（6月）</li> <li>▲ 第1回県下女子中等学校球技大会、県立高女で開催。庭球、箏球、排球、卓球を行う（6月）</li> <li>▲ 小田原市、第1回近郷水泳大会（小学校、中等学校、青年団）開催。御幸の浜に25mの海水プール設置（7月）</li> <li>● 第1回日米対抗水泳競技大会を神宮で開催。日本40点—23点米国（8月）</li> <li>▲ 第1回女子中等学校球技大会水上競技大会開催（9月）</li> <li>▲ 横浜市立商業高校に野球チーム（インドアベースボール）誕生（9月）</li> <li>● 関東陸上選手権大会、南部忠平が走幅跳で7m98、織田幹雄が三段跳で15m58の世界新（10月）</li> <li>▲ 県学務部、11月3日の明治節に第1回体育デー挙行を決定し、これを通達（10月）</li> <li>● 日本陸上競技連盟が競技場公認制度を決定（12月）</li> <li>▲ YMC A主催県下第1回バレーボール大会開催（-）</li> <li>◆ 「国際アーチェリー連盟」発足（-）</li> </ul>
-----------------------	---	---

<p>1932 (昭和7)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大井鉄丸市長就任（～昭和8）（3月）</li> <li>・ 横須賀海軍工廠体育会主催第1回柔道団体戦（1チーム5名）をトーナメント式対抗試合で実施（県下ではこの種の大会は初めて）（6月）</li> <li>・ 横須賀鎮守府麾下艦船部隊陸上部隊、市内各官衛有段者招待連合武道大会を開催（10月）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● カナダラグビーチーム来日。一国を代表して来日した最初の外国人チーム（1月）</li> <li>● 札幌市三角山の倉山シャンツェ開場。全長380m、アプローチ100m（1月）</li> <li>● 第1回東西対抗サッカー試合、甲子園で開催（2月）</li> </ul>
-----------------------	--	--

年代	横須賀の体育・スポーツ	国・県内の体育・スポーツ
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 三浦中主催三浦半島競技大会開催（10月）</li> <li>・ 「横須賀庭球協会」（現軟式庭球協会）発足。会長、酒井衛（11月）</li> <li>・ 市内小学校球技大会（ドッジボール）、豊島小で開催。逸見小優勝（－）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 第3回冬季オリンピック大会（レークプラシッド）開催。参加国17、参加選手307名（2月）</li> <li>● 「日本アマチュアレスリング協会」発足（4月）</li> <li>● 文部省「野球統制令」施行（4月）</li> <li>▲ 「県バレーボール協会」発足（4月）</li> <li>▲ 第1回全神奈川排球選手権大会開催（5月）</li> <li>▲ 川崎市体育協会柔道部、第1回柔道大会を市内宮前小学校で開催（6月）</li> <li>◆ 「国際バスケットボール連盟」発足。本部ミュンヘン（6月）</li> <li>◆ 第10回夏季オリンピック大会（ロサンゼルス）開催。参加国37、参加選手1,408名。日本10種目競技に131名の選手参加。陸上競技三段跳・南部、100m自由形・宮崎、1,500m自由形・北村、男子800mリレー、200m平泳・鶴田、100m背泳・清川の五種と馬術大障害飛越・西と合わせて7つの金メダルを獲得。日本、金7、銀7、銅4（7月）</li> <li>◆ ロサンゼルスで第1回国際レクリエーション会議開催（7月）</li> <li>▲ 県師範学校主催県下小学校競技大会開催（10月）</li> <li>▲ 第1回体操祭、平塚高女で開催（11月）</li> <li>● 日本ヨット協会発足（11月）</li> </ul>

<p>1933 (昭和8)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県柔道有段者会对横須賀有段者会对抗試合を横須賀海軍集会所で開催。横須賀が大勝する（4月）</li> <li>・ 三上文太郎市長就任（～昭和9）（5月）</li> <li>・ 横須賀海軍下士官集会所講演場新設。落成式に柔道家の磯貝一九段、長岡秀一九段を招き古式の形を行う（10月）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 第1回室内水上競技大会、甲子園室内プールで開催（4月）</li> <li>● 「中体連体育部」を新設。全中等学校に体育簿を配布し、生徒の身体発育調査を実施することに決定（5月）</li> <li>▲ 「日本卓球協会神奈川県支部」発足（6月）</li> <li>▲ 県剣道連合会主催第1回団体優勝大会を横浜小学校で開催（7月）</li> <li>● YMCA体育部、デンマーク式基本体操の普及のため講習会を開催（7月）</li> <li>● 長崎県警察本部保安課、海水浴場に柵、浮標を設け、男女混泳を取り締まる（7月）</li> <li>● 早大球場で、早大二軍と新人の、わが国初の夜間試合が行われる（7月）</li> <li>▲ 第1回県下女子軟式庭球選手権大会始まる（9月）</li> <li>● 日体協会長岸清一、逝去。66歳（10月）</li> </ul>
-----------------------	---	--

<p>1934 (昭和9)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小泉又次郎市長就任（～昭和10）（5月）</li> <li>・ 三浦半島陸上競技クラブ第1回部内紅白対抗兼記録会を県横高女（現大津高）で開催（6月）</li> <li>・ 三浦郡連合青年団、第1回水上体育大会を長町築港内仮設プールで開催（8月）</li> <li>・ 市主催体操科研究会、諏訪小で開催（10月）</li> <li>・ 衣笠青年団ピンポン大会を自身番で開催（11月）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 小石川水道橋に出来上がった講道館新道場における鏡開き式で、柔道初の女子有段者3名の昇段式行われる（1月）</li> <li>▲ 丹沢山麓スキー場、ウィンタースポーツ界に新登場（2月）</li> <li>● 第10回極東選手権競技大会開催。日本優勝。満州国参加問題で21年の歴史ある「極東体育協会」解消（5月）</li> <li>▲ 「県バドミントン協会」発会式を兼ね、第1回競技大会開催（5月）</li> <li>● 第1回全日本レスリング選手権大会、東京YMCA体育館で開催（6月～7月）</li> </ul>
-----------------------	--	---

年代	横須賀の体育・スポーツ	国・県内の体育・スポーツ
		<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ ウインブルドン庭球選手権大会混合ダブルスに、三木竜喜、ラウンド（イギリス）と組んで優勝（7月）</li> <li>● 第1回日米対抗陸上競技会、東京、大阪で開催（9月）</li> <li>▲ 横浜小学校で第1回県下小学校剣道大会開催（9月）</li> <li>▲ アメリカンフットボール最初の国際試合が、神宮で、横浜外国人と日本学生連合軍との間で行われる（11月）</li> <li>● 「日本自転車競技連盟」発足（12月）</li> <li>▲ YMC A主催第1回県下ジュニアクラスバスケットボール選手権、YMC A室内コートで開催（11月）</li> <li>◆ 「国際バドミントン連盟」発足（－）</li> </ul>
1935 (昭和10)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市主催体操科研究会、長浦小で開催（2月）</li> <li>・ 横須賀角友会の有志らにより「横須賀相撲協会」発足（4月）</li> <li>・ 県下女子中等学校体育研究会、県横高女で開催（5月）</li> <li>・ 豊島小、県下9校の研究指定校となり「児童の体育及び保健衛生に関する研究」を推進（6月）</li> <li>・ 汐入小学校職員生徒120名、丹沢札掛付近でキャンプ実施（7月）</li> <li>・ 横須賀公正新聞社主催第1回横須賀市軟式野球大会開催（7月）</li> <li>・ 浦賀連合青年団、伊豆半島巡りキャンプを実施（8月）</li> <li>・ 第2回東郷杯記念招待水泳競技大会で長井小男子の部優勝（8月）</li> <li>・ 市主催体操科研究会、諏訪小で開催（10月）</li> <li>・ 東京麻布小学校で実施された全日本卓球選手権大会兼明治神宮体育大会で本市の杉本育子選手が優勝（11月）</li> <li>・ 神宮大会優勝の杉本育子選手、大会翌日、伏見宮殿下に招かれ、台覧試合を行う（11月）</li> <li>・ 「横須賀バレーボール協会」発足。会長に呉東忠助（11月）</li> <li>・ 岡本伝之助らが中心となって「横須賀市体育会」発足（11月）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▲ 神奈川県、県民の体力向上と体育の発展を図り、体育指導者講習会を企画（2月）</li> <li>◆ ベルリンで世界最初のスポーツテレビ定期放送開始（3月）</li> <li>▲ 「県陸上競技協会」発足（会長河野一郎）（3月）</li> <li>▲ 第1回県下陸上競技選手権大会開催（5月）</li> <li>▲ 「平塚体育協会」発足（6月）</li> <li>● 日比対抗陸上競技会、神宮競技場で開催。吉岡隆徳100mに10秒03の世界タイ記録を出す（6月）</li> <li>▲ 朝日新聞社主催第1回横浜市民相撲選手権大会開催（8月）</li> <li>● 第1回全日本学生ゴルフ選手権大会開催（9月）</li> <li>▲ 第1回全横浜野球大会、公園球場で開催（9月）</li> <li>▲ 花月園アイススケート場開設（10月）</li> <li>▲ 「横須賀市体育会」発足（11月）</li> </ul>
1936 (昭和11)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 鈴木斎次郎市長就任（～昭和13）（1月）</li> <li>・ 市主催体操科研究会、長浦小で開催（2月）</li> <li>・ 市民体育大会にバレーボール競技が加わる（3月）</li> <li>・ 市商業高、雨天体操場増設工事竣工（3月）</li> <li>・ 「横須賀陸上競技協会」発足（4月）</li> <li>・ 横須賀海軍工廠体育会主催の柔道大会（22団体参加）開催。優勝は砲術学校（10月）</li> <li>・ 第11回市民体育大会、旧三笠球場で開催（11月）</li> <li>・ 市主催体操科研究会、諏訪小で開催（12月）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▲ 厚走クラブ主催第1回アマチュア自転車競技大会、厚木町若尾グラウンドで開催（1月）</li> <li>● スtockホルムの世界女子スピードスケート選手権大会に滝三七子（4位）水谷妙子（5位）汾陽やす子（8位）箭瀬暢子の4選手参加（2月）</li> <li>● 「日本職業野球連盟」発足（2月）</li> <li>◆ 第4回冬季オリンピック（ガルミッシュ・パルテンキルヘン）開催。日本から25名参加（2月）</li> <li>● IOC会長バイエ・ラツール伯、オリンピック大会会場視察に来日（3月～4月）</li> <li>● 重量挙げ、初めて行われる（5月）</li> </ul>

年代	横須賀の体育・スポーツ	国・県内の体育・スポーツ
		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 体操教授要目改正（6月）</li> <li>◆ I O C 総会で、15年の第12回オリンピック大会開催地、東京に決定（7月）</li> <li>◆ 第11回夏季オリンピック大会（ベルリン）開催。参加国49参加選手4,069名、日本11競技に180選手参加。陸上三段跳・田島直人、マラソン・孫基禎、水泳1,500m・寺田登、平泳ぎ・葉室鉄夫、男子800mR、女子200m平泳ぎ・前畑秀子の6種目で金メダル獲得（8月）</li> <li>▲ 厚木高女弓道部、翌年から弓道が女学校の正科となるため、四間と五間の弓道場を新設（9月）</li> <li>● 「大日本アマチュア・フェンシング協会」発足（10月）</li> <li>▲ 横浜公園に県立武道館創設（11月）</li> <li>▲ 川崎市で男子生徒1,000名による相撲体操の実習を行う。師範は錦華山（12月）</li> <li>● 「東京オリンピック組織委員会」設立（12月）</li> <li>● 日体協会長、大島又彦（昭和11～12）</li> </ul>

1937 (昭和12)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「横須賀剣道有段者会」発足（3月）</li> <li>・ 馬渕ろう学校主催、横須賀柔道有段者会後援でヘレンケラー女子講演を行う（5月）</li> <li>・ 海軍記念日市内連合運動会、海兵団で開催（5月）</li> <li>・ 開成中、三浦中、横商中三校OBが陸上競技普及のための会合を持つ（6月）</li> <li>・ 横須賀市主催臨海保養所、大津曲矢海岸に開所（7月）</li> <li>・ 長井尋常高等小学校、長井・佐島間遠泳実施（7月）</li> <li>・ 横浜YMCA主催県下4人制バレーボール大会に本市の横廠軍が優勝（－）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▲ 「日本自転車競技連盟神奈川県支部」発足（2月）</li> <li>▲ 横浜商高、プール完成（5月）</li> <li>● 神田一ツ橋の国民体育館開館（5月）</li> <li>● 西宮球場（二階観覧席付）開場（5月）</li> <li>▲ 「鎌倉体育連盟」発足（5月）</li> <li>▲ 平塚海岸に市営プール完成。大人用1,000㎡小人用200㎡、婦人用2,000㎡（7月）</li> <li>▲ 県青年体力章制定（7月）</li> <li>● 後樂園球場（2階観覧席）開場（9月）</li> <li>▲ 第11回県下女子中等学校陸上競技大会、非常時を反映し、新たに弓道登場（10月）</li> <li>● 第1回全日本ハンドボール選手権大会、東京体育研究所で開催（11月）</li> <li>▲ 川崎市教育委員会主催全市立中等学校小学校</li> <li>▲ 連合国民精神興揚大会、川崎中学校で開催（11月）</li> <li>● 「日本自転車連盟」発足（12月）</li> <li>▲ 横浜市に体育課ができる（12月）</li> <li>● 日体協会長、下村宏（昭和12～17）（－）</li> <li>▲ 横浜ヨットハーバー完成（－）</li> </ul>
----------------	--	--

1938 (昭和13)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体操研究会、高坂小で開催。（6月）</li> <li>・ 県教育会主催武道講習会、諏訪小及び武道館で5日間開催。修了者50余名（7月）</li> <li>・ 市主催体操科実地授業並びに研究会、坂本小で開催（7月）</li> <li>・ 久野工市長就任（～昭和16年）（9月）</li> <li>・ 開成中、三浦中、横商中三校OB主催により三校対抗陸上競技会を逸見練兵場で開催（9月）</li> <li>・ 開成中、三浦中、横商中、横須賀中OB有志らにより「三浦半島中等学校OB陸上競技連盟」発足。会長に岡本慶次郎（11月）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 厚生省が新設され、運動競技は学校体育を除き、文部省から厚生省に移管（1月）</li> <li>● ハンガリーのサバドス、ケレン両選手を招いて日比谷公会堂で、わが国初の国際卓球試合が行われる（1月～2月）</li> <li>▲ 川崎市連合青年団水泳部、銃後国民の体位向上を目的として、第11回寒中水泳大会を開催（1月）</li> <li>● 関東ボブスレー選手権大会、長野県岡谷で開催。わが国初のボブスレー競技会（2月）</li> <li>▲ 県下女子中等学校職員のための薙刀講習会を16日間開催（3月）</li> <li>▲ 第1回神奈川県中等学校対抗武装行軍大会行われる（4月）</li> <li>● I O C 委員嘉納治五郎、カイロの国際オリンピ</li> </ul>
----------------	---	--

年代	横須賀の体育・スポーツ	国・県内の体育・スポーツ
		<p>ック委員会総会に出席の帰途、太平洋上氷川丸の船中で逝去。78歳（5月）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● オリンピック東京大会返上と決定（7月）</li> <li>● 天野富勝、1,500m自由形で18分58秒8の世界記録を樹立（8月）</li> <li>▲ 横浜市、国民精神作興市民体育祭を開催（11月）</li> <li>▲ 県議会で女子中等学校武道指導費が予算計上される（11月）</li> <li>▲ 横浜商高、集団勤労奉仕を始める。箱根報恩寮では、毎朝起床後、木剣体操、建国体操を実施（－）</li> </ul>

<p>1939 (昭和14)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 建国祭を記念して、第1回神社参拝継走大会を開催。以後、19年まで継続（現在の市民駅伝）（2月）</li> <li>・ 市教員体育大会、鶴久保小で開催（2月）</li> <li>・ 横須賀有段者会主催による柔道講習会を開催。講師は三船九段（7月）</li> <li>・ 市主催市内学童排球大会、市高等女学校で開催（7月）</li> <li>・ 長井尋常高等小学校尋常4年以上有志、小田和湾遠泳横断実施（7月）</li> <li>・ 第1回三浦半島中等学校陸上競技大会を海軍逸見練兵場内グラウンドで開催。参加校は、8校の他、青年学校8校、市内小学校15校（10月）</li> <li>・ 県下高等学校合同体操大会開催（10月）</li> <li>・ 横須賀市教職員体育大会、鶴久保小で開催（11月）</li> <li>・ 市内のバレーボール全横敵軍、県大会で優勝し、第10回明治神宮大会に出場する（－）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▲ 日本精神発揚週間始まり、神誇奉載皇威宣揚祈願巡拝リレー挙行。後に、建国祭国威宣揚武運長久祈願神社参拝継走大会となる（2月）</li> <li>● 第1回全日本ボブスレー選手権大会が札幌盤渓沢で行われ、北大組優勝（2月）</li> <li>▲ 第1回県スキー大会を志賀高原で開催（3月）</li> <li>● 文部省、小学校武道教授要目制定。5・6年と高等科男子に柔・剣道を課す（5月）</li> <li>● 第1回関東地方青年学校国防体育大会開催（5月）</li> <li>▲ 小学校対抗球技大会、時局がらボールの痛むバレー、バスケットを廃し、古いボールで間に合うハンドボールを採用（6月）</li> <li>▲ 県、柔・剣道が小学校で正科となったため指導者講習会を開催（7月）</li> <li>● 第1回日満華交歓競技大会、新京、奉天で開催される（9月）</li> <li>● 文部省小学校武道指導細目を定め実施。留意事項、教材配当表指示（9月）</li> <li>▲ 第16回横浜市民体育大会、時局がら相撲を加える（10月）</li> <li>● 体力章検定実施(厚生省)（10月）</li> <li>▲ 「県体育協会」発足(初代会長飯沼知事)（10月）</li> <li>▲ 県下中等学校合同体操大会開催（10月）</li> <li>▲ 「県体育協会」発会式を挙行（11月）</li> <li>▲ 横浜YMCA対横浜外国人スポーツクラブのバドミントン試合開催（12月）</li> <li>▲ 「愛甲郡体育連盟」発足（－）</li> </ul>
------------------------	---	--

<p>1940 (昭和15)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 横須賀有段者会主催による紀元2600年奉祝記念柔道大会が関東7県、静岡県及び地元有段者が参加して開催される（3月）</li> <li>・ 紀元2600年を奉祝し、第1回三浦半島一周県下中等学校駅伝競走大会を開催(12チーム参加、コースは市役所－逗子－久留和－長井－津久井－浦賀－市役所)現在の三浦半島駅伝の前身（5月）</li> <li>・ 市主催体操講習会、5日間諏訪小で開催（7月）</li> <li>・ 県巡回指導体操科研究会、高坂小で開催（7月）</li> <li>・ 市主催体操科研究発表会、武山小で開催（7月）</li> <li>・ 市主催学校体操科講習会(後期)、諏訪小で開催（8月）</li> <li>・ 青年学校武装競走大会を開催（9月）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 第4回冬季オリンピック大会(札幌)、日中戦争のため変更。3会場変更になり、第二次世界大戦のため中止になる（2月）</li> <li>● 国民体力法公布(17～18歳男子の身体検査の義務化)（4月）</li> <li>▲ 体力章検定制県下中学校で実施（4月）</li> <li>▲ 横浜旅行クラブ、第1回横浜市民競歩大会を開催（5月）</li> <li>▲ 「県バドミントン協会」発足（5月）</li> <li>● 東亜競技大会、東京、大阪で開催。日本、満州、フィリピン、中国、ハワイから選手700余名参加（6月）</li> <li>● 紀元二千六百年奉祝東亜競技大会、神宮外苑で</li> </ul>
------------------------	--	---

年代	横須賀の体育・スポーツ	国・県内の体育・スポーツ
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 紀元 2600 年を奉祝して、横須賀市主催による第 1 回県下学童相撲大会を鶴久保小学校で開催（9 月）</li> <li>・ 紀元 2600 年奉祝横須賀市民総合体育大会神社参拝強歩大会を開催（11 月）</li> <li>・ 市主催奉祝少年少女排球大会、市立高等女学校で開催（12 月）</li> <li>・ 「横須賀市体育会」を「横須賀市体育協会」に改称。会長は市長の久野工（－）</li> </ul>	<p>開催（6 月）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 戸田橋漕艇コース（10 月）馬事公苑（9 月）開場</li> <li>● 国民体力法、施行（9 月）</li> <li>▲ 横浜クラブ対ドイツチームの親善ホッケー試合開かれる。戦争中も続行（11 月）</li> <li>▲ 神奈川県、138 名の体育委員常置（－）</li> <li>▲ サッカー用具配給制となる（－）</li> <li>◆ 第 12 回東京オリンピック大会代替都市ヘルシンキ、戦争のため中止（－）</li> <li>● 国防競技として、「手榴弾投擲突撃」「障害物通過競走」「土嚢運搬競走」等が行われる（－）</li> </ul>

1941 (昭和 16)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体操科研究授業、市立高女で開催（1 月）</li> <li>・ 岡本伝之助市長就任（～昭和 18）（2 月）</li> <li>・ 体操指導大会、長浦国民学校で県指導員指導により開催（5 月）</li> <li>・ 市内の体育関係者による湘南体育研究会、未明の大楠山頂で暁天体操会を実施。参加者は 40 名（8 月）</li> <li>・ 湘南遊泳教育研究会を馬堀海岸水交社遊泳場で開催（8 月）</li> <li>・ 第 1 回三浦半島青年相撲大会を鶴久保国民学校土俵で開催。参加 19 チーム（10 月）</li> <li>・ 市学校職員報国団主催体育大会、追浜国民学校で開催（11 月）</li> <li>・ 明治神宮体育大会を除き全国的な競技大会は中止（－）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▲ 厚生省、県共催国民体育指導者地方修練会、足柄下郡吉浜海岸で開催（2 月）</li> <li>● 岸記念体育会館落成（3 月）</li> <li>● 交通量制限により全国的な大会中止。この年第 12 回神宮大会だけ開催（3 月）</li> <li>▲ 県学校報国団第 1 回野球大会開催（3 月）</li> <li>▲ 大日本レスリング協会、横浜で公開試合を開く。引続き YMCA で講演会を開催（4 月）</li> <li>▲ 第 1 回県下学校報国団マラソン大会、横浜、鎌倉、平塚の 3 会場で開催（5 月）</li> <li>▲ 第 1 回県下青年団体育大会、日本町国民学校で開催（9 月）県学校報国団主催第 1 回県下中等生相撲大会、湘南中学校で開催（10 月）</li> <li>▲ 青年学校教育を昼間教育に転換させることを各校に通達。体育と教練を強調（11 月）</li> <li>▲ 県蹴球協会主催第 1 回県下中等学校少年部蹴球大会、川崎中学校で開催（11 月）</li> <li>● 「大日本学徒体育振興会」発足（12 月）</li> <li>● 第二次世界大戦始まる（12 月）</li> </ul>
-----------------	---	--

1942 (昭和 17)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 追浜国民学校、体育研究発表会を開催（2 月）</li> <li>・ 横須賀市・横須賀市体育協会主催国民学校団体競歩大会開催。20 校、児童 700 名参加（3 月）</li> <li>・ 第 1 回横須賀市青年学校並びに三浦半島中等学校射撃大会を不入斗陸軍射撃場で開催（5 月）</li> <li>・ 第 1 回横須賀市青少年団健歩大会開催（5 月）</li> <li>・ 横須賀市内の国民学校体育主任の会、建国体操について研究会を開催（7 月）</li> <li>・ 第 1 回青年学校射撃大会開催（不入斗陸軍射撃場）（7 月）</li> <li>・ 市主催学童相撲大会開催（7 月）</li> <li>・ 全国健民運動週間として、市主催による全国中継放送ラジオ体操の会、三笠艦前広場に 3,000 人を集めて開催（8 月）</li> <li>・ 市学校職員報国団主催第 2 回体育練成大会、追浜国民学校で開催（10 月）</li> <li>・ 第 1 回三浦半島一周練成大会（42 km）は 2,000 人が参加。市役所前をスタートして盛大に開催（11 月）</li> <li>・ 太平洋戦争開戦記念の武装行軍競走（6 km）開催。1 位開成中（30 分 45 秒）（12 月）</li> <li>・ 国民学校体操科教授要目に伴う伝達講習会、長浦国民学校で、本市指導員により開催（12 月）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▲ 第 1 回平塚市民スキー大会、湯沢スキー場で開催（2 月）</li> <li>● 戦時となりスポーツに重圧が加わり、武道総合団体「大日本武徳会」発足（3 月）</li> <li>● 「大日本体育協会」は改組され、新たに政府の外部団体たる「大日本体育会」が生まれる（4 月）</li> <li>● 学徒体育振興会主催により全国高等学校体育大会（7 月）女子学徒総合体育大会（7 月）全国男子中等学校体育大会、全国男子師範学校体育大会（8 月）開催</li> <li>● 満州建国十周年慶祝東亜競技大会を挙行（8 月）</li> <li>● 国民学校体操科教授要目制定（小学校武道指導要目廃止）（9 月）</li> <li>▲ 第 1 回県下国民学校、鎌倉師範報国団主催で開催企画（10 月）</li> <li>● 厚生省主催になり、「明治神宮国民体育大会」から「明治神宮国民練成大会」になる。第 13 回明治神宮国民練成大会、開催される（11 月）</li> <li>▲ 大日本体育協会主催日独バレーボール大会（ドイツは横浜寄港中のドイツ艦隊チーム）開催（－）</li> <li>▲ 神奈川県体育指導委員を任命（－）</li> </ul>
-----------------	---	---

年代	横須賀の体育・スポーツ	国・県内の体育・スポーツ
	<ul style="list-style-type: none"> <li>市主催体操講習会、高坂国民学校で開催（12月）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▲ 県学校報国団主催第1回県中等学校射撃大会、横浜射撃場で開催（－）</li> </ul>

1943 (昭和18)	<ul style="list-style-type: none"> <li>梅津芳三市長就任（～昭和22）（5月）</li> <li>「体育協会」を廃止し、「大日本体育会神奈川県支部横須賀支所」結成。支所長には当時の市長、梅津芳三（5月）</li> <li>「三浦半島陸上競技連盟」が解消し、「体育会横須賀支所」に加盟し「陸上競技班」になる。班長は岡本慶次郎（5月）</li> <li>第1回横須賀市学童相撲大会を諏訪国民学校で開催。参加26校（7月）</li> <li>大日本体育会横須賀支所主催の第1回三浦半島女子中等学校陸上競技大会開催（10月）</li> <li>汐入国民学校、同校独創による体操研究会を開き、裸体操を行う（12月）</li> <li>学生、生徒の大会は廃止（－）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▲ 川崎市体育協会主催寒中水泳大会の競技種目に武装横断あり（1月）</li> <li>● 日本野球連盟、ユニフォームを改革（軍服式）（3月）</li> <li>● 大日本武徳会の協力団体として「大日本剣道会」設立（3月）</li> <li>● 大日本体育会、国民体力錬成目標実施要綱制定（3月）</li> <li>▲ 県下中等学校野球部長会議、春季大会の廃止を決定。練習や学校間の試合は自由（3月）</li> <li>● 中学校教科教授及び修練指導要目決定（3月）</li> <li>● 内務・厚生省、健民運動組織要綱を通牒（4月）</li> <li>● 文部省、東京大学野球連盟の解散を要望し決定（4月）</li> <li>● 中等学校女子、師範学校女子に「なぎなた教授要綱」定められる（4月）</li> <li>▲ 戦時学徒体育訓練実施要綱を定め通達（4月）</li> <li>▲ 「神奈川県体育協会」が「財団法人日本体育会神奈川県支部」になる（5月）</li> <li>● 厚生省、国民鍛錬行事要綱決定（5月）</li> <li>● 文部省、学徒武道試合綱領、同剣道・柔道試合規程並びに指導要領を定める（5月）</li> <li>● 文部省、学徒夏季心身鍛錬実施に関する件を通牒（6月）</li> <li>● 閣議、学徒戦時動員体制確立要綱を決定公布。学生・生徒の体育大会廃止（6月）</li> <li>▲ 銃後女性の体力錬成のため、女子強歩会開催（7月）</li> <li>● 「健民修練所」いっせいに開所。筋骨薄弱者、結核要注意少年を収容（8月）</li> <li>● 国民心身鍛錬健民運動実施（8月）</li> <li>● 文部省、学徒体育大会一切禁止する（9月）</li> <li>● 厚生省、女子体力章検定実施（9月）</li> <li>● 学徒体育大会一切禁止（9月）</li> <li>▲ 第3回県青年団国防訓練大会の種目に手榴弾投げ、重量運搬などの種目あり（この頃の競技会で同様の種目を行う）（9月）</li> <li>● 第14回明治神宮国民錬成秋季大会中央大会開催（11月）</li> <li>● 武道章検定実施要綱及び細目制定（11月）</li> <li>▲ 県下軟式庭球大会、山手競技場で開催（11月）</li> <li>▲ 川崎市の体力検定会、本年から女子の検定も行うことになる（11月）</li> <li>● 文部省、学徒冬季心身鍛錬に関する件を通牒（12月）</li> <li>▲ 県国民体育指導者検定委員会、横浜市の申請により（町の体育指導者）663名を任命（12月）</li> <li>▲ 県下の各ゴルフ場、続々と農園化（12月）</li> <li>● 通信訓練（手旗信号・モールス信号）が体育科教材となる（12月）</li> <li>● 戦争のため競馬の開催中止（12月）</li> </ul>
----------------	--	---

年代	横須賀の体育・スポーツ	国・県内の体育・スポーツ
1944 (昭和 19)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第6回神社参拝継走大会、コースを変更して(7区間)実施。この大会で中止となる(2月)</li> <li>・ 中学校体錬科授業要目伝達講習会市第一高で開催(3月)</li> <li>・ 学校体錬科主任会、浦郷国民学校で開催(4月)</li> <li>・ 国民学校体錬科武道(薙刀)教授要綱伝達講習会、3日間実施(7月)</li> <li>・ 体操科研究発表会、武山国民学校で開催(7月)</li> <li>・ 武山国民学校、体錬科研究発表会開催(7月)</li> <li>・ 戦争激化により各種大会は開催禁止になる</li> <li>・ 市民大会も同様。日本古来の武術と国防訓練のみが行われる(-)</li> <li>・ 体育科が体錬科になる(-)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「日本野球連盟」が「日本野球報国会」と改称(1月)</li> <li>● 女子体力章および武道章制定(2月)</li> <li>▲ モンペ姿の川崎女子青年団行軍競争開催(2月)</li> <li>● 「中等学校体錬科教授要目」制定。「学校体操教授要目」廃止(3月)</li> <li>▲ 県、国民学校体錬科武道(薙刀)教授要目を定め、児童の心身鍛錬を図る(3月)</li> <li>● 中学生の勤労働員大綱決定(3月)</li> <li>● 文部省、教練の充実強化を指示(4月)</li> <li>● 文部省に学徒動員本部を設置(4月)</li> <li>● 文部省、戦時学徒体育訓練実施について通達(4月)</li> <li>● 厚生省、日常心身鍛錬指導方針を決定通達(5月)</li> <li>● プロ野球東西対抗、空襲のため中止(後楽園)(6月)</li> <li>● 文部省、学徒勤労令・女子挺身隊勤労令、各公布(8月)</li> <li>▲ 夏、片瀬、江ノ島、錬成のための海水浴場と化す(8月)</li> <li>● 東部軍、運動場(後楽園)全部を接收(9月)</li> <li>● 大日本体育会、農民体操を発表(10月)</li> <li>● 日本野球報告会、プロ野球休止声(11月)</li> <li>● 大日本体育会、優勝杯を軍事資材として献納(11月)</li> <li>▲ 県、学徒勤労体操実施(12月)</li> <li>◆ 第13回オリンピックロンドン大会開催の予定、第二次世界大戦のため中止(-)</li> </ul>

1945 (昭和 20)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各協会、連盟、クラブの活動も休止状態となる(2月)</li> <li>・ 横須賀市主催体育科講習会、逗子国民学校で開催(6月)</li> <li>・ 戦後、大日本武徳会の解散により本市の武道協会廃絶の状態になるが、公郷弓道場のみ継続される(11月)</li> <li>・ 「横須賀弓道連盟」(37年、横須賀弓道協会に改称)発足(-)</li> <li>・ 戦後の学校における体育指導の充実を図るため、運動場の確保や機材用具の確保に努める(-)</li> <li>・ 教育部社会教育課で体育行政を行う(-)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 学徒体錬特別要綱制定(4月)</li> <li>● 戦時教育令公布。学徒は勉学停止勤労一本となる(5月)</li> <li>● 文部省体育局一時廃止(7月)</li> <li>● 戦争終結に伴う戦時関係諸訓令、学徒隊に関するものを全廃(学校教練教授要目他18件)(8月)</li> <li>● 文部省に体育局復活(9月)</li> <li>● 文部省、新日本建設の教育方針を公布(体育・スポーツ・学校保健を示す)(9月)</li> <li>● 関西ラグビー・クラブ対三高の試合が京大で行われる。競技復活のさきがけ(9月)</li> <li>● 神宮外苑野球場・競技場、進駐軍に接收される(9月)</li> <li>● 厚生省、体育運動実施に関する方針を通牒(10月)</li> <li>● 文部省、柔・剣道教練の廃止徹底について指示(10月)</li> <li>● 学徒動員令廃止(10月)</li> <li>● プロ野球復活(10月)</li> <li>● 文部省、武道の取り扱いに関する件を通牒。課外で実施することも禁止(11月)</li> <li>● 「日本野球連盟」復活(11月)</li> <li>▲ 「足柄上郡陸上競技協会」発足(11月)</li> <li>● ボートレース隅田川で復活(11月)</li> </ul>
-----------------	--	--

年代	横須賀の体育・スポーツ	国・県内の体育・スポーツ
		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 戦後最初のスポーツ放送、秋場所大相撲を両国国技館から中継(大相撲復活) (11月)</li> <li>● 復活陸上競技会、東大で開かれ、山内リエ好記録を出す (12月)</li> <li>▲ 横浜医専コートでバスケットボールの練習を始める (－)</li> <li>▲ 「県中等学校野球連盟」復活 (－)</li> </ul>

1946 (昭和 21)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 横中バレーボール部OBで組織したチームYMKCができ、バレーボール協会再建の足がかりとなる (1月)</li> <li>・ 戦後の学校体育のあり方についての研究が、衣笠小を中心に全市に進められる (2月)</li> <li>・ 母親学級におけ母子体操講習会始まる (2月)</li> <li>・ 「横須賀卓球協会」発足。会長、常葉三俊(4月)</li> <li>・ 「学校体育指導員制度」誕生。指導員任命される (5月)</li> <li>・ 「横須賀軟式野球連盟」再発足 (5月)</li> <li>・ 新定体操指導者講習会開催 (6月)</li> <li>・ 「横須賀バレーボール協会」復活。会長に榊原初太郎 (7月)</li> <li>・ 水泳愛好家の同土結合で「横須賀水泳協会」が復活。会長に鈴木角蔵。馬堀海岸で学童水泳教室開催 (8月)</li> <li>・ 第1回横須賀市少年野球大会開催 (8月)</li> <li>・ 第1回神奈川県対抗陸上競技大会に参加 (9月)</li> <li>・ 「横須賀バスケットボール協会」発足。会長に石渡直治 (10月)</li> <li>・ 戦後初めての市民体育大会 (第19回市民体育大会) が開催される (10月)</li> <li>・ 「横須賀陸上競技協会」再発足 (－)</li> <li>・ 第1回町内会対抗市内一周駅伝大会開催 (－)</li> <li>・ 第1回横須賀陸上競技選手権大会開催。現在に至る (－)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 体育行政を文部省に一元化 (1月)</li> <li>● 「日本相撲連盟」発足 (1月)</li> <li>● 「日本バドミントン協会」設立 (2月)</li> <li>▲ 「県体操協会」発足 (2月)</li> <li>▲ 横浜野球協会、横浜市体育協会、横浜市民軟式野球大会の復活を決定 (3月)</li> <li>● 各種競技大会復活する。ラグビー東西対抗 (3月)、全日本水上競技大会(8月宝塚)、陸上競技東西対抗(10月神宮)開催。</li> <li>● プロ野球再開 (4月)</li> <li>● 東京六大学野球復活 (5月)</li> <li>▲ 「県卓球協会」発足 (6月)</li> <li>▲ 第28回全国中学校野球大会県予選始まる (7月)</li> <li>▲ 「小田原体育連盟」発足。式典後各種運動を実施 (7月)</li> <li>● 全国中学校野球大会復活 (8月)</li> <li>● 第1回国民体育大会夏季大会(宝塚)、秋季大会(京阪神)で開催(8月・11月)</li> <li>● 「日本フェンシング協会」発足 (8月)</li> <li>● 文部省に学校体育研究委員会設置 (9月)</li> <li>▲ 「県軟式庭球連盟」復活 (9月)</li> <li>▲ 第1回郡市対抗陸上競技大会開催 (9月)</li> <li>● 「大日本武徳会」解散 (9月)</li> <li>● 日本国憲法公布 (10月)</li> <li>● 体操科授業要目編纂が通達される (10月)</li> <li>▲ 県教育部に体育課を設置 (11月)</li> <li>▲ 「関東ラグビー・フットボール協会神奈川支部」設立 (11月)</li> <li>● 文部省、体育指導員設置を通知 (11月)</li> <li>▲ 湘南中学校、第1回国民体育大会、サッカー競技少年の部、優勝(11月)</li> <li>● 「日本学生野球協会」発足 (12月)</li> <li>● 「日本軟式庭球連盟」復活 (12月)</li> <li>● 「日本体育指導者連盟」発足 (12月)</li> <li>● 大日本体育会理事会、日本オリンピック委員会設立を決定 (12月)</li> <li>● 国民体力法による体力検査等停止 (－)</li> <li>▲ 「県バレーボール協会」復活 (－)</li> <li>● 第1回全日本バスケットボール選手権大会開催 (－)</li> <li>● 「大日本軟式野球連盟」発足 (－)</li> <li>▲ 「県陸上競技協会」復活。第1回陸上競技大会開催 (－)</li> <li>▲ 「藤沢市体育連盟」発足 (－)</li> <li>▲ 「県自転車連盟」発足 (－)</li> <li>▲ 第1回神奈川県野球大会開催 (－)</li> <li>● 日体協会長、平沼亮三(昭和 21)</li> </ul>
-----------------	--	--

年代	横須賀の体育・スポーツ	国・県内の体育・スポーツ
1947 (昭和 22)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第1回県下郡市対抗三浦半島一周駅伝競走大会が米海軍横須賀基地司令官杯(デッカー杯)をかけて開催される。藤沢市優勝(2月)</li> <li>・ 衣笠運動場竣工(3月)</li> <li>・ 太田三郎市長就任(～昭和24)(4月)</li> <li>・ 「学校体育指導者連盟」結成。会長常葉三俊(5月)</li> <li>・ 第1回県下郡市対抗駅伝競走大会(川崎-湯河原)に出場(5月)</li> <li>・ 戦後復活の第1回三浦半島庭球(軟式)選手権大会開催(5月)</li> <li>・ 東日本軟式庭球成年女子(現一般女子)大会を県横高女コート(現大津高)で実施(6月)</li> <li>・ 県下小・中学校陸上競技大会(別名チョコレート大会)県横高女で開催(7月)</li> <li>・ 第1回マッカーサー杯卓球大会(西の宮)に本市から常葉三俊総監督と村田敏子、杉本育子が県代表として出場(8月)</li> <li>・ 第1回マッカーサー杯軟式庭球全国都市対抗大会に関東代表として出場(8月)</li> <li>・ 第20回市民体育大会開催(10月)</li> <li>・ 市内小・中・高教職員体育大会開催(陸上、卓球、バスケットボール、サッカー、軟式野球)(11月)</li> <li>・ 船越小創立60周年記念事業として講堂を体育館に改造し、バスケットボール用設備を設置(11月)</li> <li>・ 市第二高女に講堂兼用の体育館竣工(11月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 東京・箱根間関東学生駅伝競走大会復活(1月)</li> <li>● 第2回国民体育大会冬季大会(スキー・スケート)を開催。この大会は、欠回になり第3回に組み込まれる(1月)</li> <li>▲ 「川崎市体育協会」発足(2月)</li> <li>● 文部省、学徒の対外試合について通達(3月)</li> <li>▲ 戦後初の県スキー大会、赤倉で開催(3月)</li> <li>● 選抜中等学校野球復活(3～4月甲子園)</li> <li>● 教育基本法、学校教育法公布(3月)</li> <li>● 新学校制度(6・3・3・4制)制定(3月)</li> <li>● 選抜中等学校野球復活(第19回)(4月)</li> <li>● 野球統制令廃止(5月)</li> <li>▲ 郡市対抗駅伝競走大会始まる(5月)</li> <li>▲ 神奈川県バドミントン協会発足(5月)</li> <li>● 文部省、学校体育指導要綱を定める。小・中の体育150時間に決定(体錬科→体育科)(6月)</li> <li>▲ 「神奈川県中学校体育指導者連盟」(県中体連)発足(6月)</li> <li>▲ 「県高体連」、「県体育指導者連盟」として発足。事務局を体育課に置く(6月)</li> <li>● 日本学生陸上競技大会復活(7月神宮)</li> <li>● 古橋400m自由形に4分38秒4の世界記録をつくり、自由形競泳界に君臨(8月)</li> <li>▲ 第1回県下中学校ハンドボール選手権大会開催(9月)</li> <li>▲ 神奈川県実業団体育連盟発足(10月)</li> <li>● 第2回国民体育大会(石川)開催(10月)</li> <li>● 全日本陸上競技選手権大会、八幡山で開催。地方開催のはじめ(10月)</li> <li>● 「日本レクリエーション協会」発足(10月)</li> <li>● 第1回全国レクリエーション大会開催(10月)</li> <li>● 東京ラグビー場(11月)、パレス庭球コート(11月)竣工</li> <li>● 大学体育、正課になる(12月)</li> <li>● 文部省、視学制度廃止。指導主事設置(一)</li> <li>▲ 「やましたマラソン」始まる(一)</li> <li>▲ 第1回県下体操選手権大会開催(一)</li> <li>▲ 県初の女子ホッケーチーム、立野高に誕生(一)</li> <li>▲ 横浜市三ツ沢にスポーツセンターができる(一)</li> <li>◆ 「国際バレーボール連盟(FIVB)」設立(一)</li> <li>● 「日本洋弓会」発足(一)</li> <li>● 日体協会長、東龍太郎(昭和22～33)(一)</li> </ul>
1948 (昭和 23)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 横須賀市体育協会長に軟式庭球協会長の谷川武、副会長に陸上競技協会長の岡本慶次郎が就任(前会長は市長)(4月)</li> <li>・ 横須賀山岳協会・スキー協会の母体である「横須賀スキー山岳協会」発足。会長、笹口晃(5月)</li> <li>・ 市排球協会主催新生中学校バレーボール講習会開催(5月)</li> <li>・ 第2回マッカーサー杯軟式庭球京都大会に本市代表の森、岡野、白戸、岩井、篠原、秋沢ら出場。ブロック優勝を果たす(8月)</li> <li>・ 横須賀水泳協会主催の第1回三浦・横須賀地区水</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 文部省に体育振興委員会設置(1月)</li> <li>● フットボール試合、神宮で行われる(1月)</li> <li>◆ 第5回冬季オリンピック大会(サンモリッツ)開催。参加国28、参加数669名。日本招待されず(2月)</li> <li>● 文部省、学徒の対外試合について通達(小学校は校内、中学校は宿泊を要しない範囲、高校は地方大会(全国大会は年1回程度)、にそれぞれと定めること(3月)</li> <li>▲ 「足柄上郡体育協会」発足(3月)</li> <li>● 教育基本法公布(4月)</li> </ul>

年代	横須賀の体育・スポーツ	国・県内の体育・スポーツ
	<p>泳選手権大会を関東自動車プールで開催（8月）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 不入斗中卓球部、県大会、男子団体優勝（8月）</li> <li>・ 第2回マッカーサー杯(庭球)京都大会に、本市代表として、森、岡野、白戸、岩井、篠原、秋沢らが出場し、ブロック優勝する（8月）</li> <li>・ 久里浜小で体育科の経営等について研究会を開催（11月）</li> <li>・ 武山小、鶴久保小、長浦小が体育研究発表会開催（12月）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 学校改革による新制高等学校発足（4月）</li> <li>▲ 「高座郡体育協会」発足（4月）</li> <li>▲ 県下高校に定時制設置（4月）</li> <li>● 東京でフェンシング、剣道交歓試合として戦後初の剣道大会を関東配電本社道場で開催（5月）</li> <li>● 武道館、戦後第1回柔道選手権大会を開催（5月）</li> <li>▲ 横浜で初めての夜間野球試合、慶応と立教によりゲーリック球場で開催（6月）</li> <li>● 「全国高等学校体育連盟」発足（6月）</li> <li>● 教育委員会法公布（7月）</li> <li>▲ 県実業団柔道連盟結成記念大会、横浜公園旧音楽堂で開催。戦後県下初の大会（7月）</li> <li>▲ 県下8市4郡対抗陸上競技大会、川崎富士見グラウンドで開催（7月）</li> <li>▲ 第1回県下新制高校水泳大会女子部大会、逗子開成プールで始まる（7月）</li> <li>● 競馬国営法制定（7月）</li> <li>◆ 第14回夏季オリンピック大会（ロンドン）開催。参加国59、参加選手4,698名。日本招待されず（8月）</li> <li>▲ 県相撲協会発足記念相撲大会開催（8月）</li> <li>▲ 県教委体育課、「体育の手ほどき」を県立横浜第一女子高校で開催（8月）</li> <li>▲ 第1回県実業団野球大会、川崎市富士見球場で開催（8月）</li> <li>● 文部省、「学校体育の手引き」発行（8月）</li> <li>▲ 県教委主催第1回夏季体育講座開催「学校体育指導の参考小学校編及び中学校編」作成（8月）</li> <li>● 古橋広之進、1,500m自由形で世界新（8月）</li> <li>● 学制改革により「中等学校優勝野球大会」が「高校選手権」と改称（8月）</li> <li>▲ 県柔道連盟主催県下各都市選手権争奪試合、鶴見花月園で開催（9月）</li> <li>▲ 藤沢市営競技場竣工（9月）</li> <li>▲ 第3回東口杯争奪全国青年府県対抗陸上競技大会、新装の藤沢市営競技場で開催。本県優勝（10月）</li> <li>▲ 「神奈川スポーツ旗」完成（10月）</li> <li>▲ 「県馬術協会」発足（10月）</li> <li>▲ 第4回国民体育大会秋季大会バレーボール競技、三ツ沢バレーコートで開催（10月）</li> <li>▲ 「県ハンドボール協会」発足（11月）</li> <li>▲ 「川崎市体育協会」発足（11月）</li> <li>▲ 県、教育委員会制度発足。体育課設置（11月）</li> <li>● 「大日本体育会」が「財団法人日本体育協会」に名称を変更（11月）</li> <li>● 自転車競技法により競輪発足（11月）</li> <li>● 第1回全日本バドミントン選手権大会開催（－）</li> <li>▲ 「県中等学校野球連盟」が「新制高校野球連盟」に改称（－）</li> </ul>
1949 (昭和24)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 横須賀スキー山岳協会から「スキー協会」「山岳協会」が分離独立する（1月）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 第4回国民体育大会冬季大会、札幌等で開催（1月）</li> </ul>

年代	横須賀の体育・スポーツ	国・県内の体育・スポーツ
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 横須賀市民スキー講習会を富士山麓太郎坊で開催（1月）</li> <li>・ 第1回市民スキー大会を赤倉で開催（2月）</li> <li>・ 川崎、横浜、横須賀3市縦断実業団駅伝大会開催（2月）</li> <li>・ 2月17日付け本県軍政部司令部からの通牒で、学校体育施設の使用許可に付き制限（2月）</li> <li>・ 船越小、県指定体育研究発表会開催（2月）</li> <li>・ 小原台ゴルフ場設置計画に対し、地元農地委員ら、ゴルフ場実現陳情書をマッカーサー元帥らに提出（4月）</li> <li>・ 「横須賀自転車協会」発足（4月）</li> <li>・ 「横須賀市小学校体育研究会」発足。初代会長、若命勇次郎（4月）</li> <li>・ 学校体育指導者連盟を分離して小・中・高に独立（4月）</li> <li>・ 市内の各学校で体育科指導法の研究や発表が盛んになる（4月）</li> <li>・ 市主催学校体育授業参観を浦郷小他数校で実施（4月）</li> <li>・ 山崎小で市主催学校体育授業研究発表会を開催（5月）</li> <li>・ 船越小で市主催体操研究会を開催（6月）</li> <li>・ 石橋直次市長就任(昭和28)(7月)</li> <li>・ 第1回市内中学校ソフトボール大会開催。(市教育部主催)（7月）</li> <li>・ 国、県に合わせて「横須賀柔道有段者会」が「横須賀柔道会地区支部」になる。(8月)</li> <li>・ 三浦中卓球部、県大会男子団体で、2年連続優勝（8月）</li> <li>・ 米艦隊基地司令官デッカー少将の好意により、旧海軍航空隊跡の一部を運動公園として開放される（10月）</li> <li>・ 県主催の体育研究発表会を高坂小、葉山小で開催（11月）</li> <li>・ 追浜公園に木造スタンド設備の硬式野球場竣工。他に軟式球場2面、庭球コート4面、200mトラックの陸上競技場竣成（11月）</li> <li>・ ハイキング・レクリエーションが盛大に行われる（11月）</li> <li>・ 第1回市内一周中学校高等学校駅伝競走大会開催（1回～7回のコースは市役所－追浜－汐入－上町－衣笠－九里浜－浦賀－市役所）高校の大会は昭和34年11回大会まで継続。以降、「断郊競走大会」になる（－）</li> <li>・ 第1回基地従業員運動会が行われる(衣笠グラウンド)（－）</li> <li>・ 第1回中学校ソフトボール大会開催（市教育部主催）（－）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▲ 「県学校体育指導の参考（小・中編）」(昭和26年2月改訂)（1月）</li> <li>▲ 「県ソフトボール協会」発足（2月）</li> <li>▲ 「県実業団ラグビーフットボール連盟」発足（2月）</li> <li>● 文部省、教科書図書検定基準を定める（2月）</li> <li>● 「日本社会人野球協会」発足（2月）</li> <li>● 「日本ソフトボール協会」発足。全日本軟式野球連盟から分離独立（3月）</li> <li>● 国際オリンピックへの日本復活承認（4月）</li> <li>● 新制大学で体育が正課になる（4月）</li> <li>▲ 「県弓道連盟」発足（4月）</li> <li>▲ 健民課、レクリエーション講習会開催（4月）</li> <li>▲ 県保健体育課設立(31年10月改組)（4月）</li> <li>▲ 「県夜間高校体育連盟」発足（4月）</li> <li>▲ 県営野球場、保土ヶ谷に開設（5月）</li> <li>● 「日本弓道連盟」発足（5月）</li> <li>● 「日本柔道連盟」発足・柔道有段者会解消（5月）</li> <li>● 「日本スポーツ振興会議」創立（5月）</li> <li>● 中学校「体育科」が「保健体育科」になる。70時間授業実施（5月）</li> <li>● 高等学校「体育科」が「保健体育科」になる。「保健」「体育」の2教科になる（6月）</li> <li>▲ 「県高等学校体育連盟」発足。「県体育指導者連盟」を解消（6月）</li> <li>● 日本水泳連盟、国際水連復帰。戦後競技団体国際復帰のはじめ（6月）</li> <li>▲ 「神奈川県スポーツ振興会議」の設立を県体協理事会で決定（6月）</li> <li>● 保健体育審議会設置（7月）</li> <li>● 「日本体力医学会」創立（7月）</li> <li>● 古橋広之進、橋爪四郎ら6選手ロサンゼルスで開催の全米水上選手権に出場。古橋は400mに4分33秒3、800mに9分35秒5、1,500mに18分19秒の好記録を出し、橋爪も800m、1,500mの世界記録を破る（8月）</li> <li>▲ 第31回全国高校野球選手権大会で湘南高校優勝（8月）</li> <li>▲ 横浜野毛山プール開き挙行。全国女子高校東西対抗競泳大会開催（8月）</li> <li>▲ 県教委に健民課を置き、県民の体育促進が本格化する（8月）</li> <li>● 第4回国民体育大会夏季水上大会、新設の野毛山プールで開催。1,200人参加（8月）</li> <li>● 第4回国民体育大会夏季・秋季大会東京・神奈川で開催。本県は水泳、ヨット、バレーボール、体操の4種目を実施（9・10月）</li> <li>▲ 第1回県ソフトボール大会国民体育大会県予選を兼ねて開催（9月）</li> <li>▲ 神奈川体育館完成（10月）</li> <li>● 文部省、学習指導要領小学校体育編、制定頒布（10月）</li> <li>● 「大学体育研究会」発足（10月）</li> <li>▲ 初の日米交歓バスケットボール大会、横浜フレイヤーズで開催（11月）</li> </ul>

年代	横須賀の体育・スポーツ	国・県内の体育・スポーツ
		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 国警本部でマラソンの左側疾走を決定（12月）</li> <li>▲ 「寒川町体育協会」発足（－）</li> <li>▲ 「小田原レクリエーションクラブ」設立（－）</li> <li>▲ 「逗子町海洋クラブ」が「逗子水泳協会」になる（－）</li> <li>▲ 県下高校体操選手権大会始まる（－）</li> <li>▲ 県営芦の湯スケート場建設（－）</li> <li>▲ 「県柔道協会」発足（－）</li> <li>▲ スキー指導者養成技術講習会始まる（－）</li> <li>▲ 「県ヨット連盟」他県に先がけて発足（－）</li> <li>▲ 「関東ラグビーフットボール協会神奈川支部」が「県ラグビーフットボール協会」に改称（－）</li> <li>▲ 小田原市城内野球場開設（－）</li> </ul>

<p>1950 (昭和 25)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市主催による第1回市内中学校・高校駅伝競走大会開催（2月）</li> <li>・ 第1回市民スキー大会を赤倉スキー場で開催。参加者21名（2月）</li> <li>・ 田浦中、保健体育科研究発表会開催（2月）</li> <li>・ 大津中、体育科研究発表会開催（3月）</li> <li>・ 北下浦中、校庭開きを行う（5月）</li> <li>・ スポーツバッジテスト、県横高で開催（6月）</li> <li>・ 市内教職員体育大会を球技大会に変更（ソフトボール、バレーボール、卓球）（6月）</li> <li>・ 第1回学校水泳指導者講習会を馬堀海岸で開催（7月）</li> <li>・ ベリー上陸記念黒船祭で相撲大会を開催（7月）</li> <li>・ 池上中卓球部、県大会、男子団体、優勝（8月）</li> <li>・ 横須賀市学校教育目標設定（小・中・高）（9月）</li> <li>・ 第1回横浜、川崎、横須賀市による三都市体育大会を川崎市で開催（10月）</li> <li>・ 「横須賀バドミントン協会」発足。（会長に体育協会会長、谷川武が暫定的に就任。26年に大久保英俊会長になる）（11月）</li> <li>・ 全日本高校女子バスケットボール大会に県大津高が出場。協会発足以来初めて（11月）</li> <li>・ 社会体育振興委員（29名）県民指導員（6名）</li> <li>・ 女子体育指導委員（4名）の制度を設置。（体育振興会、体育指導委員協議会の母体）（11月）</li> <li>・ 第1回米海軍基地杯争奪県下郡市対抗軟式野球大会を追浜球場で開催（11月）</li> <li>・ 第5回国民体育大会自転車競技で長島光雄選手が3位入賞（11月）</li> <li>・ 第4回全国都市対抗軟式庭球大会、団体3位（－）</li> <li>・ 第1回市杯争奪中・高バスケットボール大会開催（－）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▲ 第1回県民スキー講習会、赤倉で実施（1月）</li> <li>● 第5回国民体育大会冬季大会、苫小牧・米沢で開催（1月・3月）</li> <li>▲ 進駐軍選抜拳闘大会、横浜神奈川体育館で開催（1月）</li> <li>▲ 「県高等学校野球連盟（軟式部）」発足（1月）</li> <li>▲ 第1回警察柔道大会、神奈川体育館で開催（1月）</li> <li>● 「日本女子野球連盟」発足（3月）</li> <li>● 「全日本橈競技連盟」発足（3月）</li> <li>● 「日本体育学会」設立（3月）</li> <li>▲ 第1回神奈川レクリエーション大会、神奈川体育館で開催（3月）</li> <li>▲ 健民課、第1回社会体育指導者講習会開催（昭和31年まで）（4月）</li> <li>▲ 第1回スポーツバッジテスト指導者養成講習会開催（4月）</li> <li>▲ 「平塚体育協会」発足（4月）</li> <li>▲ 「県体育指導者連盟」解消。「県小学校体育研究会」発足（5月）</li> <li>▲ 第1回神奈川・静岡対抗陸上競技大会、藤沢陸上競技場で開催。本県僅差で勝つ（6月）</li> <li>▲ 健民課、山岳講習会開催（7月）</li> <li>▲ 健民課、海洋講習会開催（昭和29年～34年水泳講習会）（7月）</li> <li>● 「日本ボウリング協会」発足（7月）</li> <li>● プロ野球ナイター始まる（7月）</li> <li>● 全国実業団体育連盟発足（7月）</li> <li>● 国際陸連で日本陸連の復帰を承認（8月）</li> <li>▲ 「津久井郡体育協会」発足（8月）</li> <li>▲ 県教育委員会、社会体育普及講習会開催（昭和27年まで）（8月）</li> <li>● 戦後初の日米対抗水上競技会が開かれる（8月）</li> <li>▲ 県総合体育大会、「県民総体」の名で始まる（9月）</li> <li>● 第5回国民体育大会愛知・三重で開催（9月）</li> <li>▲ バドミントンの第1回全日制高校大会、横浜で開催。本県男子1位、2位（10月）</li> <li>● 学校柔道復活（10月）</li> <li>▲ 「逗子町体育協会」発足（11月）</li> <li>▲ 県教育委員会、高校体育指導者連盟主催第1回</li> </ul>
-------------------------	--	--

年代	横須賀の体育・スポーツ	国・県内の体育・スポーツ
		<p>県下高校バドミントン大会、関東学院大で開催（11月）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▲ 全日本女子ホッケー選手権大会で立野女子、優勝（11月）</li> <li>● 学校教育法施行規則で「体操場」を「運動場」に改める（11月）</li> <li>● 第1回体育学会大会開催（11月）</li> <li>▲ 第1回横浜市民しなない競技大会開催「スポーツとしての剣道」登場（12月）</li> <li>▲ 第1回全国高校駅伝大会県予選、厚木高校優勝（12月）</li> <li>▲ 保土ヶ谷県営蹴球場開設記念試合を実施（12月）</li> <li>▲ 箱根芦の湯スケートリンク竣工（12月）</li> <li>▲ 第1回アマチュア自転車選手権大会開催（12月）</li> <li>▲ 神奈川県健民体操、厚生体操制定（一）</li> <li>▲ 「県高等学校教科研究会保健体育部会」発足（一）</li> <li>▲ 県民スキー講習会始まる（～昭和43年）（一）</li> <li>▲ 県民スケート講習会始まる（～昭和43年）（一）</li> <li>▲ 県下中学校体操選手権大会開催（一）</li> <li>▲ 「県重量挙げ協会」発足（一）</li> <li>▲ 「県アマチュアレスリング協会」発足（一）</li> <li>▲ 「県柔道連盟」発足（一）</li> <li>▲ 「県スキー山岳連盟」発足（一）</li> <li>▲ 健民祭の体育功労者表彰始まる（一）</li> </ul>

<p>1951 (昭和26)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市役所前から久里浜まで10哩マラソンコース設定される。(35年まで) (1月)</li> <li>・ 県体育功労者、若命勇次郎(陸上)常葉三俊(卓球)金木元次郎(バレー)長島光雄(自転車)受賞(1月)</li> <li>・ 少年野球大会の前身である野球大会が、警察署と工業クラブの共催で初めて開催される(1月)</li> <li>・ 長浦小学校、市・県指定体育研究発表会(球技について)開催(2月)</li> <li>・ 「横須賀ソフトボール協会」発足。会長に岡本慶次郎(4月)</li> <li>・ 「横須賀市中学校体育連盟」発足。会長に笹子武夫(4月)</li> <li>・ 小・中学校横須賀市基準教育課程を作成(4月)</li> <li>・ 国民保健体操普及講習会(新ラジオ体操)を開催(5月)</li> <li>・ 浦賀ドックヨット部の有志らにより「横須賀ヨット協会」発足(6月)</li> <li>・ 中学校丹沢登山の会開催(7月)</li> <li>・ 第1回猿島三笠記念艦間の遠泳大会を開催(昭和40年まで)(8月)</li> <li>・ マッカーサー元帥杯全国都市対抗軟式野球大会に本市代表推薦出場を得る(8月)</li> <li>・ 不入斗中卓球部、県大会、男子団体優勝(8月)</li> <li>・ 不入斗中バスケットボール部、県大会、男女優勝(8月)</li> <li>・ 田浦小、市委託体育研究発表会開催(10月)</li> <li>・ 第1回横須賀地区勤労者駅伝競走大会開催(10月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▲ 県下5か所(鎌倉・小田原・横須賀・厚木・平塚)に10哩コースを設定(1月)</li> <li>● 第6回国民体育大会冬季大会(八戸・高田・妙高)開催(1月～2月)</li> <li>▲ 県健民課主催スキー指導者講習会、福島県沼尻温泉スキー場で開催(1月)</li> <li>▲ 第1回県下高校バドミントン選手権大会開催(1月)</li> <li>● ダボスで行われた世界スピードスケート選手権大会500mで内藤晋、1位・43秒(1月)</li> <li>◆ 第1回アジア競技大会、インド、ニューデリーで開催。参加国11、参加選手500名、日本5競技に65選手参加(3月)</li> <li>▲ 「県レクリエーション協議会(協会の前身)」発足(3月)</li> <li>● 文部省、社会体育指導員要項策定(3月)</li> <li>● 中学、高校、保健の教科書使用(4月)</li> <li>● 初参加の第55回ボストンマラソンで田中茂樹、優勝・2時間27分45秒(4月)</li> <li>● フェンシング、国際連盟に復帰(4月)</li> <li>▲ 「県中学校体育連盟」発足。「県体育指導者連盟」を改称(4月)</li> <li>▲ (仮称)「横浜市5大学スポーツ連盟」発足(5月)</li> <li>● ウィーンで開かれた国際オリンピック委員会総会で日本のオリンピック大会(冬季オスロ、夏季ヘルシンキ1952年)の参加が認められる</li> </ul>
------------------------	---	--

年代	横須賀の体育・スポーツ	国・県内の体育・スポーツ
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県横高バスケットボール部、国民体育大会広島大会で3位入賞（10月）</li> <li>・ 公郷小、市委託体育研究発表会を開催（11月）</li> <li>・ 市内各校が全校マラソンを実施。盛大になる（11月）</li> <li>・ 市民大会に初めてソフトボール、剣道が加えられる（11月）</li> <li>・ 「市バドミントン協会」横須賀市体育協会に加盟（11月）</li> <li>・ 横浜、川崎、横須賀三都市対抗体育大会開催（－）</li> <li>・ 坂本中バスケットボール部、28年まで県大会3年連続優勝（－）</li> <li>・ 湘南女子中バスケットボール部、県大会優勝（－）</li> <li>・ 追浜球場建設（軟式野球場、バレーボール場、庭球場、200mの陸上競技場）（－）</li> </ul>	<p>（5月）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ラジオ体操、放送再開（5月）</li> <li>● 日体協、スポーツバジテストを完成（5月）</li> <li>● IOC、日本の参加を決定（5月）</li> <li>● 日本、スキー国際連盟に復帰（5月）</li> <li>▲ 第2回五大都市体育大会、横浜で開催（6月～7月）</li> <li>▲ 県教委、全国に先がけ「学校保健協議会」を組織（7月）</li> <li>● 学校弓道復活（7月）</li> <li>● 学習指導要領中・高等学校体育編を制定（7月）</li> <li>● 漕艇、国際連盟に復帰（8月）</li> <li>● 第6回国民体育大会夏季大会（呉・宮島）開催（9月）</li> <li>● バレーボール、国際連盟に復帰（9月）</li> <li>▲ 第1回県弓道大会開催（9月）</li> <li>▲ 「労働者スポーツレクリエーション連盟」結成（10月）</li> <li>▲ アマチュアボクシング日本代表、ハワイチームと初の国際試合を横浜で行う（10月）</li> <li>● 「全日本学生柔道連盟」発足。同連盟主催の全日本学生柔道選手権大会並びに全日本東西学生柔道対抗試合を大阪で開催（10月）</li> <li>● 第6回国民体育大会秋季大会（広島・鳥取・山口）開催（10月）</li> <li>▲ 知事ら一行、第9回国民体育大会招致のため広島に向かう（10月）</li> <li>● 「日本ユースホステル協会」発足（11月）</li> <li>● ソフトボール協会、国際連盟への加盟承認（10月）</li> <li>● 第1回全国学校保健大会開催（10月）</li> <li>● ヨット、国際連盟に復帰（11月）</li> <li>▲ 「足柄上郡体育協会」発足（11月）</li> <li>● 馬術、国際連盟に復帰（11月）</li> <li>● 第1回青森・東京駅伝開催（11月）</li> <li>● パリに国際柔道連盟結成され、渡仏中の嘉納履正講道館長推されて会長に就任（12月）</li> <li>▲ 第2回全国都市体育研究協議会を横浜商工会議所ホールで開催。全国63都市の体育関係者出席（12月）</li> <li>● 射撃、国際連盟に復帰（12月）</li> <li>▲ 健民指導員制度確立（体育指導委員設置。昭和32年4月25日）（－）</li> <li>▲ 第1回全日本しない競技大会本県で開催。女子の部で本県の高野初江、優勝（－）</li> <li>▲ 「県射撃協会」発足（32年ライフルとクレイに分離）（－）</li> <li>▲ 国連普及県内一周駅伝大会始まる（～28年まで）</li> <li>▲ 県教委、女子体育振興会議開催（～30年まで）（－）</li> <li>● 全日本大学バドミントン選手権大会開催（－）</li> <li>● アイスホッケー、国際連盟に復帰（－）</li> <li>▲ 「葉山町体育協会」発足（－）</li> </ul>

年代	横須賀の体育・スポーツ	国・県内の体育・スポーツ
1952 (昭和 27)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県体育功労者、室伏繁雄(陸上)、谷川武(市体協)、長浜顕達(体操)受賞(1月)</li> <li>・ 「横須賀市中学校体育研究会」発足。中学校体育連盟から分離。会長に杉原定喜(1月)</li> <li>・ 「横須賀体育会」が「横須賀体育協会」に改称。組織の充実を図る(4月)</li> <li>・ 高木八千代選手、全日本チームで活躍。400mRで日本記録を樹立する(吉川、高木、岡本、田中)(5月)</li> <li>・ 機構改革により、教育委員会が2部6課となり保健体育課が新設される。担当は学校体育と社会体育(6月)</li> <li>・ 横須賀卓球協会主管による日英交換卓球大会をEMクラブで開催。英国はリーチ、パークマンの2名、日本は監督に本市の常葉三俊、選手に山上、山口、吉沢が出場(6月)</li> <li>・ 第1回横須賀市中学校総合体育大会を不入斗中、坂本中で開催。市内全12校が参加。昭和35年第9回大会までこの形で実施(6月)</li> <li>・ 「横須賀ヨット協会」発足。第1回記念レースを小川港で開催(7月)</li> <li>・ 第1回小・中学校体育主任夏季宿泊教材講習会を二泊三日大楠小で開催(8月)</li> <li>・ 池上卓球、県大会、男子団体、優勝(8月)</li> <li>・ 大津に市営運動場竣工(軟式野球1面、バレーコート3面、庭球コート5面、200mトラック陸上競技場1面)(9月)</li> <li>・ 横須賀市教育委員会発足(11月)</li> <li>・ 長野正義教育長就任(昭和27~31)(11月)</li> <li>・ 「横須賀剣道連盟」発足。会長に伊東忠治(11月)</li> <li>・ 高木八千代(陸上競技)第1回神奈川県スポーツ賞を受賞(11月)</li> <li>・ 第1回市内地域対抗駅伝競走大会開催(12月)</li> <li>・ 追浜小、市委託体育研究発表会を開催(12月)</li> <li>・ 米軍基地で日米親善バスケットボール試合を行う(一)</li> <li>・ 北下浦小、県健康優良校受賞(本市で初めて)(一)</li> <li>・ 第1回市民スキーの会開催(一)</li> <li>・ 市第一高女、全日本高等学校バスケットボール選手権大会出場(一)</li> <li>・ 県横高バレーボール部、全日本高校選手権大会出場。藤沢高校に決勝で破れ準優勝(一)</li> <li>・ 荒川とみ子・市第二高、バドミントン全日本総合選手権大会、ダブルス優勝(一)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ポンペイの第19回世界卓球選手権大会に日本初参加。女子団体、男子単、男子複、女子複の選手権を獲得(1月~2月)</li> <li>● 第7回国民体育大会冬季大会(日光・小樽)開催(1月・3月)</li> <li>● 第1回全日本プロ自転車選手権大会開催(2月)</li> <li>◆ 第6回冬季オリンピック大会(オスロ)開催。参加国30、参加者732名。日本、スキー7名、スケート6名参加(2月)</li> <li>● 「日本グライダー連盟」発足(3月)</li> <li>▲ 「二宮町体育協会」発足(4月)</li> <li>▲ 「足柄下郡体育協会」発足(4月)</li> <li>▲ 横浜市内運動施設の接收解除。テニスコートなど6施設(4月)</li> <li>● 剣道が、新しい競技として体育の教材に許可(中学校以上)(4月)</li> <li>▲ 「足柄上郡体育協会」発足(4月)</li> <li>▲ 「県実業団バドミントン連盟」発足(4月)</li> <li>● 日本初のプロボクシング世界チャンピオン誕生(白井義男・フライ級)(5月)</li> <li>▲ 第1回県庭球選手権大会開催(6月)</li> <li>● 「中央教育審議会」設置(6月)</li> <li>▲ 「中郡体育協会」発足(6月)</li> <li>▲ 「三浦郡体育協会」発足(6月)</li> <li>▲ 日米親善野球大会、平和球場で開催(6月)</li> <li>▲ 「神奈川県国際グライダー倶楽部」発足(6月)</li> <li>◆ 第15回夏季オリンピック大会(ヘルシンキ)開催。参加国69、参加者4,925名。日本、103名の代表団を派遣(戦後初めて)。日本、金1、銀6、銅2。レスリング石井庄八(バンタム級)、金メダル(7月~8月)</li> <li>● カヌー、国際連盟加盟(7月)</li> <li>● 第1回全国高等学校柔道大会、茨城県体育館で開催(8月)</li> <li>▲ 全国高校バレーボール選手権大会で藤沢高校優勝(8月)</li> <li>▲ 「県剣道連盟」発足(8月)</li> <li>● 「全日本学生重量挙げ連盟」発足(8月)</li> <li>▲ 第1回県高校ホッケー選手権リーグ開催(8月~9月)</li> <li>● 第7回国民体育大会夏季大会(松島・栃木)開催(9月)</li> <li>● 大相撲秋場所は四本柱が取り除かれ、方屋を上からつって新しいスタート(9月)</li> <li>▲ 第1回横浜市長杯争奪ノンプロ女子野球大会開催(9月)</li> <li>▲ 神奈川県体育館アイススケート場開場(9月)</li> <li>● 第1回全日本学生柔道大会開催(9月)</li> <li>● 「全日本剣道連盟」発足(9月)</li> <li>● 第7回国民体育大会秋季大会(福島、宮城、山形)開催(10月)</li> <li>▲ 「県大学バドミントン連盟」発足(10月)</li> <li>● 「大学体育協議会」発足(11月)</li> <li>▲ ウェイトリフティング第1回県選手権大会開催(一)</li> <li>● 青山に我が国初の「東京ボーリングセンター」</li> </ul>

年代	横須賀の体育・スポーツ	国・県内の体育・スポーツ
		開場（－） ▲ 「高座郡体育協会」発足（－） ▲ 「大和町体育協会」発足（－） ▲ 「県庭球協会」発足（－） ▲ 健民指導員制度確立（－） ▲ 国民体育大会に備え、施設整備計画基本構想を決定。全種目にわたり、全県下にかけて完成（～30年）（－）

1953 (昭和 28)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県体育功労者、小野寺英夫(バレーボール)、岡野正(軟式庭球)、引地伝次郎(柔道)、秋山春吾(水泳)、岡本慶次郎(陸上)受賞(1月)</li> <li>・ 三浦半島一周駅伝に高校の部(県下)を新設し実施。郡市12、高校13参加(1月)</li> <li>・ 小・中学校体育関係者、教育大付属中の体育授業参観(2月)</li> <li>・ 梅津芳三市長就任(～昭和32)(7月)</li> <li>・ 市民大会にヨット競技が加わる(7月)</li> <li>・ 市教委・地区高体連共催による第1回横須賀三浦地区高等学校総合体育大会を大津グラウンドで開催(8月)</li> <li>・ 市内青年団対抗陸上競技大会を大津グラウンドで開催(8月)</li> <li>・ 第1回市民キャンプの会(一泊二日)を南下浦町金田海岸で実施(8月)</li> <li>・ 市民体育大会夏季大会にヨット競技が加わる(8月)</li> <li>・ 不入斗中卓球部、県大会、男子団体、優勝(8月)</li> <li>・ 県横高バスケットボール部、全国高等学校選手権大会出場(8月)</li> <li>・ 第1回三浦半島郡市対抗陸上競技大会開催(横須賀市会場)(11月)</li> <li>・ 10哩公認マラソン大会を開催。中学校5,000m、高校5哩、一般10哩(35年まで実施)(12月)</li> <li>・ 荒川とみ子・市第二高OG、バドミントン全日本総合選手権大会、女子ダブルス、27年28年連続優勝(12月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 中央教育審議会発足(1月)</li> <li>● 第8回国民体育大会冬季大会(盛岡・大館)開催(1月・2月)</li> <li>● NHKテレビ放送開始(2月)</li> <li>● 「全国大学野球連盟」が「日本大学野球連盟」に改称(4月)</li> <li>▲ 「神奈川県定時制高校体育連盟」発足(4月)</li> <li>● 第1回関東インドアスピードスケート選手権大会、後楽園アイスパレスで開催される。最初の室内スピード競技会(4月)</li> <li>● ボストンマラソンで、山田敬蔵、2時間18分51秒の世界最高記録で優勝(4月)</li> <li>▲ 内山県知事、日体協に第10回国民体育大会招致の正式申請を行う(4月)</li> <li>● 保安大学校開校(防衛大学の前身)(4月)</li> <li>● 「全日本学生弓道連盟」発足(5月)</li> <li>● 文部省、社会体育としての剣道に対する制限を解除(5月)</li> <li>▲ 県主催水泳指導者講習会始まる(6月)</li> <li>▲ 県社会教育協会、キャンプ講習会を芦の湖畔で開催(6月)</li> <li>● 文部省、「学校における剣道の実施について」通達(高校の教科に取り入れる)(7月)</li> <li>▲ 全国高等学校陸上競技大会を三ツ沢公園陸上競技場で開催(8月)</li> <li>▲ 第10回国民体育大会、日体協国体常任委員会で神奈川県開催が正式決定される(8月)</li> <li>● 「日本ボクシング連盟」発足(8月)</li> <li>● 「日本女子体育連盟」発足(8月)</li> <li>● 第8回国民体育大会夏季大会(高松)開催(9月)</li> <li>▲ 県教委、学校剣道指導者講習会を開催(9月)</li> <li>● アジア卓球選手権大会両国国技館で開催。男女団体、女子複、混合に優勝(9月)</li> <li>▲ 県教委・剣道連盟共催学校剣道講習会開催(9月)</li> <li>● 文部省、クラブ活動として学生グライダー解禁を決定(9月)</li> <li>● 第8回国民体育大会秋季大会(愛媛・香川・徳島・高知)開催(9月)</li> <li>▲ 県、職場体育主管者会議を発足(昭和32年5月協議会に改組)(10月)</li> <li>▲ 「綾瀬町体育協会」発足(10月)53年綾瀬市体育協会になる。</li> <li>● 第1回全日本剣道選手権大会を蔵前国技館で開催(11月)</li> <li>● 文部省、小学校学習指導要領改訂(11月)</li> </ul>
-----------------	---	---

年代	横須賀の体育・スポーツ	国・県内の体育・スポーツ
		<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ バンコクで開かれた東南アジア・バスケットボール選手権大会に男女チームを派遣。男子3位、女子優勝（11月～12月）</li> <li>▲ 横浜市警、国警県本部、県、市両教委主催の第1回県少年大会開催（11月）</li> <li>▲ 県剣道連盟第2回理事会で、昭和30年に県下で行われる第10回国民体育大会に剣道を採用するむね、内山県体育協会会長あて要望書を提出（12月）</li> <li>▲ 東横池総合グラウンド、川崎市等々力に完成。300mトラック、野球場2面、テニスコート3面、50坪のクラブハウス（12月）</li> <li>● 「全日本学生剣道連盟」発足（12月）</li> <li>● 「日本ライフル射撃協会」発足（－）</li> <li>● 「日本クレイ射撃協会」発足（－）</li> <li>● 「日本ローラースケート連盟」発足（－）</li> <li>● 文部省「学校剣道の手引き」発行（－）</li> </ul>

<p>1954 (昭和29)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小・中学校体育関係者、体育指導研究のため横浜平沼小の体育授業参観。その後神奈川スケート場でアイススケート実習（2月）</li> <li>・ 機構改革により、衛生部に健民課が新設され社会体育部が移管された。（第10回国民体育大会準備も本課で行う）（2月）</li> <li>・ 中体研会長、笹子武夫(昭和29～30)</li> <li>・ 第1回東京湾横断遠泳大会、観音崎から千葉県浜金谷間で開催。参加選手51名（7月）</li> <li>・ 第10回国民体育大会準備のため、第9回国体ラグビー部門視察員として、本市から福島靖、渡辺長治の両名を北海道に派遣（8月）</li> <li>・ 県横高、水連公認の水泳プール（25m×7コース）完成（9月）</li> <li>・ 学校生徒運動能力について抽出校により調査実施（9月）</li> <li>・ 久里浜に横須賀市体育会館（3,240㎡、バスケットボール2面、バレーボール2面、バドミントン8面、卓球18面、ハンドボール1面、体操一式）竣工（10月）</li> <li>・ 横須賀米海軍基地体育奨励祭（大運動会）開催される。これが基地体育協会の起りとなる（10月）</li> <li>・ 全日本硬軟卓球選手権大会が久里浜の市体育会館で1,000余名の選手が参加して開催される（10月）</li> <li>・ ベリー上陸記念黒船祭日米親善野球大会開催（11月）</li> <li>・ 追浜富士自動車、水産大学、防衛大学によるラグビーフットボール試合開催（本市ラグビーの始まり）（11月）</li> <li>・ 「横須賀スキー山岳協会」改め、「スキー協会」と「山岳協会」に分離独立する（11月）</li> <li>・ 教育委員会、青年会議所共催による第1回市内少年野球大会開催（11月）</li> <li>・ 第1回市長杯争奪卓球大会開催（－）</li> <li>・ 第1回横三地区高等学校総合体育大会が市営大津グラウンドで開催される（－）</li> <li>・ 第1回県中学校卓球選手権大会開催(20回49年まで継続開催（－）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● わが国における初の世界選手権大会たる世界男子スピードスケート選手権大会が札幌円山公園競技場特設リンクで開催（1月）</li> <li>● 第9回国民体育大会冬季大会(札幌・野沢)開催（1月・2月）</li> <li>▲ 本県開催の第10回国民体育大会に備え、選手強化委員会、県内有望選手の冬季練習指導会を藤沢高で開催（1月）</li> <li>▲ 第10回国民体育大会開催に備え、横浜市に国体準備委員会誕生。結成式を挙行（1月）</li> <li>● 日本初の室内陸上競技会、岐阜市民センターで開催（2月）</li> <li>● 「全日本しない競技連盟」と「全日本剣道連盟」が合併し「全日本剣道連盟」になる（3月）</li> <li>● 「関東ブロック中学校体育連盟」発足（3月）</li> <li>● 第1回全日本インドアスピードスケート選手権大会、後楽園アイスパレスで開催（3月）</li> <li>● 笹原正三、サンジェゴ全米レスリング選手権大会フェザー級で優勝（4月）</li> <li>● 本年発足のプロ野球新日本リーグ、開幕第1戦を横浜平和球場で挙行（4月）</li> <li>● 東大プールで行われた第2回アジア競技大会最終予選会に、古川勝、200m平泳ぎ、2分35秒4（短水路）、2分36秒6の二つの世界記録を含む11の日本記録を達成（4月）</li> <li>● 「日本スポーツ芸術協会」創立。初代会長東竜太郎（4月）</li> <li>● ロンドンの第21回世界卓球選手権大会に男女8選手参加。男女団体と男子単・荻村伊知朗、優勝（4月）</li> <li>● 文部省「学徒の対外運動競技について」通達(中学校は府県大会を原則とし、個人として審議機関の審査を経て全日本大会へ参加しうること。高校の全国大会は年1回程度にすること)（4月）</li> <li>▲ 県中体連、県中学校校長会と連携し組織を改正確立。21郡市中体連が加盟。県中体連、関東中体連に加盟（4月）</li> </ul>
------------------------	--	---

年代	横須賀の体育・スポーツ	国・県内の体育・スポーツ
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 馬堀小、健康優良校として、県 1 位になり、表彰される（－）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▲ 「関東ブロック中学校体育連盟」発足（4月）</li> <li>● 卓球の荻村伊知朗（日大）世界選手権シングルスに優勝（4月）</li> <li>▲ 第4回県下選抜高校野球大会で浅野高の石川投手、戦後県下球界初の完全試合を記録（5月）</li> <li>◆ 第2回アジア大会（マニラ）で日本、38の金メダルを獲得（5月）</li> <li>▲ 「県スキー連盟」発足（5月）</li> <li>● 東京体育館完成（5月）</li> <li>● フリースタイル・レスリング世界選手権大会フェザー級で笹原正三が優勝（5月）</li> <li>▲ 開国100年祭記念第1回横浜市内高校対抗駅伝大会開催（6月）</li> <li>● ローマの世界体操選手権大会に女子選手初出場。田中敬子、個人平均台で優勝。男子では竹本正男、個人徒手で優勝（6月～7月）</li> <li>▲ 「座間町体育協会」発足。46年に「座間市体育協会」になる。（7月）</li> <li>● 文部省「夏季休暇中の児童生徒の生活指導について」通達（水泳の事故防止を含む）（7月）</li> <li>● 第9回国民体育大会夏季大会(北海道)開催（7月）</li> <li>● 「日本女子体育連盟」発足（8月）</li> <li>▲ 「県スキー連盟」、「山岳連盟」発足（8月）</li> <li>● 第9回国民体育大会秋季大会(北海道)開催（8月）</li> <li>● 「日本アマチュア野球協会」発足。会長宮原清（9月）</li> <li>● 第3回トーマス杯世界バドミントン選手権大会に日本初参加（9月）</li> <li>▲ 第1回県下実業団剣道選手権大会、日本鋼管鶴見製鉄体育館で開催（10月）</li> <li>▲ 「愛甲郡体育協会」発足（10月）</li> <li>▲ 「海老名市体育協会」発足（10月）</li> <li>▲ 県第1回勤労者弓道大会開催（10月）</li> <li>● 「日本サイクリング協会」発足（10月）</li> <li>● 「全日本剣道連盟」と「全日本しない競技連盟」が合併して新しく「全日本剣道連盟」発足(10月)</li> <li>▲ 「関東なぎなた連盟県支部」発足（11月）</li> <li>▲ 県高校体育連盟、県教委共催第1回関東高校選抜ボクシング大会開催（11月）</li> <li>▲ 第1回県下女子大学卓球大会開催（11月）</li> <li>● カラカスの第36回クレイ射撃選手権大会に日本から赤尾好夫ら4選手が初参加（11月）</li> <li>▲ 「相模原市体育協会」「相模原市体育連絡協議会」として発足（11月）</li> <li>▲ 「伊勢原市体育協会」発足（12月）</li> <li>▲ 第8回金栗賞朝日マラソンにゴルノ（アルゼンチン）カルボーネン（フィンランド）らを含む7名の外国人選手が初参加、ゴルノ優勝（12月鎌倉）</li> <li>● 第2回アジア野球選手権大会（マニラ）で日本代表、優勝（12月）</li> <li>● 日体協国体委員会総会で第10回国民体育大会本県開催決定（12月）</li> <li>▲ 慶応高校ラグビー全国大会で優勝（12月）</li> </ul>

年代	横須賀の体育・スポーツ	国・県内の体育・スポーツ
		<ul style="list-style-type: none"> <li>▲ 「箱根八里」、県フォークダンスに制定（－）</li> <li>▲ 「鎌倉市体育協会」発足（－）</li> <li>▲ 「神奈川おどり」制定（－）</li> <li>● 沖縄、県高体連、加盟（－）</li> </ul>

<p>1955 (昭和 30)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 県体育功労者、児島方助(野球)受賞（1月）</li> <li>● オリンピック・メルボルン大会派遣の水泳選手、横須賀大津の観光ホテル温水プールで合宿練習実施（1月）</li> <li>● 第9回三浦半島県下駅伝競走大会のコースを変更（長井から上町を通り市役所前とする）（1月）</li> <li>● 第9回三浦半島県下駅伝競走大会は都市対抗、事業所対抗、高校の部で60チーム出場（1月）</li> <li>● 第1回県下冬季水泳大会、横須賀大津の観光ホテル温水プールで開催（2月）</li> <li>● 市民体育大会、第1回冬季大会スケート競技を山中湖で開催（2月）</li> <li>● 市商業高、体育館竣工（2月）</li> <li>● 第1回横須賀市長杯争奪卓球選手権大会を開催（2月）</li> <li>● 「横須賀ラグビーフットボール協会」発足（3月）</li> <li>● 「横須賀海軍基地体育協会」発足（陸上、野球、相撲、テニス、卓球、バレーボール、バドミントン、水泳、バスケットボールの9部門）（3月）</li> <li>● バスケットボールのオフィシャル講習会を市体育会館で開催（3月）</li> <li>● 「横須賀空手協会」発足。会長に高橋孝二（4月）</li> <li>● 第1回小・中・高校第2部会児童生徒体育大会を追浜小学校で開催。10月開催の国民体育大会神奈川大会追浜会場に参加（5月）</li> <li>● 第3回関東高等学校ラグビーフットボール大会開催（5月）</li> <li>● 横須賀久里浜ラグビー場（現市横須賀総合高グラウンド）完成（6月）</li> <li>● 関東高等学校女子バスケットボール選手権大会開催（6月）</li> <li>● NHKラジオ体操が諏訪小学校で行われる（7月）</li> <li>● 池上中卓球部、県大会男子団体、優勝（8月）</li> <li>● 杉山彦一郎教育長就任（昭和30～34）（10月）</li> <li>● 日米親善スポーツ交歓会を開催（バレーボール、テニス、ヨット、水泳、卓球、バドミントン、レクリエーションの会）（10月）</li> <li>● 第10回国民体育大会神奈川大会開催。本市で卓球（市体育会館）軟式野球（追浜球場）ラグビーフットボール（久里浜）の3競技を開催（10月）</li> <li>● 池上中、国体炬火・国体旗のリレーを見学する（10月）</li> <li>● 「横須賀スケート協会」発足。会長に笹子武夫（10月）</li> <li>● 「横須賀アマチュアボクシング協会」発足。会長に芹沢藤次（11月）</li> <li>● 横須賀国際観光ホテルに温水プール、附属体育館開設（12月）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 日本アマチュアレスリング代表選手団、初めてのソ連遠征に出発（1月～2月）</li> <li>▲ 県立丹沢山荘開業（2月）</li> <li>▲ 県、第10回国民体育大会に備え衛生部内に国体課新設（課長、健民課長保坂周助兼務）（2月）</li> <li>▲ 「秦野市体育協会」発足（3月）</li> <li>▲ 「大磯町体育協会」発足（4月）</li> <li>▲ 「三浦市体育協会」発足（4月）</li> <li>● 「日本スポーツ芸術協会神奈川支部」発足（4月）</li> <li>● ユトレヒトで行われた第21回世界卓球選手権大会男子団体に2連勝。男子単でも優勝（4月）</li> <li>● 浜村秀夫、ボストンマラソンに2時間18分22秒で優勝（4月）</li> <li>● IOC会長アヴェリー・ブランデー来日（4月）</li> <li>▲ 「伊勢原町体育協会」発足（4月）</li> <li>● 第1回アジアバレーボール選手権大会、日本、中国、インド、韓国の4か国が参加。東京体育館で開催（5月）</li> <li>● 文部省、青少年野外活動について通達（5月）</li> <li>● 「全日本なぎなた連盟」発足（5月）</li> <li>● 「日本水上スキー連盟」発足（6月）</li> <li>▲ 相模湖ボートコース開設（6月）</li> <li>● 第1回都市対抗サッカー大会、後楽園で開催（7月）</li> <li>● 「全国中学校体育連盟」発足（7月）</li> <li>● 第1回全日本中学校放送陸上大会・全国中学校通信水泳大会開催される（7月）</li> <li>● 「青少年野外旅行の奨励について」通達（7月）</li> <li>● 文部省「児童生徒の水泳事故防止について」通達（以降、34、35、38、40、41、44、45の各年に通達）（8月）</li> <li>▲ 小田原市城山庭球場（8面）完成（8月）</li> <li>● 加茂・宮城組が第75回全米庭球選手権大会ダブルスで日本選手として初優勝（8月）</li> <li>● 古川勝、200m平泳ぎで2分33秒7の世界新記録をはじめ、世界新8、日本新9、日本タイ2を出す（8月）</li> <li>▲ 小田原市城山陸上競技場完成。第1回一般・学生対抗陸上競技大会開催（10月）</li> <li>▲ 藤沢市秩父宮記念体育館完成（10月）</li> <li>▲ 鎌倉鶴岡八幡宮内に弓道場完成（10月）</li> <li>▲ 県スポーツ旗完成（10月）</li> <li>▲ 平塚市体育館開館（10月）</li> <li>● 第10回国民体育大会神奈川大会開催される。小・中・高の児童生徒一体のマスゲームが行われ、好評を得、以降の国体に受け継がれる。天皇杯2位、皇后杯4位（10月）</li> <li>▲ 平沼亮三(横浜市長)文化勲章受章。体育関係者</li> </ul>
-------------------------	---	--

年代	横須賀の体育・スポーツ	国・県内の体育・スポーツ
		<p>では日本初（11月）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▲ 「厚木市体育協会」発足（11月）</li> <li>▲ 横浜で初のボディ・ビル講習会、YMCA体育館で開催（12月）</li> <li>● 保健体育審議会「保健、体育、給食、スポーツ、レクリエーション行政の一元化」を建議（12月）</li> <li>▲ 教員スキー講習会始まる（－）</li> <li>▲ 県営富岡射撃場完成（－）</li> <li>▲ 「三浦市体育協会」発足（－）</li> <li>▲ 「湯河原町体育協会」発足（－）</li> </ul>

<p>1956 (昭和 31)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 県体育功労者、鈴木喜一(卓球)、松矢要次郎(水泳)、林信雄(ハンドボール)受賞（1月）</li> <li>● 三浦半島県下駅伝競走大会は、一般の部と高校の部に改め開催（一般 12 チーム、高校 25 チーム）（1月）</li> <li>● 武山小校庭に、トラック 42 台分の砂を入れ、整備する（2月）</li> <li>● 市内中学校駅伝競走大会（8回～11回）のコースが、市役所－上町－久里浜－浦賀－大津－市役所になる（2月）</li> <li>● 中体研会長、森田太助(昭和 31～)（4月）</li> <li>● 学校水泳指導者救助法講習会を馬堀海岸で開催（6月）</li> <li>● ベリー上陸記念黒船来船注進駅伝競走開催（記念碑前－市役所、3区間 8.4km）（7月）</li> <li>● 久里浜中・角井三雄、第 2 回全日本中学校放送陸上競技大会で 400m・53 秒 2 と 200m・23 秒 9 に優勝し、全国中学記録樹立（7月）</li> <li>● 県下郡市対抗軟式野球大会並びに全日本軟式野球選手権県予選会を追浜球場で開催（7月）</li> <li>● 第 31 回全国高等学校卓球選手権大会、久里浜体育会館で開催（8月）</li> <li>● 不入斗中学校分校開校（9月）</li> <li>● 夏島小、第 1 回米軍校庭整備協力で校庭整備（9月）</li> <li>● 第 1 回健康祭り、市営大津競技場で開催(10月)</li> <li>● 杉山彦一郎教育長就任（昭和 31～35）(10月)</li> <li>● 第 6 回関東高校女子ソフトボール選手権大会（小田原市）で市第一高女準優勝を果たす（11月）</li> <li>● 市民ラグビー大会を防衛大学校で開催（11月）</li> <li>● 市民の体育振興のため横須賀市「体操の会」開催（11月）</li> <li>● 大津諏訪神社奉納相撲に横綱玉の海、大鵬、広川が出演（－）</li> <li>● 防衛大学校ラグビー部、新制大学ラグビー全国大会で準優勝する（－）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 高等学校学習指導要領改訂（1月）</li> <li>◆ 第 7 回冬季オリンピック大会（コルチナ・ダンペッツォ）開催。参加国 32、参加選手 924 名。スキー回転に猪谷千春第 2 位獲得（2月）</li> <li>● 「東京都体育協会」発足（2月）</li> <li>● 文部省、保健の学習指導について通達（3月）</li> <li>▲ 神奈川県健康まつり開催（4月）</li> <li>● 第 23 回世界卓球選手権大会、東京体育館で開催。男子単、荻村伊知朗、男子複、荻村富田組、女子単、大川とみ、優勝（4月）</li> <li>▲ 全神奈川 4 人制バレーボール大会開催（4月）</li> <li>● 蔵前国技館で行われた第 1 回世界柔道選手権大会（21 か国 31 名参加）で夏井昇吉 6 段優勝（5月）</li> <li>▲ 日本体操祭神奈川県大会、第 1 回を横浜で開催（5月）</li> <li>● イスタンブールで行われた、レスリング世界選手権フェザー級で笹原正三、優勝（5月）</li> <li>● 槇有恒を隊長とする日本登山隊、マナスル（8125m）登頂に成功（5月）</li> <li>● 保健体育審議会「わが国保健体育振興のための行政機構整備の基本方策について」建議（6月）</li> <li>● 日本ラグビー協会、日体協脱退（6月）</li> <li>▲ 青少年野球指導者講習会開催（7月）</li> <li>▲ 「県スキー連盟」発足（7月）</li> <li>▲ 「県銃剣道連盟」発足（7月）</li> <li>● 文部省、夏季休暇中の児童生徒の水泳、登山などにおける事故防止について通達（7月）</li> <li>▲ 第 1 回全日本選抜水上スキー競技大会、芦ノ湖で開催（8月）</li> <li>▲ 「県サイクリング協会」発足（8月）</li> <li>▲ 「神奈川県体育史」発刊（8月）</li> <li>▲ ハンドボール、全日本学生対西ドイツオールスターズ戦、平和球場で開催（9月）</li> <li>▲ 「南足柄町体育協会」発足。47 年「南足柄市体育協会」になる（9月）</li> <li>▲ 社会体育行政が県保健体育課所管になる（10月）</li> <li>● 文部省、大学の「一般体育科目」を「保健体育科」に改称（10月）</li> <li>● 第 11 回国民体育大会・兵庫大会開催（10月）</li> <li>▲ 陸上競技、国民体育大会兵庫大会で、本県総合優勝（10月）</li> </ul>
-------------------------	---	--

年代	横須賀の体育・スポーツ	国・県内の体育・スポーツ
		<ul style="list-style-type: none"> <li>▲ 第1回日米親善剣道横浜大会開催（11月）</li> <li>◆ 第16回夏季オリンピック大会（メルボルン）開催。参加国67、参加選手3,178名。日本、金4、銀10、銅5。古川勝・200m平泳ぎ、小野喬・体操（鉄棒）、笹原正三、池田三男・レスリング、金メダル（11月）</li> <li>▲ 女子体育指導者講習会始まる（県教委）。昭和42年まで開催（－）</li> <li>● 「全日本銃剣道連盟」発足（－）</li> </ul>

<p>1957 (昭和32)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 県体育功労者、小島順政(野球)、島田英之(野球)受賞（1月）</li> <li>● クレー射撃とライフル射撃部門を統括して「横須賀射撃協会」発足(伊藤洋三ら中心)（2月）</li> <li>● 学校体育主任、他校の授業参観をする(横浜市立日枝小学校)（2月）</li> <li>● 全国自衛隊銃剣道大会を市体育会館で開催（3月）</li> <li>● 長野正義市長就任(昭和48)（7月）</li> <li>● NHK全国放送横須賀地区ラジオ体操会実施（8月）</li> <li>● 市教委主催市民富士登山の会開催（8月）</li> <li>● 市民奥日光ハイキングの会開催（8月）</li> <li>● 市第一高女ソフトボール部、第10回全国高校女子ソフトボール選手権大会、3位入賞（8月）</li> <li>● 市体育指導委員、男子32名女子7名を委嘱する（8月）</li> <li>● 横須賀柔道協会主催第1回柔道形及び審判講習会開催（8月）</li> <li>● 小・中学校夏季宿泊体育実技教材講習会を馬堀小で開催（8月）</li> <li>● 横須賀陸上競技選手権大会開催（8月）</li> <li>● 「横須賀市体育指導委員連絡協議会」結成（9月）</li> <li>● 市制50周年記念市民祭第32回市民体育大会開催(6,200名参加)（10月）</li> <li>● 第1回市民登山の会開催（－）</li> <li>● 佐藤芳朗・県横高OB、バドミントン全日本選手権、優勝（－）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● スポーツ振興審議会設置（2月）</li> <li>● 日体協会長、東竜太郎氏再選（3月）</li> <li>● スtockホルムで行われた第24回世界卓球選手権大会で日本選手団は7種目中男女団体、男子単、女子単、混合の5種目に優勝の新記録(3月)</li> <li>● 世界アイスホッケー選手権大会に日本チーム7位（3月）</li> <li>● 文部省、「地方スポーツの振興について」通達(体育指導委員の設置)（4月）</li> <li>● 文部省「学校剣道の実施について」通達。中学・高校で正課体育として実施できることになる（5月）</li> <li>● 文部省、体育指導委員制、正式決定（5月）</li> <li>● 文部省、「児童生徒の対外運動競技について」通達(中学生について原則として宿泊を要しないようにすること、高校生の国際大会への参加は文部省に協議等)（5月）</li> <li>● 文部省、「中学校、高等学校における運動部の指導のあり方について」通達（5月）</li> <li>● スポーツ振興審議会「スポーツの国民一般に対する普及振興策とスポーツの国際交換を促進するための方策について」答申（6月）</li> <li>● 「日本ラグビー協会」、日体協復帰（6月）</li> <li>● 「関東学生体育連盟」発足（6月）</li> <li>● 第1回全日本選手権競漕大会開催（6月）</li> <li>● 閣議、国民体育大会の開催方針決定(都道府県持ち回り)（7月）</li> <li>● 文部省、「青少年野外活動の健全な実施並びに振興について」通達（7月）</li> <li>▲ 「葉山町体育協会」発足（8月）</li> <li>● 保健体育審議会、学校保健法制定（8月）</li> <li>● 第1回ユニバーシアード大会に、日本参加（8月～9月）</li> <li>● デトロイトで行われた第3回ノンプロ世界選手権大会に、日本チーム、初優勝（9月）</li> <li>● 石本隆(日大)、100mバタフライで1分1秒0の世界新記録を出す（9月）</li> <li>▲ 「県レクリエーション協会」発足（10月）</li> <li>● 「国民体育デー」を閣議で正式決定（10月）</li> <li>● 政府、スポーツ振興審議会の答申どおり、昭和39年のオリンピック、東京招致の準備を決定（10月）</li> <li>● スポーツ振興審議会「体育指導委員の制度化とスポーツ施設の充実について」答申（10月）</li> <li>▲ 「県ユースホステル協会」発足（11月）</li> </ul>
------------------------	---	---

年代	横須賀の体育・スポーツ	国・県内の体育・スポーツ
		<ul style="list-style-type: none"> <li>▲ 第7回青森・東京駅伝で神奈川初優勝(11月)</li> <li>▲ 「体育指導委員連絡協議会」結成(11月)</li> <li>● 第1回全日本大学空手選手権大会開催(11月)</li> <li>▲ 関東中学校保健体育研究協議会開催。300名参加(横浜市立岡野中)(11月)</li> <li>● 第1回全国銃剣道選手権大会開催(11月)</li> <li>● 第1回シンクロナイズド・スイミング日本選手権大会開催(一)</li> <li>▲ 県、「高校体育指導の参考」発行(一)</li> <li>▲ 関東地区社会体育研究協議会、本県で開催(一)</li> <li>▲ 「相模原市体育協会」発足(一)</li> <li>▲ 「箱根町体育協会」発足(一)</li> <li>▲ 「真鶴町体育協会」発足(一)</li> <li>▲ 「県射撃協会」「クレール射撃」と「ライフル射撃」に分かれる(一)</li> <li>▲ 厚木市総合運動場完成(一)</li> <li>● 大相撲改革により茶屋制度廃止(一)</li> </ul>

<p>1958 (昭和33)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県体育功労者、青木忠義(陸上)、白石栄三(山岳)、角田周次(卓球)、松井博(野球)、荒木敏夫(陸上)、茂木幸内(野球)、森秀夫(一)受賞(1月)</li> <li>・ 体育館条例の一部(7条)改正(4月)</li> <li>・ 子ども球技大会(ソフトボール、バドミントン)開催(5月)</li> <li>・ 第3回アジア競技大会(東京)の聖火が本市を通過(5月)</li> <li>・ 第3回アジア競技大会ライフル射撃競技が武山自衛隊射撃場で開催される(5月)</li> <li>・ 体育指導委員連絡協議会議長、小杉芳治(昭和33~34)(5月)</li> <li>・ 馬堀中ソフトボール部、県ソフトボール大会、優勝(8月)</li> <li>・ 北下浦中・山田登、全国中学校陸上競技選手権大会、砲丸投、第2位入賞(8月)</li> <li>・ 田浦中体操部、県大会、男子団体、優勝(8月)</li> <li>・ 市第一高女、第10回全日本高等学校女子ソフトボール選手権大会、第3位入賞(8月)</li> <li>・ 大津地区に本市で初めての地区体育振興会が誕生(9月)</li> <li>・ 第1回横須賀射撃会を武山自衛隊射撃場で開催。競技はクレール、トラップ、エアライフルの3種目(10月)</li> <li>・ クラブ活動における傷害調査第1回研究会を坂本中で開催(11月)</li> <li>・ 「横須賀ボクシング協会」発足(11月)</li> <li>・ 横須賀ボクシング協会が米海軍基地内で米海軍との交歓試合を行う(12月)</li> <li>・ 体育指導委員、各地区より3名推薦で計82名になる(12月)</li> <li>・ 武山中学校第1期運動場拡張工事が米軍によって行われる(一)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 東京オリンピック準備委員会発足(1月)</li> <li>▲ 県教委主催第1回県民スキー講習会、野沢温泉スキー場で開催(1月)</li> <li>▲ 第1回真鶴半島駅伝競走大会開催(足柄下郡)(1月)</li> <li>● 早大遠征隊、キリマンジャロ登頂に成功。日本女性クライマーが6000m以上の山を征服したのは初めて(1月)</li> <li>● スポーツ振興審議会設置(内閣総理大臣諮問機関)(2月)</li> <li>● 世界アルペンスキー競技選手権大会で猪谷千春、回転3位、大回転6位入賞。総合で4位になる(2月)</li> <li>● スポーツ振興審議会「スポーツ振興のための法的措置の強化について」要望(3月)</li> <li>● 神宮外苑競技場が、国立競技場として(世界第一級のスタジアム)竣工(3月)</li> <li>● 学校保健法成立。10月公布(4月)</li> <li>● 文部省に体育局設置(5月)</li> <li>● 初めて、国民体育デー実施(5月)</li> <li>● IOCブランデー協会会長ら来日。安井都知事第18回オリンピック招致申込書を提出(5月)</li> <li>● 文部省、社会体育功労者の第1回表彰を行う(5月)</li> <li>● 第3回アジア競技大会、東京で開催(6月)</li> <li>▲ 第1回神奈川県体育指導委員大会開催(6月)</li> <li>● 日本洋弓連盟、国際洋弓連盟に加盟。承認される(7月)</li> <li>● 山中毅、200m自由形に2分3秒0の世界新記録を出し、コンラツを破る(8月)</li> <li>● 小・中学校学習指導要領改訂(10月)</li> <li>● 第12回国民体育大会静岡大会開催(10月)</li> <li>● 巨人軍入団の長嶋茂雄、新人王獲得(10月)</li> <li>▲ 県下中学校ハンドボール大会、11人制から7人制に変わっての初の試合が行われる(11月)</li> <li>▲ 横浜公園体育館(旧フライヤージュム)完成(12月)</li> </ul>
------------------------	--	--

年代	横須賀の体育・スポーツ	国・県内の体育・スポーツ
		月) ● 保体審「スポーツ振興のための必要な立法措置およびその内容について」答申 ● 文部省、冬季におけるスキー、スケート登山等の事故防止について通達（以降、34、35、38、40、44、46の各年に通達）（12月） ▲ 第1回県下ジュニア庭球選手権大会開催（－） ▲ 「県定時制通信教育振興会体育部会」発足（－） ● フラフープ流行（－）

1959 (昭和 34)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県体育功労者、武田亀太郎(卓球)、一戸正雄(柔道)、加藤賢蔵(柔道)、小林芳治(体指)稲嶺昇(市体協)、佐野重徳(一)受賞(1月)</li> <li>・ 日米ボクシング対抗試合を米海軍基地内で開催(1月)</li> <li>・ 市民スケート大会並びにスケート講習会を山中湖で開催(会費900円)(2月)</li> <li>・ 市内各地区でハイキングが盛んに行われる(4月)</li> <li>・ 久里浜の市体育会館隣にローラースケート場(495㎡)完成(4月)</li> <li>・ 第3部会児童連合運動会を坂本児童公園で開催(5月)</li> <li>・ 34年度全日本柔道選手権大会は東京体育館で行われ、本市の猪熊功四段が初優勝。21歳の学生チャンピオンが誕生(5月)</li> <li>・ 「国民体育デー」の行事として陸上、テニス、バレーボール、フォークダンスを実施(5月)</li> <li>・ 第1回学区対抗少年(児童)球技大会(ソフトボール、卓球、バドミントン)開催(5月)</li> <li>・ 馬堀中庭球部、県中学校庭球大会、男子団体、優勝(5月)</li> <li>・ 市内ソフトボール選手権大会開催(7月)</li> <li>・ 児童水泳講習会(現水泳教室)を馬堀海岸で10日間開催(7月)</li> <li>・ 市第一高女ソフトボール部、本年より11年連続県大会で優勝(7月)</li> <li>・ 不入斗中バスケットボール部、県大会、女子団体優勝。公式戦25連勝(8月)</li> <li>・ 県営富岡射撃場でクレ射撃(トラップ、スキー)、空気銃の競技を行う(10月)</li> <li>・ 追浜小、体育優良校として県学校体育研究連合会から表彰される(11月)</li> <li>・ 猪熊功(柔道)、昭和34年度神奈川スポーツ賞受賞(11月)</li> <li>・ 市内中学校、高等学校駅伝競走大会開催。以後交通事情の悪化で中止と決定(12月)</li> <li>・ 「横須賀ハンドボール協会」発足。初代会長、林信雄(12月)</li> <li>・ ヨコスカスケートセンター完成(12月)</li> <li>・ 佐藤芳朗・県横高OB・立教大がバドミントン全日本チャンピオンになる(12月)</li> <li>・ 市内25小学校区に地区体育振興会が組織される(－)</li> <li>・ 体育指導委員が非常勤職員となり、90名任命(－)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 秩父宮スポーツ博物館開館(1月)</li> <li>▲ 「大和市体育協会」発足(2月)</li> <li>◆ 東京・大阪間都道府県対抗駅伝(107km)で神奈川、34時間34分41秒で優勝(3月)</li> <li>▲ 「三浦郡体育協会」が「葉山町体育協会」に改称(4月)</li> <li>▲ 戦後初の7人制ラグビー大会、横浜YMCAグラウンドに16チームが参加し開催(4月)</li> <li>◆ 秩父宮記念スポーツ博物館設立(4月)</li> <li>◆ 文部省、児童生徒の体位・体力の比較調査発表(4月)</li> <li>◆ 国立競技場屋内プール開場(5月)</li> <li>◆ 皇太子ご結婚記念スポーツ祭開催(5月)</li> <li>◆ 5月の第3日曜日を体育デーとする通達(5月)</li> <li>◆ 第55回IOC総会で、第18回オリンピック大会(64年度)夏季大会は東京で開催を決定(5月)</li> <li>◆ 第1回アジア・レクリエーション大会、21か国の代表が集まり、東京で開催(6月)</li> <li>● 野球体育博物館(後楽園)開館(6月)</li> <li>▲ 山下公園全面的に返還される(6月)</li> <li>▲ 県立武道館復旧完成(6月)</li> <li>▲ 藤沢市に人工雪スキー場完成(6月)</li> <li>● 「スポーツ振興国会議員懇談会」結成(6月)</li> <li>● 文部省、「野外活動における事故防止について」通達(6月)</li> <li>● 田中聡子、200m背泳ぎに2分37秒1の世界新記録(7月)</li> <li>● 山中毅、400m自由形に4分16秒6の世界新記録(7月)</li> <li>● 日体協理事長、津島寿一就任(7月)</li> <li>● プロ野球ナイターで初のカラー中継(7月)</li> <li>▲ 第1回関東近都県剣道大会、県立武道館で開催(8月)</li> <li>▲ 小田原高校、全国高校陸上競技大会、総合優勝(8月)</li> <li>● 保健体育審議会、スポーツ選手の強化策としてプロコーチ制を図るよう答申(9月)</li> <li>● 「東京オリンピック大会組織委員会」発足(9月)</li> <li>● 文部省、中学校保健体育指導書発刊(9月)</li> <li>▲ 日独対抗陸上競技大会、小田原市宮城山競技場で開催(10月)</li> </ul>
-----------------	---	--

年代	横須賀の体育・スポーツ	国・県内の体育・スポーツ
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第1回市民空手道演武大会開催（－）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 第14回国民体育大会・東京、埼玉大会開催（10月）</li> <li>● 伊勢湾台風の大被害のため、愛知県、国民体育大会全種目を辞退（10月）</li> <li>● 文部省、「学校におけるなぎなたの実施について」通達(中学校以上の女子のクラブ活動)（12月）</li> <li>● 日本学校安全会法公布（12月）</li> <li>▲ 日米子ども親善柔道大会、ベイ・ビュウ・レクリエーション・センターで開かれる（－）</li> <li>● 日体協会長、津島寿一(昭和34～37)（－）</li> </ul>

<p>1960 (昭和35)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県体育功労者、福本三郎(卓球)、坂井安次郎(野球)、田中武雄(野球)、山田慎司(水泳)、山洞博重（－）受賞（1月）</li> <li>・ 横須賀市10哩ロードレース大会開催。交通事情により以降中止になる（1月）</li> <li>・ 市内室内ハンドボール選手権大会を市体育会館で開催（協会発足を記念して）（1月）</li> <li>・ 市民スキーの会を山形県蔵王スキー場で開催（2月）</li> <li>・ 馬堀小、体育優良校として、県学校体育研究連合会から表彰される（2月）</li> <li>・ 「横須賀テニス協会」発足（4月）</li> <li>・ 体育指導委員連絡協議会議長、常葉三俊(昭和35年)（5月）</li> <li>・ 横須賀三浦地区水上選手権大会を本年から防衛大学校プールで開催（8月）</li> <li>・ 市民ヨット講習会開催（8月）</li> <li>・ 市第一高女ソフトボール部、全日本高校選手権大会、ベスト4進出（8月）</li> <li>・ 不入斗中卓球部、県大会、男子団体3年連続優勝（8月）</li> <li>・ 常葉台中・田中靖和、体操県大会、個人総合優勝(横須賀で初)（8月）</li> <li>・ 法政大学・高貫亘広、ローマオリンピック大会、自転車競技出場(4,000m団体追抜き)（8月）</li> <li>・ 三好義次教育長就任(昭和35～42)（10月）</li> <li>・ 横須賀市体育協会が第15回国民体育大会熊本大会開会式席上、文部省、日体協から全国社会体育優良団体として表彰される（10月）</li> <li>・ 長井小、体育研究発表会開催(集団行動の形式)（11月）</li> <li>・ 市営衣笠野球場完成（12月）</li> <li>・ 本市体育振興会が市内31地区に組織される(12月)</li> <li>・ 交通規制及び中学生の長距離走の能力の問題から、本年は学校生徒を対象とした駅伝を中止した（－）</li> <li>・ 「横須賀なぎなた連盟」発足（－）</li> <li>・ 第1回市民スケートの会開催（－）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▲ 神奈川体育館スケート場、1日平均4,000人の若者で盛況（1月）</li> <li>● 第1回全国教職員剣道大会、大阪市中央体育館で42都道府県が参加し開催（2月）</li> <li>● 日本学校安全会法施行令制定公布（2月）</li> <li>◆ 第8回冬季オリンピック大会(スコーパー)開催。参加国30、参加選手665名（2月）</li> <li>◆ ユニバーシアード冬季大会、シャモニーで開催（2月）</li> <li>● 文部省、小学校体育指導書発行（3月）</li> <li>● 全日本柔道選手権大会、東京体育館で開催。本年から従来の地区選出選手32名と指定選手16名の計48名になる（4月～5月）</li> <li>▲ ドラゴン級ヨット2隻、日本で初めて完成。葉山で進水式挙行（4月）</li> <li>▲ 第1回神奈川県インドアスピードスケート競技会、神奈川県体育館スケート場で開催（4月）</li> <li>▲ 日ソ国際レスリング横浜大会開催（4月）</li> <li>● 第1回近代五種目日本選手権大会開催（5月）</li> <li>● 「日本山岳会」と「全日本山岳連盟」が合併し「日本山岳協会」が発足（5月）</li> <li>▲ 体育指導委員制度(昭和32年発足)の成果を検討する体育指導委員、健民委員大会開催（6月）</li> <li>▲ 鎌倉の七里ガ浜ホテル射場で第1回洋弓講習会開催（6月）</li> <li>● 文部省、学校体育用品告示（6月）</li> <li>▲ 日赤県支部、横浜市教委共催の水上安全講習会開催（7月）</li> <li>● 全日本水上選手権大会(神宮)で山中毅、1,500m自由形17分25秒0、田中聡子、200m背泳2分33秒の世界新を出す（7月）</li> <li>● ユースホステル第1号が北海道支笏湖畔に開所（7月）</li> <li>● 第1回全日本長距離水上スキー選手権大会(千葉勝山、神奈川久里浜間16km)開催（8月）</li> <li>▲ 第42回全国高校野球選手権大会で法政二高優勝（8月）</li> <li>◆ 第17回夏季オリンピック大会(ローマ)開催。参加国84、参加数5,367名。日本、金4、銀7、銅7。体操男子団体優勝。個人で小野喬、跳馬と鉄棒、相原信行、徒手で優勝（8月～9月）</li> </ul>
------------------------	--	--

年代	横須賀の体育・スポーツ	国・県内の体育・スポーツ
		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 保体審、オリンピック東京大会を契機とする「体育振興6か年計画」を答申（9月）</li> <li>● 「東京オリンピック組織委員会」発足（9月）</li> <li>● カラーテレビ放送始まる（9月）</li> <li>● 文部省、高等学校学習指導要領告示（10月）</li> <li>▲ 第1回水上ジャンプ記録会、箱根で開催（10月）</li> <li>▲ 第1回県各地区対抗柔道大会、県立武道館で開催（10月）</li> <li>● サンフランシスコジャイアンツ来日。11勝4敗1分（10月）</li> <li>● 第15回国民体育大会熊本大会開催（10月）</li> <li>● 体育局に「オリンピック準備室」設置（10月）</li> <li>● 「全国体育指導委員協議会」発足（12月）</li> <li>● 「東京オリンピック資金財団」設立（12月）</li> </ul>

<p>1961 (昭和 36)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 県体育功労者、渡辺利一郎(柔道)、浜倉光四郎(体指)、宇佐美融(小体研)、山中藏造(陸上)受賞（1月）</li> <li>● 横須賀市青年団の指導者講習会を開催（3月）</li> <li>● 市体育指導委員連絡協議会三部会研究部門（組織運営研究部、体育レクリエーション研究部、女子体育レクリエーション研究部）を設ける（4月）</li> <li>● 「体操祭」横須賀大会、大津グラウンドに1千余人が参加して開催（5月）</li> <li>● 「横須賀三笠まつり」でヨットレース（三笠一猿島）、弓道大会、柔道大会を開催（5月）</li> <li>● 第1回三笠艦復元記念関東新人柔道大会を横須賀学院体育館で開催（5月）</li> <li>● 体育指導委員連絡協議会議長、浜倉光四郎(昭和36～46)（5月）</li> <li>● 池上中・根上進、第7回全日本中学校放送陸上競技大会で、砲丸投に優勝・14m90（8月）</li> <li>● 市第一高女体操部・ソフトボール部・バドミントン部が揃って全日本高校選手権大会に出場（8月）</li> <li>● 不入斗中卓球部、県大会女子団体で、3年連続優勝（8月）</li> <li>● 第1回学区対抗球技大会（ソフトボール、バレーボール）を久里浜で開催（9月）</li> <li>● 市第一高女体操部、国民体育大会出場（10月）</li> <li>● 「横須賀体操協会」発足。会長に加藤勇（11月）</li> <li>● 長井小、市委託体育研究発表会開催(体育学習における社会的態度はどう養われるか)(11月)</li> <li>● 第12回横須賀市中学校長距離継走大会を大津グラウンドで開催(12回～14回大津グラウンド)(12回大会から駅伝大会を継走大会とした)(12月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 第1回NHK杯ラグビー試合、秩父宮ラグビー場で開催。八幡製鉄50-13日本大学（1月）</li> <li>▲ 「県小学校体育研究会」発足。第1回研究協議大会開催（2月）</li> <li>● 「全国体育施設協議会」を「日本体育施設連盟」に改称（3月）</li> <li>● 小学校学習指導要領施行（4月）</li> <li>▲ 県教委の「保健体育課」を「体育課」と「学校保健課」に分離（4月）</li> <li>▲ 県教委「オリンピック準備室」新設（4月）</li> <li>◆ 第26回世界卓球選手権大会（北京）で日本は女子団体3連勝。男子団体2位、男子・女子ダブルスに優勝（4月）</li> <li>● 保体審「学徒の対外運動競技について」答申（5月）</li> <li>● ヒマラヤのランダン・リルンで大阪市大隊の3人がなだれで遭難死。日本ヒマラヤ登山史上初の犠牲者を出す（5月）</li> <li>● 「全日本学校剣道連盟」発足（5月）</li> <li>● 文部省、「学校の対外運動競技の基準」文部事務次官通達。中学校の全国大会の参加が可能になる（6月）</li> <li>▲ 世界アマチュアレスリング大会、横浜市日吉で開催（6月）</li> <li>● スポーツ振興法公布（6月）</li> <li>● 「国会議員柔道連盟」結成（6月）</li> <li>● オリンピック東京大会の特別措置法公布（6月）</li> <li>● 第58回IOC総会、オリンピック東京大会の種目を20種目とする（6月）</li> <li>▲ 「県アーチェリー協会」発足（7月）</li> <li>● 戦後初の第1回中学生水上競技大会、浜松市で開催（8月）</li> <li>▲ 県教委「体育指導の参考」改定（8月）</li> <li>● 第1回アジア自転車競技選手権大会、後楽園で開催（9月）</li> <li>● 「日本WHO協会」発足（9月）</li> <li>● 第1回「スポーツの日」（国民体育デーを改称）（10月）</li> <li>● ヨーロッパ遠征の日紡貝塚バレーチーム帰国</li> </ul>
-------------------------	---	--

年代	横須賀の体育・スポーツ	国・県内の体育・スポーツ
		<p>(監督大松博文、主将葛西昌枝、24戦無敗、東洋の魔女と言われる)(10月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 第16回国民体育大会・秋田大会開催(10月)</li> <li>● 全日本体操祭開催(横須賀会場大津グランド)(10月)</li> <li>▲ 関東中体連保健体育研究協議会開催。360名参加(湯元中学校)(11月)</li> <li>▲ 「体育施設活用に関する協議会」を「県体育施設研究協議会」に改称(11月)</li> <li>▲ 「オリンピック東京大会神奈川準備委員会」発足(12月)</li> <li>▲ オリンピック東京大会のため「県カヌー協会」設立(12月)</li> </ul>

<p>1962 (昭和37)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県体育功労者、青木良雄(陸上)、青木正雄(相撲)受賞(1月)</li> <li>・ 馬堀中、体育館竣工(3月)</li> <li>・ 城北小学校設立(4月)</li> <li>・ フォークダンスの会を豊島小で開催(5月)</li> <li>・ 体操競技実演会を市体育会館で開催(6月)</li> <li>・ 「横須賀フォークダンス協会」発足。発会式を豊島小で開催。会長に堀幸男(6月)</li> <li>・ 池上中、体育館竣工(7月)</li> <li>・ 市宮追浜水泳プール(25m×7コース)開設(7月)</li> <li>・ 体操競技審判講習会を市体育会館で開催(7月)</li> <li>・ 「横須賀ユースホステル協会」発足。会長に高橋孝二(7月)</li> <li>・ 市民ヨット大会を走水海岸で開催(8月)</li> <li>・ 市第一高女体操部、ソフトボール部揃って全日本高校選手権大会出場(8月)</li> <li>・ 「横須賀アマチュアレスリング協会」発足。会長に渡辺喜三郎(10月)</li> <li>・ 市第一高女体操部、バドミントン部、ソフトボール部揃って国民体育大会出場(10月)</li> <li>・ 長井小、県委託体育研究発表会開催(子ども達が友達と一緒に運動し、その喜びを味わう美しい人間関係をつくる)(11月)</li> <li>・ 長井小、県体育優良校として県学校体育研究連合会から表彰される(12月)</li> <li>・ 第1回日米親善アマチュアレスリング大会を市体育会館で開催(12月)</li> <li>・ 追浜小(一)、常葉台中(現根岸小)(一)体育館竣工</li> <li>・ 「横須賀庭球協会」発足。会長に本田七郎(一)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▲ 「日本体育学会県支部」発会式挙(1月)</li> <li>● 「全日本柔道少年団」発足(2月)</li> <li>● 「体育指導者連盟」改組。「日本学校体育研究連合会」設立決定(3月)</li> <li>▲ 県、「高等学校体育の参考」発行(3月)</li> <li>● 中学校学習指導要領(33年改訂)全面实施(4月)</li> <li>● 文部省、「体育局運動競技課」を「スポーツ課」に改称(4月)</li> <li>● 剣道を中学校で必修正科として実施(4月)</li> <li>▲ 第6回関東高校登山体育大会、箱根で開催(5月)</li> <li>▲ 県営藤沢総合運動場の陸上競技場開場式挙(5月)</li> <li>▲ 横浜文化体育館(開港百年祭記念事業の一環として)開館(5月)</li> <li>● 日本体育協会、創立50周年記念式典において「スポーツ少年団」結成(6月)</li> <li>▲ 初の公営城ヶ島ユースホステル開館(7月)</li> <li>▲ 全国高校野球選手権大会神奈川予選で、同大会初のナイター(川崎球場)が行われる(7月)</li> <li>● 第15回世界体操選手権大会(プラハ)で日本男子団体初優勝(7月)</li> <li>▲ 青少年錬成会始まる(7月)</li> <li>● 保健体育審議会「スポーツテストの試案」発表(7月)</li> <li>● 堀江憲一、小型ヨット(マーメイド号)で太平洋を93日かけて横断。サンフランシスコに入港(8月)</li> <li>● 全国高等学校野球選手権大会(甲子園)開催。作新学院、初めて春の選抜と合わせて連続優勝(8月)</li> <li>● 国民体育大会水泳競技に中学生の参加が認められる(8月)</li> <li>◆ 第4回アジア競技大会、ジャカルタで開催(8月)</li> <li>◆ 「アジア陸上競技協会」発足(8月)</li> <li>● 文部省「児童生徒の体格と運動能力」を発表(8月)</li> <li>● 世界重量挙げ選手権大会(ブタペスト)で、三宅兄バンタム級に優勝(9月)</li> <li>● 第1回全日本中学校水泳競技大会開催(8月)</li> </ul>
------------------------	---	--

年代	横須賀の体育・スポーツ	国・県内の体育・スポーツ
		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 第1回漕艇世界選手権スイスのルツェルンで開催。日本代表エイト11位(9月)</li> <li>▲ 県スポーツ振興審議会第1回会議開く。9月1日委員20名委嘱(9月)</li> <li>▲ 「県体育指導委員連絡協議会」発足(9月)</li> <li>● 世界バレーボール選手権(モスクワ)で開催。日本女子チーム7試合全勝で完全優勝、男子は5位(10月)</li> <li>● 中国卓球チーム来日(男子中国2勝1敗、女子日本2勝1敗)(10月)</li> <li>● 体育の日の記念行事始まる(10月)</li> <li>● 第1回全国学校体育研究会開催(11月)</li> <li>▲ 県高等学校保健体育部会内に体力テスト委員会発足(12月)</li> <li>▲ 「オリンピック東京大会神奈川県準備委員会」発足(9月)</li> <li>▲ 座間町総合グラウンド完成(ー)</li> <li>● 日体協会長、石井光次郎(昭和37~50)(ー)</li> </ul>

<p>1963 (昭和38)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 県体育功労者、飯田道雄(陸上)、丸田幸平(ー)受賞(1月)</li> <li>● 第1回ママさんバレーボール大会開催(44年7回大会まで体育指導委員協議会主催。以降、市教委主催)(1月)</li> <li>● 田浦中、体育館竣工(3月)</li> <li>● 県横高、体育館兼講堂(1,032.9㎡)落成(3月)</li> <li>● 横須賀市体育指導委員、92名になる(4月)</li> <li>● 市営不入斗水泳プール(25m×7コース)開設(8月)</li> <li>● 市第一高女体操部、バドミントン部、庭球部、ソフトボール部、全日本高校選手権大会に揃って出場(8月)</li> <li>● 田戸小学校で高鉄棒を設置(8月)</li> <li>● 第36回市民体育大会に庭球が加わる(10月)</li> <li>● 日・米・ハンガリー三国親善アマチュアレスリング(フリー・グレコローマン)大会を大津国際観光ホテルで開催(10月)</li> <li>● 市第一高女体操部、国民体育大会出場(10月)</li> <li>● 体育課に指導主事制度ができる。石橋三郎指導主事就任(11月)</li> <li>● 第1回横三地区高等学校断郊競走大会開催(ー)</li> <li>● 長井小、市委託体育研究発表会開催(器械運動の段階的指導)(ー)</li> <li>● 大楠小、体育教材年間配当表作成(ー)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 日本登山学校創立(1月)</li> <li>● 日本ハンドボール協会、11人制の全廃、7人制の実施決定(2月)</li> <li>● 寺沢徹、別府毎日マラソンで2時間15分15秒の世界最高記録(2月)</li> <li>● 保体審「スポーツテストの内容および実施方法について」報告(3月)</li> <li>▲ 横浜市「オリンピック準備局」設置(3月)</li> <li>● 「日本モーターボート協会」発足(3月)</li> <li>● 文部省体育局に「オリンピック課」を設置(～65年3月)(4月)</li> <li>● 高等学校学習指導要領施行。剣道を高校の必修正科として実施(4月)</li> <li>▲ 「県学校体育研究連合会」発足(4月)</li> <li>● 第2回日豪水上東京大会で日本800mRに8分9秒8の世界新記録(4月)</li> <li>▲ 県営富岡射撃場、トラップ・スキート射撃大会開催(4月)</li> <li>● 「青少年スポーツ活動の促進について」通達(5月)</li> <li>● 「財団法人国際身体障害者スポーツ大会運営委員会」設立(5月)</li> <li>▲ 第1回県100射選手権大会(弓道)開催(5月)</li> <li>▲ 県教委にオリンピック課新設(6月)</li> <li>▲ 第4回全国サイクリングラリー、本県で開催(6月)</li> <li>● 岸記念体育館完成(東京代々木)(7月)</li> <li>▲ 第1回県登山学校開く(7月)</li> <li>● 文部省「オリンピック国民運動推進について」都道府県教委へ通達(7月)</li> <li>● スポーツテスト実施要項制定(8月)</li> <li>▲ 全国高校バレーボール大会で藤沢高校優勝(8月)</li> <li>▲ 横浜市総務局内に「オリンピック事務局」設置(8月)</li> <li>● ユニバーシアード大会(ブラジル)日本66名参加(8月)</li> </ul>
------------------------	---	---

年代	横須賀の体育・スポーツ	国・県内の体育・スポーツ
		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「全国高校選手権」が「全国高等学校総合体育大会」として発足（8月）</li> <li>▲ 第1回学校体育研究大会開催（9月）</li> <li>▲ オリンピックに備え、相模湖漕艇場できる（10月）</li> <li>● 依田郁子、80mHで11秒の壁を破る（10秒6）（10月）</li> <li>▲ 県ボウリング連盟結成記念大会、横浜フェアレーンで開催（10月）</li> <li>▲ 東京オリンピックのサッカー会場として、三ツ沢球場の整備始まる（10月）</li> <li>▲ 第1回県高等学校総合体育大会開会式を藤沢陸上競技場で開催（10月）</li> <li>▲ 県高体連創立15周年記念式典を挙（10月）</li> <li>● 「県ラジオ体操連盟」発足（－）</li> </ul>

<p>1964 (昭和 39)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県体育功労者、和田敏郎(水泳)、佐藤重吉(柔道)受賞（1月）</li> <li>・ 青葉小、北下浦中、体育館兼講堂竣工（2月）</li> <li>・ 市民スキー競技大会を燕スキー場で開催（2月）</li> <li>・ 横須賀市体育指導委員スポーツ講習会を市体育会館で開催（3月）</li> <li>・ 横須賀市青年団対抗卓球大会を開催（3月）</li> <li>・ 武山小、体育館兼講堂竣工（3月）</li> <li>・ 久里浜中、体育館竣工（3月）</li> <li>・ 横須賀市スポーツ振興審議会を設置。委員10名を委嘱（4月）</li> <li>・ 肢体不自由児の体育大会を青葉小で開催（4月）</li> <li>・ 「横須賀庭球協会」を「横須賀軟式庭球協会」に改称（4月）</li> <li>・ 中体連会長、井汲暢(昭和39～42)（4月）</li> <li>・ 中体研会長、井上武夫(昭和39～46)（4月）</li> <li>・ 東京湾横断遠泳大会、船舶の往来が激しいため、コースを三笠から観音崎までに変更して開催（7月）</li> <li>・ 東芝横須賀工場、第4回全日本実業団女子ソフトボール選手権大会で優勝。全国制覇を果たす（7月）</li> <li>・ 高坂小、オリンピック映画上映（7月）</li> <li>・ 追浜運動公園整備完了（7月）</li> <li>・ 県横高陸上競技部、全国高校陸上競技対抗選手権大会で優勝。全国優勝の夢を果たす（8月）</li> <li>・ 市第一高女フェンシング、ソフトボール、庭球、バドミントン、体操の各部が全国総体に揃って出場（8月）</li> <li>・ 夏島小、常葉台中、東京オリンピック見学(10月)</li> <li>・ オリンピック聖火、市内通過(大森俊夫君ら参加。湘南から横須賀を経由して)(10月)</li> <li>・ 市工高、生徒が早退し、オリンピック開会式を見学する（10月）</li> <li>・ 猪熊功選手、東京オリンピック柔道競技男子重量級で優勝（10月）</li> <li>・ 「横須賀サッカー協会」発足。会長古坂崑城(当時の名称は横須賀蹴球協会)（10月）</li> <li>・ 市第一高女体操部、国民体育大会出場（10月）</li> <li>・ 県横高陸上競技部、猪熊功選手、神奈川県スポーツ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 文部省、大学の山岳部の指導監督を強めるよう通達（1月）</li> <li>● 第19回国民体育大会冬季大会スケート競技駒ヶ岳スケートリンクを中心にして開催（1月）</li> <li>● 第1回スポーツ少年団指導者中央講習会開催（1月）</li> <li>◆ 第9回冬季オリンピック大会（インスブルック）開催。参加国36、参加選手1,111名、日本、バイアスロン競技に初参加（1月～2月）</li> <li>● 鈴木敬一(明大)世界男子スピードスケート500mで優勝（2月）</li> <li>▲ 「神奈川県スポーツ少年団本部」結成。34団体822名（2月）</li> <li>● 第1回全日本ラグビー選手権(花園のラグビー場)で開催。同志社大優勝（3月）</li> <li>● 文部省「青少年のスポーツテスト」の全国実施を発表（4月）</li> <li>▲ 第1回横浜市ローラースケート競技大会、神奈川県ローラースケートリンクで開催（4月）</li> <li>● 東京オリンピック標語、名古屋の中学生作「世界は一つ東京オリンピック」と決定（5月）</li> <li>● スポーツテストによる「体力・運動能調査実施(以降毎年実施)」（5月）</li> <li>● 県教委体育課、県民体操の「楽しい3つの体操」を制定（5月）</li> <li>● 「全日本空手道連盟」発足（6月）</li> <li>● 飯島秀夫(早大)、西ベルリンの陸上競技会で100mに10秒1、29年ぶりの日本新記録（6月）</li> <li>● 駒沢オリンピック公園完成（7月）</li> <li>● 保体審「スポーツの振興に関する基本計画について」（7月）</li> <li>● 第19回国民体育大会夏季大会(新潟)、新潟地震のため中止（6月）水泳のみを長岡市で開催（8月）</li> <li>● 岸記念体育館、東京代々木に完成（8月）</li> <li>▲ 第1回夏季巡回ラジオ体操会開催（8月）</li> <li>▲ 三ツ沢球技場完成（8月）</li> <li>▲ 江ノ島ヨットハーバー完成（8月）</li> <li>▲ 慶応高校軟式野球部、全国優勝(本県初)（8月）</li> </ul>
-------------------------	---	--

年代	横須賀の体育・スポーツ	国・県内の体育・スポーツ
	<p>賞受賞（11月）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ オリンピック出場の日本レスリング選手と本市チームとの親善試合が県横高で行われる（12月）</li> <li>・ 第15回中学校駅伝大会、長沢学園・北下浦中周辺コースで開催（15回～17回）（12月）</li> <li>・ 長井小、文部省委託体育研究推進。41年まで研究を継続（－）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 戸田漕艇場完成（9月）</li> <li>● オリンピック競技施設の「国立屋内総合競技場」完成（9月）</li> <li>▲ 逗子市民体育館完成（9月）</li> <li>● 日本武道館開館（10月）</li> <li>◆ 第18回夏季オリンピック大会（東京）開催。参加国94か国、参加選手5,558名。日本、金16、銀5、銅8。日本選手団410名。三宅・（重量挙げ）、遠藤・早田・山下（体操）、岡野・猪熊・中谷（柔道）、桜井（ボクシング）、花原・吉田・上武・渡邊・市口（レスリング）・女子バレー・体操男子団体など16種目に優勝。国立競技場に像「健康美」を建設（10月）</li> <li>▲ 相模湖漕艇場完成（10月）</li> <li>▲ オリンピック東京大会開催。サッカー横浜 三ツ沢、ヨット江ノ島・葉山、バレーボール横浜文化体育館、カヌー相模湖で開催（10月）</li> <li>▲ 国際交歓陸上競技小田原大会、城山競技場で開催（10月）</li> <li>● 東海道新幹線開通（10月）</li> <li>◆ パラリンピック（国際身体障害者スポーツ大会東京大会）開催。アジアで初めて（11月）</li> <li>● 文部省、高校生の冬山登山を禁止（12月）</li> <li>▲ 「県空手道連盟」発足（12月）</li> <li>● 「体力づくり国民会議」基本方針閣議決定（12月）</li> </ul>

<p>1965 （昭和40）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県体育功労者、神倉泰俊（卓球）、笹子武夫（スケート）、稲森俊治（陸上）受賞（1月）</li> <li>・ 長井小学校の体育研究が実を結び、全国優良校として表彰される（2月）</li> <li>・ 桜台中、大楠中、体育館竣工（2月）</li> <li>・ 夏島小、追浜中、体育館竣工（3月）</li> <li>・ 豊島小、体育館竣工（5月）</li> <li>・ 第1回少年野球大会、20チーム400人が参加して開催（7月）</li> <li>・ 空手演武大会を文化会館で開催（9月）</li> <li>・ 第1回市内実業団対抗陸上競技大会を大津競技場で開催（9月）</li> <li>・ 機構改革により市教育委員会に保健体育課設置。体育係（学校体育担当・社会体育担当）と保健給食係になる。体育課長・松井博（昭和40～42）（10月）</li> <li>・ 1万歩運動が久里浜、野比周辺で実施される（10月）</li> <li>・ 市民体育大会にライフル射撃、クレール射撃、体操が加わる（10月）</li> <li>・ 猪熊功、第4回世界柔道選手権大会、優勝（10月）</li> <li>・ 市内中学校長距離継走大会、長沢－野比－北武山コースで開催（11月）</li> <li>・ スポーツ少年団本部、4団体160名で発足。本部を体育課に置き、松井博体育課長が本部長となる（12月）</li> <li>・ 長井小、体育研究推進（－）</li> <li>・ 体育指導委員、32学区260名になる（－）</li> <li>・ 「射撃協会」が「クレール射撃協会」と「ライフル射撃</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 第1回東西大学ラグビー選手権大会（秩父宮ラグビー場）開催。法大優勝（1月）</li> <li>● 第33回全日本スピード選手権大会で鈴木恵一（明大）、500mで40秒2の世界最高記録をつくる（2月）</li> <li>▲ 県空手連盟結成記念演舞大会、横浜文化体育館で挙行（2月）</li> <li>● 市川崑監督の記録映画「東京オリンピック」完成（3月）</li> <li>● 「体力づくり国民会議」発足（3月）</li> <li>● 保体審「スポーツテストの内容および実施方法について（小学校）」答申（4月）</li> <li>▲ 丹沢大山国定公園誕生（4月）</li> <li>▲ 第7回アジアユースサッカー大会横浜会場の開会式、三ツ沢球場で挙行（4月）</li> <li>▲ 丹沢大山の国定公園指定を記念し、山岳人の大縦走大会始まる（5月）</li> <li>● 1972年の「第11回オリンピック冬季大会札幌招致委員会」正式に発足（5月）</li> <li>▲ 横浜・浅野学園山岳部OB登山隊、処女峰コルキニなど11峰の登頂に成功。またアンデス登山史上初めて縦走形式の登山に成功（5月～6月）</li> <li>● 文部省、小学校のスポーツテストの奨励を通達（5月）</li> <li>● 文部省「水泳・登山等の野外活動における事故防止について」、「学生の野外活動について」通達（6月）</li> <li>▲ 県レクリエーション協会、機構改革（6月）</li> </ul>
------------------------	---	---

年代	横須賀の体育・スポーツ	国・県内の体育・スポーツ
	協会」に分離独立する（－）	<ul style="list-style-type: none"> <li>▲ 「県民謡指導者連絡協議会」発足（6月）</li> <li>● 実業団のA級8チームで組織の「日本サッカーリーグ」発足（6月）</li> <li>● 重松森雄、ウインザーマラソンで2時間12分0秒の世界最高記録で優勝（6月）</li> <li>▲ 県立大和運動場開場（6月）</li> <li>▲ 第1回県カヌー選手権大会開催（6月）</li> <li>▲ 横浜市のマンモスプール、横浜プールセンター開場（7月）</li> <li>● 陸連会長・元オリンピック担当国務相河野一郎没67歳（7月）</li> <li>▲ 県立青少年キャンプ場、茅ヶ崎市柳島海岸に開設（7月）</li> <li>● 日本男女卓球チーム・日本体育代表団中国を訪問（7月）</li> <li>● 厚生省、プールの水質基準を発表（7月）</li> <li>● 「アジア体操連盟」発足（7月）</li> <li>● 渡部恒明ら、マッターホルン北壁に初登頂（8月）</li> <li>▲ 第1回県体育協会加盟団体幹部研究協議会、全国のトップを切って開催（9月）</li> <li>● 第20回国民体育大会岐阜大会開催（10月）</li> <li>● オリンピック記念青少年総合センター開設（12月）</li> <li>▲ 「体力づくり国民会議神奈川県協議会」発足（12月）</li> <li>▲ 県スポーツ振興審議会、河川敷などの利用についてスポーツ施設を優先させるよう建議（12月）</li> <li>▲ Y校ホッケー部、香港に遠征（3勝1敗）（12月～1月）</li> <li>▲ 公立学校体育施設開放事業始まる（－）</li> <li>▲ 厚木市営プール開設（－）</li> </ul>

1966 (昭和41)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 県体育功労者、加藤長吉(陸上)、山川初枝(体指)、渡辺峻(体操)受賞（1月）</li> <li>● 鴨居中、武山中、北下浦中（2月）、不入斗中（3月）、山崎小（5月）体育館竣工</li> <li>● 不入斗中、バレーコート、テニスコート、各2面新設（5月）</li> <li>● 県横高水泳プール竣工（6月）</li> <li>● 市営田ノ浦・根岸水泳プール開設（7月）</li> <li>● 「第13回東京湾遠泳大会」が三笠記念艦から観音崎までの「継泳競技大会」に名称を変えて開催（8月）</li> <li>● 市第一高女体操、卓球、庭球、フェンシングの各部が全国高校選手権大会に出場（8月）</li> <li>● 田浦中卓球部、県大会女子団場で、2年連続優勝（8月）</li> <li>● 谷川武体育協会長逝去（9月）</li> <li>● 本市「第1回歩こう会」がオリンピックデー（体育の日）に久里浜、野比周辺で開催される（10月）</li> <li>● 県ユースラリー、大楠山、不入斗中学校で開催（10月）</li> <li>● 市第一高女体操部、国民体育大会出場（10月）</li> <li>● 長井小、県委託体育研究発表(上手に体育ができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▲ 体力づくり国民運動県協議会、県下の農漁村の女性代表500人を集め秦野市で「体力づくり推進大会」を開催（2月）</li> <li>▲ 国際親善女子バドミントン第3戦、インドネシア対全京浜戦、横浜公園体育館で開催（2月）</li> <li>● 文部省「高等学校における弓道、レスリング、なぎなた等の実施について」通達(クラブ活動)（2月）</li> <li>● 文部省、「学校の体育的行事等における事故防止について」通達（2月）</li> <li>● 第15回別府毎日マラソンに寺沢徹(倉レ)前人未到の4連勝（2月）</li> <li>● オリンピック記念青少年総合センター開所（2月）</li> <li>▲ 横浜市、市教委共催、第1回横浜体育祭開始。市民歩け大会、体力テスト、スポーツ医事相談その他を行う（3月）</li> <li>▲ 県教委、スポーツテストの結果、全国レベルと比較し体位は優れるが、体力運動能力は劣ると発表（4月）</li> <li>● I O C、72年オリンピック冬季大会の開催地を札幌に決定（4月）</li> </ul>
----------------	--	--

年代	横須賀の体育・スポーツ	国・県内の体育・スポーツ
	<p>子にするための授業研究) (10月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「体育の日体力づくりみんなて歩こう会」を初めて実施(体育の日歩こう会は57年まで実施)(10月)</li> <li>・ 市民民謡の集いを文化会館で開催(11月)</li> <li>・ スポーツ少年団本部、第1回スポーツ交歓会を開催(11月)</li> <li>・ 県横高図書館を柔・剣道場に改築。竣工(11月)</li> <li>・ 第6回関東高校女子ソフトボール選手権大会(勝田市)に出場の市第一高校、準優勝(11月)</li> <li>・ 県体育指導委員大会・歩行運動県推進大会を市体育会館で開催(12月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 国立競技場トレーニングセンター開所(4月)</li> <li>● 日体協にスポーツ少年団本部設置(4月)</li> <li>● 第4回ユーパー杯女子バドミントン選手権大会、ウエリントンで日本チーム初優勝(5月)</li> <li>▲ 「県フォークダンス連盟」発足(5月)</li> <li>● 第1回アジア柔道選手権大会(マニラで日本、重量級、中量急、軽量級、無差別級の4階級に優勝(5月)</li> <li>● 「アジア体操連盟」発足(5月)</li> <li>▲ 「県学校野外活動研究会」発足。第1回研修会開催(6月)</li> <li>▲ スポーツテストテスター講習会開催(6月)</li> <li>● 第1回世界学生柔道選手権大会(ブラハ)で、日本、団体戦に優勝(6月)</li> <li>● 祝日法が改正され、「体育の日」「敬老の日」新設(6月)</li> <li>▲ 磯子のマンモスプールオープン(6月)</li> <li>● 札幌オリンピック冬季大会組織委員会設立(7月)</li> <li>▲ 県ボデイ・ビル協会主催第1回ミスターボデイ・ビルコンテスト県大会、葉山マリーナで開催(7月)</li> <li>▲ 県歩行運動始まる(7月～10月)</li> <li>▲ 丹沢登山訓練所開設(7月)</li> <li>▲ 横浜市立13高校の選抜サッカーチーム、中華全国体育総会の招きにより中国遠征へ出発(7月)</li> <li>▲ 京浜女子大徒歩隊35人、北海道一周800kmを29日間で踏破し鎌倉に帰る(8月)</li> <li>▲ 第1回日本ボウリング協会選抜チーム選手権大会県地区予選会、ヨコハマシーサイドホールで開催(8月)</li> <li>● ハンドボール少年団全国大会を三ツ沢で開催(8月)</li> <li>● 全国中学校体育大会始まる(8月)</li> <li>● 第1回世界アマチュア野球選手権大会開催(8月)</li> <li>● 「日本体育施設協会」設立(8月)</li> <li>● 中央教育審議会「後期中等教育の拡充整備について」答申(10月)</li> <li>▲ 「第1回体育の日」に県下378校が校庭、体育館、教室を地域住民に開放(10月)</li> <li>▲ 第1回県高校スポーツ強化促進協議会開催(10月)</li> <li>● 第21回国民体育大会大分大会開催(10月)</li> <li>● 第1回国際マラソン大会(福岡)開催(11月)</li> <li>● 全国高校駅伝大会を京都市で開催(12月)</li> <li>● 第1回国際マラソン選手権大会、世界の各種国際レースの上位入賞者を招いて福岡で開催。ニュージーランドのライアン優勝(12月)</li> <li>◆ 第5回アジア競技大会(バンコク)で日本、金18、銀22、銅10(12月)</li> <li>▲ 第1回児童・生徒体力づくりの推進と研究発表大会開催(12月)</li> <li>● 第1回全国高体連研究大会開催(12月)</li> </ul>

年代	横須賀の体育・スポーツ	国・県内の体育・スポーツ
		<ul style="list-style-type: none"> <li>● この年丙午で出産 136 万 974 人、前年比 25%減(－)</li> <li>▲ 県「児童・生徒体力づくり推進委員会」設置(－)</li> <li>▲ 県中体連、県体育協会に加盟(－)</li> </ul>

<p>1967 (昭和 42)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県体育功労者、二宮実(陸上)、矢島信治(市体協)受賞(1月)</li> <li>・ 明浜小(1月)、公郷小(2月)体育館竣工</li> <li>・ 「横須賀身体障害者スポーツ協会」発足。全国的にも珍しく期待される(2月)</li> <li>・ 身体障害者のスポーツ合宿訓練を武山自衛隊で実施(ハイキング、陸上競技など)(3月)</li> <li>・ 長井中、体育館竣工(3月)</li> <li>・ 空手協会長の高橋孝二、横須賀市体育協会会長に就任(昭和 42～56)(4月)</li> <li>・ 市体育協会、29 競技協会と 1 職域団体になり、県下でも有数の体育協会になる(4月)</li> <li>・ 山における急患講習会を文化会館で開催(6月)</li> <li>・ 市営久里浜水泳プール(3,075 m<sup>2</sup>)開設(7月)</li> <li>・ 汐入小、校庭に散水器設置(8月)</li> <li>・ 市第一高女体操、フェンシング、ソフトボールの各部が高校総体出場(8月)</li> <li>・ 馬堀中陸上部、県大会で男女そろって総合優勝(10月)</li> <li>・ 市第一高女体操部、国民体育大会出場(10月)</li> <li>・ 歩こう会、馬堀中一防衛大一走水一観音崎一鴨居小にコースを変更して実施(10月)</li> <li>・ 第 18 回中学校駅伝競走大会、久里浜体育会館スタート・野比海岸周辺コースで実施(18 回～22 回)(11月)</li> <li>・ 「横須賀なぎなた協会」発足。会長に徳永アサ(－)</li> <li>・ 城北小、体育館竣工(－)</li> <li>・ 長井小、体育研究推進(－)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▲ 米国防相、横浜のヨットハーバー返還を発表(1月)</li> <li>▲ 第 22 回国民体育大会冬季大会スケート競技で本県高校女子フィギュア初優勝(1月)</li> <li>▲ 第 8 回関東高校フェンシング選手権大会で県立川崎高校男子初栄冠(1月)</li> <li>▲ 第 1 回関東実業団ハンドボール選手権大会開催される(3月)</li> <li>● 文部省、高等学校における弓道、レスリングなぎなたなどの実施について通達(教科で実施可能)(3月)</li> <li>▲ 西ドイツスポーツ少年団県下で交換(射撃、ヨット)(3月)</li> <li>● 保体審「スポーツテストの内容および実施方法について」答申(4月)</li> <li>▲ 県教委の社会体育指導者養成教室始まる(4月)</li> <li>▲ 藤沢サッカーグラウンド、県営藤沢陸上競技場内に開場(5月)</li> <li>▲ 「県フォークダンス連盟」発会式とともに第 1 回県民フォークダンス大会開催(5月)</li> <li>▲ 文部省、立山山麓千寿ヶ原に登山研究所開設(6月)</li> <li>▲ 「県高校軟式野球連盟」結成記念選抜大会開催(6月)</li> <li>▲ 第 1 回全日本バレーボール男女選抜リーグ戦、平塚、川崎で開催(7月～8月)</li> <li>● 鹿島郁夫、コラーサ二世号(小型ヨットで 101 日かけて太平洋横断に成功(7月)</li> <li>● 日本女性 2 人がマッターホーン北壁に初登頂(7月)</li> <li>▲ 横浜駅振興の室内温水プール、ヨコハマスイミングセンター完成(7月)</li> <li>▲ 第 6 回県主催「県身体障害者体育大会」開催。陸上、水上、洋弓に今年から卓球が加わる(7月)</li> <li>● 定通制全国大会を全国高体連主催で開催(8月)</li> <li>▲ 第 1 回神奈川新聞社杯争奪シニアボウリング大会開催(8月)</li> <li>▲ 第 1 回神奈川県中学校総合体育大会開催(8月)</li> <li>◆ ユニバーシアード東京大会開催。日本、64 のメダル獲得。北朝鮮問題で共産圏諸国不参加(8月～9月)</li> <li>▲ 関東中学校保健体育研究協議会第 12 回大会開かれる。テーマは「中学生に自主的な体力づくりを」(9月)</li> <li>▲ 横浜市立小学校体育研究会主催第 1 回同市立小学校水泳大会開催(9月)</li> <li>▲ 神奈川新聞・県レクリエーション協会の共催で</li> </ul>
-------------------------	---	---

年代	横須賀の体育・スポーツ	国・県内の体育・スポーツ
		<p>「ママさんバレーボール大会」開催（9月）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▲ 「第1回小田原市婦人バレーボール大会」開催（10月）</li> <li>● 兵庫県教委、68年度以降の公立高校入試に体育実技の併用を発表（10月）</li> <li>● 第22回国民体育大会埼玉大会開催（10月）</li> <li>● 第42回全日本庭球選手権で16歳の高校生沢松和子優勝（11月）</li> <li>● 文部省、中学校、高等学校における運動クラブの指導について通達（11月）</li> <li>▲ 県立スポーツ会館完成（12月）</li> <li>▲ 県民フォークダンス制定（－）</li> </ul>

<p>1968 (昭和43)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県体育功労者、山本政治(軟式庭球)受賞（1月）</li> <li>・ 奥山義雄教育長就任（昭和43～55）（2月）</li> <li>・ 第1回横須賀市小学校児童ボール運動大会を市体育会館他で開催（男子サッカー、女子ポートボール）（2月）</li> <li>・ 沢山小（2月）、鴨居小（3月）体育館竣工</li> <li>・ 保健体育課長、三浦正(昭和43～45)（4月）</li> <li>・ スポーツ少年団二代日本部長、三浦正（保健体育課長）（4月）</li> <li>・ 県補助事業としてスポーツ教室を開催(市民スポーツ教室の前身)（4月）</li> <li>・ 中体連会長、丸山一雄(昭和43～44)（4月）</li> <li>・ 日本体操祭横須賀大会を不入斗中、桜台中、青葉小で開催。体操、フォークダンス、ママさんバレーボール大会を開催（5月）</li> <li>・ 諏訪小、体育館竣工（6月）</li> <li>・ 市営平作水泳プール（1,940 m<sup>2</sup>）開設。幼児用プールは54年完成（7月）</li> <li>・ 「東京湾継泳競技会」が「東京湾遠泳競技会」として開催される（15回～19回）（7月）</li> <li>・ 勤労青少年を対象にスポーツ教室（軟式庭球、バレーボール、弓道、バドミントン）を開催（8月）</li> <li>・ 県横高・草野康二、全国高校陸上競技選手権大会、棒高跳、優勝（8月）</li> <li>・ 田浦中バレーボール部、県大会、女子1セットも落とさず優勝。全国大会で活躍（8月）</li> <li>・ 市第一高女体操部、高校総体、国民体育大会に出場(8月・10月)</li> <li>・ 青木良夫、第23回国民体育大会福井大会クレー射撃のトラップ級に国体タイ記録で優勝。最優秀選手賞受賞（10月）</li> <li>・ 歩こう会、市役所前から臨海公園－汀橋－安針塚－長浦小コースで実施（10月）</li> <li>・ 第1回累積マラソン教室を開催（11月）</li> <li>・ 白井陽昌（相撲）、神奈川スポーツ賞受賞（11月）</li> <li>・ 学校体育施設開放テストケースとして豊島小、諏訪小の2校をモデル校に指定、実施（－）</li> <li>・ 「横須賀体育協会」を「横須賀市体育協会」に改称（－）</li> <li>・ 高坂小、市委託体育研究推進（－）</li> <li>・ 「横須賀モーターボートクラブ(現横須賀モーターボート協会)」発足（－）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 第1回アジア女子ホッケー選手権大会、ニューデリーで開催（1月）</li> <li>▲ 県立スポーツ会館開館（1月）</li> <li>▲ 第1回フォークダンス指導者研修会開催(2月)</li> <li>◆ 第10回冬季オリンピック大会(グルノーブル)開催。参加国37,参加数1,293名（2月）</li> <li>▲ 「県歩行運動推進連絡協議会」発足（3月）</li> <li>▲ 働く青少年フォークダンス大会始まる（3月）</li> <li>▲ 県高体連、創立20周年記念式典挙行（5月）</li> <li>● モンブラン頂上からのスキー滑降に、日本で初めて植木毅が成功（6月）</li> <li>▲ 日本体育学会県支部研究発表会始まる（6月）</li> <li>▲ 日本体育学会県支部「体育研究」創刊（6月）</li> <li>▲ 「球音」(県高校野球50年史)発刊（7月）</li> <li>● 文部省、新小学校学習指導要領告示（7月）</li> <li>● 体育功労者および社会体育優良団体表彰実施要項(改訂)を定める（8月）</li> <li>▲ 第1回教員皆泳教室開催（8月）</li> <li>▲ 県立体育センター竣工（8月）</li> <li>◆ 第19回夏季オリンピック大会(メキシコシティ)開催。参加国119,参加数6,084名、史上最大。日本、17競技、215名参加。金11、銀7、銅7。加藤・中山・(体操)、宗村・田中・上武・金子(レスリング)、三宅(重量挙げ)、体操男子団体、金メダル。フォズベリー背面跳びを考案し2m24で金メダル（10月）</li> <li>● 第23回国民体育大会福井大会開催（10月）</li> <li>● 文部省、スポーツ功労者顕彰規定制定（11月）</li> <li>● 「中学校、高等学校における運動クラブの指導について」通達（11月）</li> <li>▲ 第1回県歩行運動推進大会開催（11月）</li> <li>▲ 小田原市、第1回小学校体育大会開催（11月）</li> <li>▲ 小学校教員皆泳教室始まる（－）</li> <li>▲ 県「学校野外活動指導者必携」発刊（－）</li> <li>● 第1回日韓高校スポーツ交歓競技会開催（－）</li> </ul>
------------------------	--	--

年代	横須賀の体育・スポーツ	国・県内の体育・スポーツ
1969 (昭和 44)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体育功労者、鈴木明(野球)受賞(1月)</li> <li>・ 市民スケートの会を群馬県榛名湖で開催(2月)</li> <li>・ 池上小、体育館兼講堂竣工(3月)</li> <li>・ 神奈川県健康まつり横須賀大会、不入斗中で開催(ママさんバレー、体操、民謡)(5月)</li> <li>・ 丹沢山で第1回市民登山教室を一泊二日で開催(7月)</li> <li>・ 馬堀中柔道部、県大会、男子団体優勝(7月)</li> <li>・ 市営鴨居水泳プール(1,611㎡)開設(8月)</li> <li>・ 学校体育施設開放事業を始める。夏島小、豊島小、諏訪小、明浜小の4校が指定される(8月)</li> <li>・ 市第一高女体操部、フェンシング部、全国高校選手権大会出場(8月)</li> <li>・ 長坂小銃射撃場、米軍から国に返還される(8月)</li> <li>・ 不入斗中卓球部、県大会、男子団体優勝(8月)</li> <li>・ 第1回横須賀市小学校児童水泳記録大会を市営久里浜公園プールで開催(~平成6年)(9月)</li> <li>・ 第1回横須賀市小学校児童陸上記録大会を県横高グラウンドで開催(10月)</li> <li>・ 市の機構改革により、教育委員会「保健体育課」が「体育課」と「学校保健課」に分かれる。体育課課長、三浦正(保健体育課長から引き続いて。(~昭和45)(10月)</li> <li>・ 山崎小学校、アスレチック(山崎富士)完成(10月)</li> <li>・ 各学区の家庭婦人参加のママさんバレーボール大会(9人制)を開催(11月)</li> <li>・ 高坂小学校、市・県委託体育研究発表会開催(動きづくり、力づくり、仲間づくり)(11月)</li> <li>・ カナダにおけるレスリング第1回ジュニア世界選手権大会グレコローマンスタイル 60kg級で県横高・加藤能弘4位に入賞(-)</li> <li>・ 第10回市民スキーの会を記念し、祝賀行事・式典を行う(-)</li> <li>・ 大津テニスコート増設(-)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▲ 葉山町、町民スキー学校始まる(2月)</li> <li>● 金子裕之(新潟12歳)アルプスの最高峰モンブラン(4807m)からの滑降に成功。世界の最年少記録(4月)</li> <li>● 文部省、72年度から実施の中学校学習指導要領告示。体育重視される(4月)</li> <li>● 東名高速道路開通(5月)</li> <li>● 文部省、小学校体育指導書発行(5月)</li> <li>▲ 酒匂川サイクリングコース開設(6月)</li> <li>▲ 本県で文部省主催第1回学校体育実技講習会開催(6月)</li> <li>◆ アメリカ宇宙船アポロ1号、人類初の月面着陸に成功(7月)</li> <li>● 「青少年スポーツ連絡協議会」(仮称)設立決定(7月)青少年運動競技中央連絡協議会として第1回会合開催(7月)</li> <li>● 文部省、「児童生徒の運動競技について」事務次官通達。全国中学校大会が可能となる(7月)</li> <li>▲ 「清川村体育協会」発足(7月)</li> <li>● 「青少年運動競技中央連絡協議会」発足(7月)</li> <li>● 6人の日本登山隊、ヨーロッパアルプスのアイガー北壁の直登ルート登頂に成功。全員無事完登したのは世界で初めて(8月)</li> <li>◆ 第6回国際女子体育会議東京で開催(8月)</li> <li>▲ 全国高校総合体育大会、本県で開催(ヨット競技・江ノ島、漕艇・相模湖、ホッケー・三ツ沢、相撲・三ツ沢)の4種目(8月)</li> <li>▲ 県教委、野外活動指導者講習会始める(9月)</li> <li>● 女子バレーボールをテーマにしたテレビドラマ「サインはV」が人気を集める(10月)</li> <li>● 「全国中学校体育連盟」創立15周年記念式典を長崎市で挙げる(10月)</li> <li>● 第24回国民体育大会長崎大会開催(10月)</li> <li>● 「全国家庭婦人バレーボール連盟」発足(12月)</li> <li>▲ 県教委、体育施設管理者講習会開催(12月)</li> <li>● バレーボール実業団リーグ始まる(12月)</li> <li>▲ 小田原市、第1回青少年サッカー大会開催(-)</li> <li>▲ 社会体育指導者科学講座開催(-)</li> <li>▲ 女子教員の教材別体育実技講習会始まる(-)</li> </ul>
1970 (昭和 45)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県体育功労者、前田義一(柔道)受賞(1月)</li> <li>・ 田浦中、スプリンクラー設置(2月)</li> <li>・ 市工高、体育館竣工(床はデックスオーデックス)(3月)</li> <li>・ 横須賀国際観光ホテル閉館(4月)</li> <li>・ 体育館条例施行規則、一部改正(4月)</li> <li>・ 中体連会長、鈴木正利(昭和45~47)(4月)</li> <li>・ 浦賀中、新校庭造成工事竣工(6月)</li> <li>・ 池上中学校体育館で、県卓球大会団体予選会を実施(6月)</li> <li>・ 県主催の親子体力づくり大会を諏訪小で開催(6月)</li> <li>・ 長井中、スプリンクラー設置(7月)</li> <li>・ 不入斗公園第一・第二軟式野球場竣工(7月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 森田隊4人、冬のアイガー北壁に登頂。日本人では初めて(1月)</li> <li>▲ 県高体連特別委員会で諸規定(対外試合等)検討され始める(3月)</li> <li>● 第1回全日本女子プロボウリング選手権開催(3月)</li> <li>● 第1回全国高校バレーボール選抜優勝大会、東京体育館他で開催(3月)</li> <li>● 第1回全日本大学駅伝開催(3月)</li> <li>● 第1回全国家庭婦人バレーボール大会、東京駒沢屋内球技場で開催(4月)</li> <li>◆ 「国際剣道連盟」発足(4月)</li> <li>◆ 第1回世界剣道選手権大会、日本武道館で開催。日本が台湾を破り優勝(4月)</li> </ul>

年代	横須賀の体育・スポーツ	国・県内の体育・スポーツ
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 馬堀中柔道部、県大会、男子団体優勝（7月）</li> <li>・ 不入斗中卓球部、県大会、男子団体、2年連続優勝（8月）</li> <li>・ 市民登山の会（参加55名）北穂高岳へ登る（8月）</li> <li>・ 県横高弓道部、全国高等学校総合体育大会、男子団体、3位入賞（8月）</li> <li>・ 不入斗中・小杉、全国中学校卓球大会、決勝トーナメント進出（8月）</li> <li>・ 追浜中バスケットボール部、県大会、女子優勝（8月）</li> <li>・ 市営富浦水泳プール（4,073㎡）を開設（8月）</li> <li>・ 第25回国民体育大会夏季大会（岩手）に本市より県代表として9名派遣（9月）</li> <li>・ 第25回国民体育大会秋季大会（岩手）に本市より県代表として20名派遣（10月）</li> <li>・ 第11回全国青年大会に本市から柔道など8名が出場（11月）</li> <li>・ 本市に体育功労者表彰制度が設けられ、市民体育大会開会式（大津競技場）において市長から10名が表彰される（11月）</li> <li>・ 高坂小、市委託体育研究発表会開催（動きづくり、力づくり、仲間づくり）（11月）</li> <li>・ 第43回市民体育大会開催（参加者10,000人）（11月）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 日本人として初めてのヨット世界一周に成功した「チタ三世号」1年2か月ぶりに奄美大島の名瀬港に入港（4月）</li> <li>▲ 「家庭婦人バレーボール連盟」結成記念県大会開催（4月）</li> <li>▲ 「県定高体連」「県高体連」に移行。体育連絡委員会設置（4月）</li> <li>▲ 県立高校体育施設開放に関する通達（4月）</li> <li>◆ ユニバーシアード冬季大会（ロバニエミ）、日本、48名参加（4月）</li> <li>▲ 日本山岳会エベレスト登山隊の渡辺節子、エベレストのサウスコル（7985m）まで到達。女性の登高世界一の記録（5月）</li> <li>● 文部省、中学校指導書保健体育編発刊（5月）</li> <li>● 文部省、「児童生徒の体育活動による事故の防止等について」通達（6月）</li> <li>▲ 社会体育指導者、海外派遣（7月～8月）</li> <li>● 第1回全国中学校体操大会始まる。中学生の全国大会盛んになる（8月）</li> <li>● エベレスト登頂者植村直己、北米最高峰マッキンリー（6191m）に単独登頂世界初の5大陸最高峰を征服（8月）</li> <li>▲ 小田原市、第1回少年水泳大会開催（8月）</li> <li>▲ 東海大相模高、第55回全国高校野球選手権大会、優勝（8月）</li> <li>◆ 第2回世界女子ソフトボール選手権大会を日本で初めて大坂で開催（8月）</li> <li>● 文部省「子どもの遊び場確保のための当面の措置について」通達（8月）</li> <li>▲ オリエンテーリング県民大会開催（9月）</li> <li>● 文部省、高等学校学習指導要領（48年から実施の）改訂を告示。体育重視される（10月）</li> <li>● 第25回国民体育大会岩手大会開催（10月）</li> <li>● 日体協、アマチュア規程を定める（10月）</li> <li>▲ 全国職場スポーツ研究協議会、藤沢で開催（11月）</li> <li>▲ 鶴見川サイクリングコース開設（11月）</li> <li>● 第1回明治神宮野球大会行われる（11月）</li> <li>● 「(財)スポーツ安全協会」設立（12月）</li> <li>▲ 全国高校駅伝で相原高校優勝。優勝旗初めて東日本へ（12月）</li> <li>▲ 「県体育指導委員連絡協議会」を「県体育指導委員協議会」に改称（-）</li> </ul>
1971 (昭和46)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県体育功労者、軽部賢次（陸上）、森田利志夫（体指）受賞（1月）</li> <li>・ 県横高、柔剣道場（480㎡）を新築（2月）</li> <li>・ 長井小、「意欲を高める体育の授業」を刊行（2月）</li> <li>・ 体育指導委員協議会の3部会が、学校開放部、歩行運動部、女子体育レクリエーション部になる（2月）</li> <li>・ 体育指導委員制度発足10周年記念式典・祝賀会举行（青少年会館）（2月）</li> <li>・ 市営不入斗公園内にバレーボールコート8面と弓道場（5人立）が竣工。（3月）落成祝賀会举行（5月）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▲ 「神奈川ユースホステル協会」を「財団法人神奈川ユースホステル協会」に改組（1月）</li> <li>◆ プレオリンピックの札幌国際冬季大会、23か国1,100名を集めて開催される（2月）</li> <li>▲ 「神奈川県体育協会」が「財団法人神奈川県体育協会」になる（3月）</li> <li>● 「スポーツ安全協会傷害保険」発足（3月）</li> <li>● 文部省、特殊教育の小中学校の学習指導要領を告示（体育を重視）（3月）</li> <li>◆ 6年ぶりに世界卓球選手権大会（名古屋）に出場した中国は、7種目中4種目に優勝（4月）</li> <li>▲ 県伊勢原射撃場開設（4月）</li> </ul>

年代	横須賀の体育・スポーツ	国・県内の体育・スポーツ
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 田戸小、散水器設置（3月）</li> <li>・ 小学校女子体育実技講習会を諏訪小で開催（4月）</li> <li>・ 市営大津庭球コート10面に改修（2面はオールウェザー）一部屋根付スタンド完成（6月）</li> <li>・ 鴨居中、スプリンクラー設置（6月）</li> <li>・ 市民登山の会、富士山、剣岳に登る（7月）</li> <li>・ 県横高、全国高等学校陸上競技選手権大会で総合2位に入賞。男子400mで吉田益夫優勝（8月）</li> <li>・ 第26回国民体育大会和歌山大会夏季大会に8名、秋季大会、22名出場（10月）</li> <li>・ 第3回小学校児童陸上記録大会を大津競技場で開催（県横高グラウンドから変更）（10月）</li> <li>・ 体育課長（三代目スポーツ少年団本部長）片倉茂（昭和46～50）（10月）</li> <li>・ 市横高、体育館（1,410㎡）竣工（10月）</li> <li>・ 第44回市民体育大会記念式典において市体育功労者10名が市長から表彰される（11月）</li> <li>・ 高坂小、体育研究の成果が認められ全国学校体育研究連合会から全国表彰を受ける（11月）</li> <li>・ 逸見小、市委託体育研究発表会開催（狭い運動場で効果的な体育学習を進めるにはどうしたらよいか）（11月）</li> <li>・ 長井小学校、体育研究推進（－）</li> <li>・ 「地域対抗市内一周駅伝競走大会」が「市内駅伝競走大会」になる（－）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▲ 「県中体連バドミントン部」設立（4月）</li> <li>▲ 直営神奈川ユースホステル開所（4月）</li> <li>● デ杯庭球東洋ゾーンAセクションで日本がオーストラリアに50年ぶりに勝つ（田園コート）（4月）</li> <li>▲ 県立厚木スポーツ広場開設（4月）</li> <li>● 小学校学習指導要領全面実施（4月）</li> <li>● アーチェリー男子シングルス総合で中本新二1,252点の世界新記録（5月）</li> <li>● 中央教育審議会「今後における学校教育の総合的な拡充整備のための基本的施策について」答申（6月）</li> <li>● 女性アルピニスト今井通子、グランド・ジョラス北壁を登頂。女性として世界初の「欧州アルプス三大北壁」の三冠王になる（7月）</li> <li>▲ 南会津野外教育施設開所（7月）</li> <li>● 全国中学校サッカー大会で光化学スモッグのため選手が倒れる（8月）</li> <li>● 第26回国民体育大会和歌山大会開催（10月）</li> <li>● ハンドボールアジア地区予選で日本男子宿願の完全優勝を遂げ、初のオリンピック出場決まる（11月）</li> <li>▲ 第14回中体連関プロ大会、川崎で開催される（11月）</li> </ul>

<p>1972 (昭和47)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県体育功労者、高橋善一(水泳)、関島清(スポ少)受賞（1月）</li> <li>・ 坂本中、体育館竣工（2月）</li> <li>・ 北下浦中、散水器8基設置（3月）</li> <li>・ 「少林寺拳法連盟横須賀支部」発足（3月）</li> <li>・ 三教組、超過勤務拒否闘争。「部活動は勤務時間内」の方針が出される（4月）</li> <li>・ 中体研会長、岸文暎(昭和47～50)（4月）</li> <li>・ 体育指導委員連絡協議会議長、森田利志夫(昭和47、会長に改名して、昭和48～55)（5月）</li> <li>・ 不入斗公園内に、待望の3種公認陸上競技場竣工（6月）</li> <li>・ 豊島小、不入斗中、散水器設置（6月）</li> <li>・ 第19回東京湾遠泳競技大会を開催。以降、東京湾の海洋汚染と海面使用規制のため東京湾遠泳大会が中止になる（7月）</li> <li>・ 横須賀ユースホステル協会、創立10周年記念式典挙行（9月）</li> <li>・ 常葉台中、全国保健体育優良校として、全国学校体育研究連合会から表彰される（10月）</li> <li>・ 長井小、体育研究「意欲を高める体育の授業」(体操セットの実践研究)出版記念開催（10月）</li> <li>・ 第4回小学校児童陸上記録大会を、初めて、不入斗陸上競技場で開催（以降、現在まで開催）（10月）</li> <li>・ 第45回市民体育大会記念式典において市体育功労者15名が市長から表彰される（11月）</li> <li>・ 学校水泳プール、初めて建設される。田戸小（25m×6コース）、不入斗中（25m×7コース）新設。池上中改修（11月）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 文部省、「対外競技の定めについて」都道府県教委宛通知（2月）</li> <li>◆ 第11回冬季オリンピック大会（札幌）開催。参加国35、参加者1,128名。日本、金1、銀1、銅1。70m級ジャンプで笠谷、今野、青地の3選手が金、銀、銅を独占（2月）</li> <li>▲ 第28回都市対抗駅伝大会で川崎市が4年連続通算12度目の優勝を飾る（2月）</li> <li>● 中学校改定学習指導要領全面実施（4月）</li> <li>● 沖縄県発足（5月）</li> <li>● 文部省「高等学校学習指導要領解説保健体育編」発行（5月）</li> <li>● 日本水泳選手権大会で青木真由美が、女子100mバタフライで1分3秒9の世界新記録を樹立（7月）</li> <li>▲ 全国高校野球選手権大会神奈川大会決勝は東海大相模高が秦野高を下し2年ぶり3度目の優勝（7月）</li> <li>● 第1回日米大学野球選手権大会、日本5勝2敗（7月）</li> <li>● 国立競技場西が丘競技場竣工（7月）</li> <li>▲ 川崎市立向丘中学校、男子バレーボール全国大会で優勝（8月）</li> <li>◆ 第20回夏季オリンピック大会（ミュンヘン）開催。参加国122、参加者7,137名。日本、金13、銀8、銅8。体操男子団体でローマ大会以来4連勝した他、個人総合、平行棒、鉄棒でメダルを独占。バレーボール男子の優勝、水泳の田口、青木の活躍などで金13、銀8、銅8を獲得。中山・加藤・塚原（体操）、野村・関根・</li> </ul>
------------------------	--	--

年代	横須賀の体育・スポーツ	国・県内の体育・スポーツ
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・、富士見小、体育館竣工（－）</li> <li>・ 昭和 40 年以來の「累積マラソン」が「長距離記録会」として不入斗競技場で始められる（－）</li> <li>・ 横須賀庭球協会創立 10 周年記念式典を文化会館で挙行（－）</li> </ul>	<p>川口（柔道）、加藤・柳田（レスリング）、男子バレー、体操男子団体、金メダル（8月～9月）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▲ 県立野外教育センター開所（8月）</li> <li>◆ 第1回アジア卓球選手権大会（北京）で男子団体、日本、優勝（9月）</li> <li>● 第1回日米大学野球選手権大会に日本チーム5勝2敗でアメリカを破り初優勝（7月）</li> <li>● 「日本スケート連盟」から分離して「日本アイスホッケー連盟」が独立（10月）</li> <li>● 保健体育審議会「体育・スポーツの普及振興に関する基本方策について」「児童生徒の健康の保持増進に関する施策について」答申（12月）</li> <li>● ボウリング熱が異常といえるほど高まる（－）</li> <li>▲ 県立富岡射撃場、伊勢原に移転（－）</li> <li>▲ 「南足柄町体育協会」発足（－）</li> </ul>

1973 (昭和 48)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県体育功労者、日下重徳(野球)、矢込俊彦(柔道)受賞（1月）</li> <li>・ 森崎小、体育館竣工（2月）</li> <li>・ 船越小、市委託体育研究会開催(体力の向上を図る体育指導)（2月）</li> <li>・ 小学校児童球技大会が、本年度(第6回)から各都会別開催になる（2月）</li> <li>・ スポーツ少年団育成のため、母集団づくりに着手（4月）</li> <li>・ 中体連会長、井上武夫(昭和 48)（4月）</li> <li>・ 市体育指導委員規則制定(4月)</li> <li>・ 「体育指導委員連絡協議会」を「体育指導委員協議会」に改称。委員の定数、任期を制定。「議長」を「会長」に改称（5月）</li> <li>・ 横山和夫市長就任（～平成5）（7月）</li> <li>・ 第20回横須賀三浦地区高校総合体育大会・記念大会を不入斗陸上競技場で開催（7月）</li> <li>・ 第20回記念少年野球大会が開かれ、参加全チームが市内バレードを行う（8月）</li> <li>・ 田浦中バレーボール部、全日本中学校バレーボール選手権大会、ベスト8（8月）</li> <li>・ 馬堀中柔道部、県大会、男子団体優勝し、全国中学校柔道選手権大会出場。3位に入賞し、敢闘賞受賞（8月）</li> <li>・ 第28回国国民体育大会（千葉）秋季大会に本市から18名出場、夏季大会には1名出場（10月）</li> <li>・ 体育課の体育係(学校体育担当、社会体育担当)が(学校体育係、社会体育係)になる（10月）</li> <li>・ 第46回市民体育大会記念式典において市体育功労者15名が市長から表彰される（11月）</li> <li>・ 市内中学校長距離継走大会、観音崎公園内にコースを定着して開催（11月）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 高等学校改定学習指導要領施行（4月）</li> <li>● 文部省、小学校保健指導の手引き発行（4月）</li> <li>◆ サラエボの世界卓球選手権大会は日本チーム振るわず、男女とも団体3位に終わる（4月）</li> <li>● 祝日法の改正により振り替え休日誕生（4月）</li> <li>▲ 第45回選抜高校野球初出場で横浜高校優勝(4月)</li> <li>▲ 「逗子体育振興協議会」を発展的に解消して「逗子市体育協会」発足（4月）</li> <li>● 本土復帰記念沖縄特別国民体育大会開催（5月）</li> <li>◆ ローザンヌで開かれた第8回世界柔道選手権大会で日本選手全6階級を制覇（6月）</li> <li>▲ 横浜の高校バスケットボールチーム文化大革命以後、高校チームとして初めて訪中（6月）</li> <li>● 文部省「水泳等における事故防止について」各都道府県長宛通知（6月）</li> <li>● 陸上競技の河野信子、1,500m、800m、400mと相次いで日本新記録を樹立（6月～7月）</li> <li>● 陸連会長河野謙三を団長とする訪中代表団北京へ（7月）</li> <li>◆ ベオグラードで開かれた水泳初の世界選手権大会で、日本のシンクロチームが、3種目に銅メダルを獲得（9月）</li> <li>● 文部省「子どもの遊び場について」通知（9月）</li> <li>◆ 西ドイツで初の女子マラソン行われる（10月）</li> <li>● 第28回国国民体育大会千葉大会開催（10月）</li> <li>● 「社団法人全国大学体育連合」発足（10月）</li> <li>◆ 「アジア陸上競技協会」発足（11月）</li> </ul>
-----------------	--	--

1974 (昭和 49)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県体育功労者、酒井良温(卓球)、三浦正(小体研)受賞（1月）</li> <li>・ 市教委主催の市民スケートの会、市民スキーの会を協会主催行事として実施（1月）</li> <li>・ 船越小、市委託体育研究発表会開催(体力の向上を図る体育指導)（2月）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▲ 全国中学校バレーボール大会、男子の部で、川崎市立向丘中、47年に続き2度目の優勝（8月）</li> <li>◆ 第7回アジア大会（テヘラン）開催。中国初参加。バスケット女子初の金メダル（9月）</li> <li>◆ オリンピック憲章（参加資格）を改正</li> </ul>
-----------------	--	---

年代	横須賀の体育・スポーツ	国・県内の体育・スポーツ
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平作小、散水器 14 基設置（2月）</li> <li>・ 市商業高・浦郷小・逸見小・汐入小、体育館竣工（3月）</li> <li>・ 大楠中を学校体育施設開放校に指定（4月）</li> <li>・ 中体連会長、加藤説治(昭和 49～50)（4月）</li> <li>・ 浦賀中、田浦中、体育館竣工（5月）</li> <li>・ 大津公園内にスタンド付き相撲場が完成（5月）</li> <li>・ 常葉台中、市営相撲場完成記念大会優勝（5月）</li> <li>・ 武山小、水泳プール竣工（5月）</li> <li>・ 豊島小（5コース）・田浦中、水泳プール竣工（6月）</li> <li>・ 市教委、地区高連体共催の横須賀三浦地区高校総合体育大会は本年から地区高体連のみの主催で開催（7月）</li> <li>・ 馬堀水泳プール開設（7月）</li> <li>・ 「基地杯争奪野球大会」の名称を変更し、「第1回市長杯争奪県下郡市対抗軟式野球大会」として開催。国体予選を兼ねて、25年～48年まで24回行われた（8月）</li> <li>・ 市教委主催の市民登山の会が協会主催行事として実施される（8月）</li> <li>・ 第1回学区対抗児童ボートボール大会開催(8月)</li> <li>・ 市営臨海公園プール（1,394㎡）を開設（8月）</li> <li>・ 大津公園内に、ラグビー、サッカー兼用のグラスコート完成（9月）</li> <li>・ 第29回国民体育大会夏季大会に4名、秋季大会に21名を、本市より県代表として派遣（9・10月）</li> <li>・ 体育の日歩こう会、馬堀－鴨居コースから北下浦－武山コースに変更（10月）</li> <li>・ 関東ろう学校卓球大会、浦賀ドック体育館で開催。170名参加。女子団体3位入賞（10月）</li> <li>・ 馬堀ローラースケート場開設（10月）</li> <li>・ 第1回横須賀市中学校卓球大会を市体育会館で開催（11月）</li> <li>・ 第49回市民体育大会記念式典で、市体育功労者13名が表彰される（11月）</li> <li>・ 森崎小、散水器（10基）設置（12月）</li> <li>・ 光洋小、散水器設置（12月）</li> <li>・ スポーツ振興審議会、不入斗運動公園内に体育館建設、学校プールの建設促進、50m公認プールの建設等について建議（－）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 女子バレーボール世界選手権大会で日本チームがソ連を破り10年ぶりに世界一（10月）</li> <li>◆ 世界体操選手権大会（バルナ）で日本男子チームが団体で4連勝。オリンピックを含めると8連勝の偉業（10月）</li> <li>● 第29回国民体育大会茨城大会開催（10月）</li> <li>▲ 県中学校総合体育大会陸上競技男子4×200mRで、川崎市立塚越中が1分40秒0の全国中学新（10月）</li> <li>● プロ野球巨人軍長嶋茂雄引退（10月）</li> <li>● 福岡国際マラソンでショーター（アメリカ）が前人未到の4連勝。5位まで外国人選手が占める（12月）</li> <li>● 高校進学率90%を越す（－）</li> <li>● 地価上昇率32.4%、史上最高（－）</li> <li>● 全国高体連、傷病見舞金規程及び審査会運営規程制定（－）</li> </ul>

1975 (昭和 50)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県体育功労者、満田重義(軟庭)、池田昂二(サッカー)、板倉等(野球)、柔道協会、受賞（1月）</li> <li>・ 横須賀ハンドボール協会創立15周年記念式典・記念大会を開催（1月）</li> <li>・ 坂本小、体育館竣工（3月）</li> <li>・ 坂本小、森崎小（3月）体育館竣工</li> <li>・ 第22回横三地区高等学校総合体育大会(本年)から、高体連だけの主催で開催される（6月）</li> <li>・ 久里浜中（6月）、浦郷小（7月）体育館竣工</li> <li>・ 平作小、相撲場設置(体育振興会で)（7月）</li> <li>・ 横須賀陸上競技協会、創立40周年記念式典・記念大会挙行（8月）</li> <li>・ 第30回国民体育大会夏季大会に2名、秋季(三重)大会に18名を、本市より県代表として派遣(9</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▲ 鶴見区内の温水プールで初泳ぎ中の子どもと母親39人がガス中毒にかかる（1月）</li> <li>● 河野謙三、日体協会長に就任（3月）</li> <li>▲ 選抜高校野球大会決勝戦で本県の東海大相模高は高知高と対戦。延長13回の末5－10で優勝を逸した（3月）</li> <li>◆ ハンドボール女子世界選手権アジア地区予選日本対イスラエルの試合はゲリラ対策のため隠密のうちに東京の某集会場で行われ観客は0（3月）</li> <li>▲ 統一地方選挙で長洲一二知事初当選（4月）</li> <li>● 日本女子登山隊(久野英子隊長ら15名)がエベレスト(8848m)に登頂。女性初の征服（5月）</li> </ul>
-----------------	--	---

年代	横須賀の体育・スポーツ	国・県内の体育・スポーツ
	<p>月・10月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体育の日歩こう会、馬掘中一鴨居コースから北下浦一武山周辺コースに変更して開催(10月)</li> <li>・ 不入斗中陸上部、県大会、男子総合優勝(3年連続)(10月)</li> <li>・ 市民体育大会になぎなた競技が加わる(10月)</li> <li>・ 第1回横須賀市中学校卓球大会を市体育会館で開催。(20回続いた県卓球大会が、各市町村回り持ちになったため)(11月)</li> <li>・ 第50回市民体育大会記念式典で、市体育功労者14名が表彰される(11月)</li> <li>・ 鴨居中、体育倉庫焼失(11月)</li> <li>・ 「なぎなた連盟」が「なぎなた協会」に改称(一)</li> <li>・ 田戸小学校、体力づくり研究推進(体力づくりを通じて健康な心身の育成をするには、どのように指導したらよいか)(一)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ネパール国王、田部井淳子らにネパール最高勲章の一つグルカ・ダクシン・バフー等勲章叙勲(5月)</li> <li>▲ 横浜、上海ジュニア水泳交歓会が旭区の旭プールで行われ、日中親善の水しぶきをあげた(7月)</li> <li>● テニスの沢松和子、ウインブルドンテニス選手権大会で日系三世アン清村と組んで女子ダブル스에優勝。日本選手の優勝は41年ぶり史上2人目(7月)</li> <li>▲ 全国高校野球選手権大会神奈川大会の東海大相模高対横浜高戦に県高校野球史上最高の3万人の観衆がつめる(7月)</li> <li>▲ 3人乗り組みヨット「そらとぶあひる号」が世界一周の航海を終え、横浜港に入港(8月)</li> <li>● 福井烈(柳川商業)インターハイ・テニスで3年連続(単、複、団体)優勝(8月)</li> <li>◆ 第7回アジアアマチュアボクシング大会が横浜文化体育館で開催され、11階級のうち日本6階級で金メダル獲得(9月)</li> <li>◆ 藤猪省三、世界柔道選手権大会中量級に3連勝(10月)</li> <li>◆ コロンビア・カリで行われたバスケットボール女子世界選手権大会で、日本はソビエトに次いで2位になり、オリンピック出場権を獲得。生井けい子は最高殊勲選手に選ばれる(10月)</li> <li>● 高根沢威夫が棒高跳で日本新記録を3回更新。最高は5m41(10月)</li> <li>● オリピック記念青少年総合センター創立10周年記念式典挙行(10月)</li> <li>● サンフランシスコ～沖縄1人乗太平洋横断ヨットレースで小林規子が完全帆走。女性単独無寄港の最長記録をつくる(11月)</li> <li>● 日体協会長、河野謙三(昭和50～58)(一)</li> <li>● 小林則子、太平洋横断ヨットレースで女性単独の無寄港世界記録を樹立(一)</li> </ul>
1976 (昭和51)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県体育功労者、大迫佐吉(ラグビー)受賞(1月)</li> <li>・ 公郷小(1月)、衣笠小(5コース)(2月)、水泳プール竣工</li> <li>・ 公郷中(2月)、鶴久保小、馬堀小(3月)体育館竣工</li> <li>・ 東日本高校女子ソフトボール研修大会を追浜球場他で開催(4月)</li> <li>・ 体育課長(スポーツ少年団本部長)、澤田賢昭(昭和51～60)(4月)</li> <li>・ 市民スポーツ教室を新たにスタート(4月)</li> <li>・ 県レクリエーション協会の組織に合わせて、「市レクリエーション協会」発足。(フォークダンス協会、サイクリング協会、ユースホテル協会)で会長、堀幸男(昭和51～平成3)(4月)</li> <li>・ 中体連会長、禿宗男(昭和51～53)(4月)</li> <li>・ 中体研会長、石橋三郎(昭和51～57)(4月)</li> <li>・ 小体研会長、島倉三郎(昭和51～56)(4月)</li> <li>・ 第1回横須賀市小学校相撲大会を大津公園で開催(5月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▲ 県山岳連のローツエ登山隊(亀井隊長ら18人)の本隊10人が羽田を出発(1月)</li> <li>◆ 第12回冬季オリンピック大会(インスブルック)開催。参加国36、参加数1,121名。日本はスキー、スケートともに入賞者なし。戦後2度目の不成績(2月)</li> <li>◆ 第21回オリンピック夏季大会(モントリオール)開催。参加国94、参加数9,693名。日本、金9、銀6、銅10。バレーボール女子の東京大会以来の優勝はじめ、体操、レスリング、柔道などで金メダルを獲得。前回優勝の男子バレーボールは、初めてメダルを逸した。体操男子団体は、ローマ大会以来5連勝。園田・上村・二宮(柔道)、高田・伊達(レスリング)、加藤・塚原(体操)、女子バレーボール、体操男子団体、金メダル(7月)</li> <li>● 文部省、学校体育施設の開放における管理責任について各教委に通達(7月)</li> <li>● 文部省、学校体育施設の開放について大学、高</li> </ul>

年代	横須賀の体育・スポーツ	国・県内の体育・スポーツ
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 馬堀中、水泳プール竣工（6月）</li> <li>・ 坂本小、陽光小（5基）、走水小（5基）散水器設置（7月）</li> <li>・ 第4回関東中学校ソフトボール大会を不入斗公園野球場で開催（8月）</li> <li>・ 坂本中、水泳プール竣工（8月）</li> <li>・ 津久井小・高木八千代（陸上短距離日本記録達成者）PTA会長、教員に陸上競技の走法指導を行う（9月）</li> <li>・ 坂本中学校、水泳プール竣工。テニスコート2面、バレーコート2面完成（9月）</li> <li>・ 第51回市民体育大会記念式典で、市体育功労者11名が表彰される（11月）</li> <li>・ 市民民謡の集い、体育課所管から社会教育所管となり実施（11月）</li> <li>・ 第1回市民マラソン（現シーサイドマラソン）大会5km 10kmで開催。JC・市陸上競技協会主催（11月）</li> <li>・ 走水小、全国健康優良校として表彰される（11月）</li> <li>・ 21年にスタートした「町内対抗市内一周駅伝競走大会」が「市民駅伝競走大会」になる（12月）</li> <li>・ 浦郷小、沢山小（3基）、大津小（5基）散水器設置（12月）</li> <li>・ 船越小、校庭造成工事竣工（12月）</li> <li>・ 光洋小（12月）、体育館竣工</li> <li>・ 諏訪小、体力づくり研究推進（課外活動・遊びを通しての体力づくり）（－）</li> <li>・ 田戸小、体力づくり研究推進（調和的に体力を高めるにはどう指導したらよいか・柔軟性、筋力、投力を高めるための工夫）（－）</li> <li>・ 空手協会創立20周年記念大会を日産体育館で開催（－）</li> <li>・ 明浜小、散水器（9基）設置（－）</li> <li>・ 体育指導委員、42団体275名になる（－）</li> <li>・ スポーツ少年団、42団体1,086名になる（－）</li> </ul>	<p>専にも協力要請（7月）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 王貞治（巨人）対阪神戦で715号本塁打を放ちベーブルースの記録を破る（7月）</li> <li>▲ 第58回全国高校野球大会神奈川大会で東海大相模高が3年連続6度目の優勝（8月）</li> <li>● 夏の全国高校野球選手権大会で東京代表桜美林高校が60年ぶりに優勝（8月）</li> <li>● 第1回国際合気道大会、東京で開催（9月）</li> <li>▲ 老朽化が進んでいる横浜平和球場について、横浜市は約30億円を投入して全面再建する計画を明らかにした（10月）</li> <li>● コシチマラソン大会で宗猛優勝（10月）</li> <li>● 天皇在位50年記念式典挙行（11月）</li> <li>● 教育課程審議会「小学校、中学校および高等学校の教育課程の改善について」答申（12月）</li> <li>● 第9回日韓高校スポーツ大会開催。本年度で終了（－）</li> <li>● 植村直己、北極圏12,000kmの一人旅に成功（－）</li> </ul>

<p>1977 (昭和52)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県体育功労者、福島悟（剣道）受賞（1月）</li> <li>・ 横須賀市総合体育会館起工式を行う（1月）</li> <li>・ 平作小、久里浜小（1月）、高坂小、大桶小（2月）体育館竣工</li> <li>・ 第7回全国高校バスケットボール選抜優勝大会関東地区予選会を市体育会館で開催（2月）</li> <li>・ 田浦小、市委託体育研究発表会開催（2月）</li> <li>・ 武山中、池上中、長浦小、栗田小、体育館竣工（3月）</li> <li>・ 第26回横須賀市中学校総合体育大会開催。中学校制度30周年記念行事と合わせて記念式典を挙行し盛大に開催（5月）</li> <li>・ 第1回健康祭り開催（5月）</li> <li>・ 栗田小、散水器設置（6月）</li> <li>・ 学校教職員初心者水泳講習会、田戸小学校水泳プールで4日間実施（8月）</li> <li>・ 漏電防止のため市営水泳プール・学校水泳プールの安全点検を実施（ろ過装置、漏電検査、ブレーカーテスト等）（8月）</li> <li>・ 武山中、水泳プール竣工（8月）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 日体協、公認スポーツ指導者制度制定（1月）</li> <li>● 青梅マラソンの参加者が17,000名にふくれあがり、マラソンブームは更にエスカレート（2月）</li> <li>▲ 平和球場を改造してプロ野球フランチャイズなど多目的球場とする横浜スタジアム改造建設工事始まる（3月）</li> <li>● 男子フィギュアスケート世界選手権大会（東京）で佐野稔が史上初の銅メダルを獲得（3月）</li> <li>▲ 柔道の山下泰裕（東海大）、全日本柔道選手権で高木（東京）を破って2年連続2度目の王座に付く（4月）</li> <li>● 「日本武道協議会」発足（4月）</li> <li>◆ 全英バドミントン選手権大会女子シングルスで湯元博恵、優勝（3月）</li> <li>◆ バーギングムで開かれた世界卓球選手権大会男子シングルスで河野満が優勝。日本選手8年ぶりの栄冠。女子ダブルスで梅野尾悦子・植野恵美子組が優勝（4月～5月）</li> <li>● 文部省、小・中学校指導書体育編発行（5月）</li> </ul>
------------------------	--	--

年代	横須賀の体育・スポーツ	国・県内の体育・スポーツ
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 久里浜中体操部、県大会、男子団体優勝（8月）</li> <li>・ 市制 70 周年記念第 50 回市民体育大会举行(28 種目、16,000 名参加)市体育功労者 13 名が表彰される（11 月）</li> <li>・ 学校体育施設開放奨励事業が 53 校 92 施設になる（12 月）</li> <li>・ 諏訪小学校、文部省指定体育研究推進(遊びの開発を目指す授業)（－）</li> <li>・ 横須賀市スポーツ少年団本部長、鈴木明(昭和 52～平成 17)就任。(行政から自主運営へ)（－）</li> <li>・ 「家庭婦人バレーボール連盟」発足（－）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 樋口久子、全米女子プロゴルフ初優勝（6月）</li> <li>● 水泳女子 100m 自由形で山崎幸子が 1 分の壁を破り 59 秒 9 の日本新記録樹立（7 月）</li> <li>● 文部省、小・中学校学習指導要領告示（7 月）</li> <li>▲ 県公立中学校 30 周年記念式典で「地区中体連旗」が贈られる（7 月）</li> <li>● 東京都のプールの漏電事故により、全国的な点検指示あり（8 月）</li> <li>● 札幌市、1984 年開催の第 11 回冬季五輪へ立候補（9 月）</li> <li>● 王貞治、ハンクアーロンの記録を破り 756 号を記録。国民栄誉賞第 1 号受賞（9 月）</li> <li>◆ 高田祐二が世界レスリング選手権大会（ローザンヌ）のフリースタイル 52 kg 級で 4 連勝（10 月）</li> <li>● 文部省、児童生徒の体力運動能力発表。背筋力の低下がクローズアップ（10 月）</li> <li>● 第 32 回国民体育大会青森大会開催（10 月）</li> <li>● 青木正純、日本陸上競技選手権大会、男子砲丸投げに 10 年連続優勝（10 月）</li> <li>● バレーボールワールドカップ（東京）で日本女子チーム初優勝。世界選手権（1974 年）、オリンピック（1976 年）と合わせて三冠獲得（11 月）</li> <li>● 部活動手当の支給を定める人事院規則の改定（12 月）</li> <li>● スポーツ功労者顕彰規程を改定。世界選手権大会優勝者も表彰される（12 月）</li> </ul>

<p>1978 (昭和 53)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県体育功労者、萩原嘉一（軟式庭球）、財部重彦（ハンドボール）受賞（1 月）</li> <li>・ 諏訪小学校、文部省指定体育研究の成果を県で発表（1 月）</li> <li>・ 常葉中、船越小、望洋小、鷹取小、陽光小、体育館竣工（2 月）</li> <li>・ 長浦小、田戸小、小原台小、体育館竣工（3 月）</li> <li>・ 軟式庭球協会、日華親善軟式庭球大会のため中華民国へ遠征（3 月）</li> <li>・ 「横須賀市体育のあゆみ」発刊（3 月）</li> <li>・ 体育指導委員の定数が 275 名から 285 名に改まる（4 月）</li> <li>・ ろう学校、第 2 期校庭整備工事完了。散水器設置（6 月）</li> <li>・ 船越小、平作小（6 基）散水器設置（7 月）</li> <li>・ 湘南鷹取第 2 公園水泳プール（1,677 m<sup>2</sup>）開設（7 月）</li> <li>・ 池上中、水泳プール竣工（7 月）</li> <li>・ 第 12 回県中学校総合体育大会(横須賀ブロック会場)開催（8 月）</li> <li>・ 武山中、散水器（10 基）設置（9 月）</li> <li>・ 不入斗公園内に市民待望の市総合体育会館竣工（8,284 m<sup>2</sup>）（9 月）</li> <li>・ 横須賀市総合体育会館の管理について、県内で初めて第 3 セクターの横須賀市開発公社（現都市施設公社）に委託される（11 月）</li> <li>・ 市総合体育会館の運営委員会規則を制定（11 月）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 別府毎日マラソンで宗茂が 2 時間 9 分 56 秒の世界歴代 2 位の新記録をマークし優勝（2 月）</li> <li>● 春の選抜高校野球大会で前橋高の松本投手が完全試合を行う（3 月）</li> <li>▲ 新装成った横浜スタジアムで 3 万人のファンを集め、新生横浜大洋一巨人のオープニングゲームが行われる（4 月）</li> <li>● 日本初の女性マラソン大会（多摩湖）開催（4 月）</li> <li>▲ 県高体連、創立 30 周年記念式典を举行（5 月）</li> <li>● 植村直己、初の北極点単独到達およびグリーンランド単独走破（5 月）</li> <li>◆ 1984 年冬季オリンピック大会はサラエボ（ユーゴスラビア）に決定。札幌招致ならず（6 月）</li> <li>● I O C 理事会で鈴木良徳にオリンピック銅賞授与を決定（6 月）</li> <li>● 日本なぎなた連盟、日体協に加盟（6 月）</li> <li>▲ 第 60 回全国高校野球選手権神奈川大会決勝は横浜スタジアムで行われ、横浜高 5－3 横浜商で、横浜高が 15 年ぶりに 12 度目の優勝を飾る（7 月）</li> <li>● 県高体連 30 周年記念「神奈川グラフ」発刊（7 月）</li> <li>▲ 都市対抗野球大会決勝は神奈川代表の東芝、日本鋼管が対戦。4－0 で東芝が勝ち、黒獅子旗を獲得（8 月）</li> <li>● 文部省、高等学校学習指導要領告示（8 月）</li> </ul>
-------------------------	---	---

年代	横須賀の体育・スポーツ	国・県内の体育・スポーツ
	<ul style="list-style-type: none"> <li>月)</li> <li>・ 開館記念行事を挙行 (11月)</li> <li>柔道 (渡辺利一郎、猪熊功、佐藤宣踐ら)</li> <li>剣道 (高野武、倉澤照彦、子中沢辰男)</li> <li>バレーボール (東洋高校対藤沢商高) 女子 (富士フィルム対日本鋼管)、バスケットボール日本リーグ女子 (日立戸塚対シャンソン) 男子 (大和証券対三井生命、トヨタ自工対東芝)</li> <li>・ 市民参加として、民謡、小中高生のダンス、家庭婦人体操、ママさんバレーボール大会を開催 (11月)</li> <li>・ 走水小、全国健康優良校として表彰される (11月)</li> <li>・ 田浦小、県指定体育研究発表会開催 (器械運動の段階的指導) (11月)</li> <li>・ 第51回市民体育大会記念式典で市体育功労者10名が表彰される (11月)</li> <li>・ 小学校特殊学級合同体育大会を開催 (11月)</li> <li>・ 横須賀市が、「健康都市横須賀」を宣言 (―)</li> <li>・ 「蹴球協会」が「サッカー協会」に改称 (―)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● オリンピック招致を目指し、名古屋にオリンピック問題協議会が結成される (9月)</li> <li>◆ 体操世界選手権大会 (ストラスブール) で日本男子チームは団体5連勝。オリンピックを含めて18年間無敗の大記録を達成した (10月)</li> <li>● 文部省、体力運動能力テストの結果を発表 (10月)</li> <li>● 第33回国民体育大会長野大会開催 (10月)</li> <li>● 山下泰裕、世界柔道選手権大会無差別級で優勝。4月に行われた嘉納治五郎杯大会 (95kg以上・無差別級) の優勝と併せて家元の名誉を回復 (11月)</li> <li>● 福岡国際マラソンで、瀬古俊彦、2時間10分21秒で優勝。8年ぶりに外国選手の優勝を阻止した (12月)</li> <li>● 日中平和条約調印 (12月)</li> <li>◆ 第8回アジア大会、タイで開催 (12月)</li> <li>● 全国高体連、高校総体の前年度優勝校の出場を取りやめる (―)</li> <li>● 全国高体連、通信制生徒の高校総体出場を承認 (―)</li> </ul>

<p>1979 (昭和54)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県体育功労者、中川忠助(陸上)、須藤久太郎(野球)、山根康熙(ソフトボール)受賞 (1月)</li> <li>・ 市工高、格技室竣工 (1月)</li> <li>・ 常葉中、散水器設置 (1月)</li> <li>・ 第12回バレーボール日本リーグ女子富士フィルム―三洋電機、男子富士フィルム―東洋レーヨンを市総合体育会館で開催 (2月)</li> <li>・ 馬堀中、岩戸小、馬堀小、衣笠中、久里浜小 (2月) 散水器設置</li> <li>・ 武山小体育館増改築工事竣工 (2月)</li> <li>・ 衣笠中、野比中、津久井小、久里浜小 (2月)、池上小、衣笠小、長井小、ろう学校 (3月) 体育館竣工</li> <li>・ 全日本柔道選手権大会関東地区予選兼関東柔道選手権大会を市総合体育会館で開催 (3月)</li> <li>・ 市体育指導委員制度設置20周年事業挙行(市総合体育会館) (3月)</li> <li>・ 「横須賀市スポーツ栄光章表彰制度」制定 (4月)</li> <li>・ 第33回全関東軟式卓球選手権大会を市総合体育会館で開催 (4月)</li> <li>・ 日台親善ボクシング大会を市総合体育会館で開催 (4月)</li> <li>・ 小原台小で学校開放運営委員会発足 (4月)</li> <li>・ 中学校総合体育大会総合開会式は本年28回大会から室内(横須賀アリーナ)で開催。以降現在に至る (4月)</li> <li>・ 「横須賀ボウリング協会」発足 (4月)</li> <li>・ 中体連会長、松永秀夫(昭和54) (4月)</li> <li>・ 本市出身広川関の宮城野親方襲名披露慈善大相撲横須賀場所が市総合体育会館で開催される (6月)</li> <li>・ 第12回日韓親善国際バスケットボール大会東京学生選抜―高麗大を市総合体育会館で開催 (6月)</li> <li>・ 関東地区少年剣道大会を総合体育会館で開催 (6月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 日本バレーボール協会、小学生バレーボール連盟の設立を決定 (1月)</li> <li>◆ 女子フィギュアスケート世界選手権大会 (ウィーン) で渡辺絵美が日本女子初の銅メダルを獲得 (3月)</li> <li>● 保体審「児童生徒の運動競技の在り方について」答申 (3月)</li> <li>● 文部事務次官通知で「児童生徒の運動競技の基準」が改定される。中学校の全国大会が7種目になる。(全国大会、中学校年1回、高校年2回) (4月)</li> <li>● 世界卓球選手権大会男子シングルスで、小野誠治、優勝 (5月)</li> <li>▲ 県高校総合体育大会が、三ツ沢競技場に151校、11,000名余の若人が参加して盛大に行われる (5月)</li> <li>● 柔道の山下泰裕、全日本柔道選手権で全試合一本勝で史上初の3連覇 (4月)</li> <li>● 第1回全日本女子実業団ホッケー選手権大会開催 (5月)</li> <li>▲ 横浜山岳会のヒマラヤ遠征登山隊第1次隊員が、カラコルムの未踏峰カリムピーク (6736m) の登頂に成功 (8月)</li> <li>▲ 第1回全国中学校野球大会、横浜スタジアムで開催 (8月)</li> <li>● 箕島高が夏の高校野球選手権大会で優勝。春の選抜大会に続いて連続制覇。史上3度目 (8月)</li> <li>◆ ヨットの470級世界選手権大会 (メデンブリック・オランダ) で甲斐幸・小宮亮が優勝 (8月)</li> <li>● 第34回国民体育大会宮崎大会開催 (10月)</li> <li>● 第1回国際女子マラソン大会が東京で行われる。初優勝はJスミス(イギリス) (11月)</li> <li>▲ 第1回県中学校駅伝競走大会を三ツ沢公園陸上競技場周辺コースで開催 (11月)</li> </ul>
------------------------	---	--

年代	横須賀の体育・スポーツ	国・県内の体育・スポーツ
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市陸協会員、自衛隊員、米海軍兵員による日米親善陸上競技大会を不入斗陸上競技場で開催（7月）</li> <li>・ 日産自動車硬式野球部、都市対抗野球大会に横須賀代表として出場。3位に入賞（8月）</li> <li>・ 全日本社会人体操競技選手権大会を市総合体育会館で開催（9月）</li> <li>・ 横須賀市役所野球部、秩父宮杯全日本軟式野球大会に関東地区代表として出場。活躍する（9月）</li> <li>・ 川村隆男（防衛大）、国民体育大会ボクシング競技ライト級、準優勝（10月）</li> <li>・ 県家庭婦人バドミントン大会を市総合体育会館で開催（11月）</li> <li>・ 「横須賀家庭婦人ソフトボール連盟」発足（11月）</li> <li>・ 第52回市民体育大会記念式典で市体育功労者11名が表彰される（11月）</li> <li>・ 関東実業団6人制バレーボールリーグ選抜男女優勝大会を市総合体育会館で開催（12月）</li> <li>・ 諏訪小、全国保健体育優良校として、全国学校体育研究連合会から表彰される（－）</li> <li>・ 船沢隆行、第2回世界エリートレスリング大会フリースタイル60kg級、3位（－）</li> <li>・ 「横須賀モーターボートクラブ」「横須賀モーターボート協会」略称「YMBA」に改称（－）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 福岡国際マラソンで瀬古俊彦（早大）が2連勝。宗兄弟が2～3位を占める（12月）</li> <li>● フォートワース（アメリカ）の世界体操選手権大会で、日本男子団体チームはソビエトに完敗し、男子団体6連勝はならず（12月）</li> <li>◆ 世界柔道選手権大会（パリ）で、藤猪省三が史上初の4連勝（前回まで中量級、今回は78kg以下）山下泰裕（95kg以上）で初チャンピオン（12月）</li> <li>● 第1回バドミントン日本リーグ開催（12月）</li> <li>● 日本人初のオリンピック金メダリスト織田幹雄、五輪功労賞を受賞（－）</li> <li>▲ 日本鋼管バレーボール男子、全日本総合選手権大会で2年連続7度目の制覇（－）</li> <li>▲ 全国高校選抜バレーボール大会で藤沢商高が大商大付属校（大阪）を3－1で破り史上初のV2達成（－）</li> <li>▲ バasketボール日本リーグで、日本鋼管7年ぶり5度目の優勝（－）</li> </ul>

<p>1980 (昭和55)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県体育功労者、芝野米次(卓球)受賞（1月）</li> <li>・ 市商高で部室竣工（1月）</li> <li>・ 横須賀ハンドボール協会創立20周年記念式典・記念大会挙行（2月）</li> <li>・ 北下浦中、散水器(8基)設置（2月）</li> <li>・ 神明中（2月）、大津中、神明小（3月）、体育館竣工</li> <li>・ 第13回バレーボール日本リーグ男子日本鋼管－松下電器、日本製鉄－専売広島を市総合体育会館で開催（3月）</li> <li>・ 青池実教育長就任（昭和55～58）（4月）</li> <li>・ スポーツクラブ育成のため、市に「スポーツ指導者派遣制度」制定（4月）</li> <li>・ 「横須賀市スポーツ大会出場者奨励金交付制度」制定（4月）</li> <li>・ モスクワオリンピック大会代表選手選考ボクシング大会を市総合体育会館で開催（4月）</li> <li>・ 中体連会長、中原朗(昭和55)（4月）</li> <li>・ 国際優秀選手新体操演技会を市総合体育会館で開催。参加国は、日本、イタリア、西ドイツ、チェコスロバキア、ブルガリア（5月）</li> <li>・ キリンワールド国際バスケットボール大会日本学生選抜－アメリカメリーランド大を市総合体育会館で開催（6月）</li> <li>・ 市横高で、格技室、プール完成披露される（6月）</li> <li>・ 平作小、久里浜小、アルミ製プール竣工（7月）</li> <li>・ 追浜公園野球場、ナイター設備完成。点灯式を行う（7月）</li> <li>・ 北下浦小、相撲教室開催。宮城野部屋力士が来校（8月）</li> <li>・ 第35回国民体育大会関東地区大会(ミニ国体)は本県で行われ、本市でソフトボール：不入斗、追</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 第13回冬季オリンピック大会(レークプラシッド)開催。参加国49、参加数1,501名、日本、金0、銀1、銅0。役員・選手73名参加。70m級ジャンプで八木和弘が銀メダル獲得。他に入賞なし（2月）</li> <li>▲ 全国高校選抜バレーボール大会で、藤沢商高決勝で習志野高を破り史上初の3連覇（3月）</li> <li>● 第1回全日本女子サッカー選手権大会開催（3月）</li> <li>● 小学校学習指導要領完全実施（4月）</li> <li>● 国立オリンピック記念青少年総合センター発足（4月）</li> <li>● JOC(日本オリンピック委員会)は、第22回オリンピック大会(モスクワ)の不参加を決定（5月）</li> <li>● 日本山岳隊チョモランマ(エベレスト8848m)に中国側から登頂。エベレスト史上を飾る（5月）</li> <li>◆ 第22回モスクワオリンピック大会、日、米、西独、中国など不参加。参加国81、参加数5,687名（7月）</li> <li>● 男の平均寿命73.46歳、世界一に（7月）</li> <li>▲ 第62回全国高校野球選手権大会決勝、横浜高－早稲田実業戦は6－4で横浜高が初優勝を飾る（8月）</li> <li>● 全日本水泳選手権大会(代々木プール)の女子200m平泳ぎで、長崎宏子(秋田川尻小6年)が優勝。小学生の全日本選手権大会での優勝は初めて（8月）</li> <li>▲ 第2回全国中学校軟式野球大会を横浜スタジアムで開催。横浜市立潮田中学校が美濃加茂東(岐阜)を下し優勝（8月）</li> <li>▲ 第1回横浜マラソン(山下公園－本牧市民公</li> </ul>
------------------------	--	--

年代	横須賀の体育・スポーツ	国・県内の体育・スポーツ
	<p>浜球場、バドミントン：市総合体育会館、柔剣道：武山自衛隊の3競技を開催（8月）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公郷小、散水器設置（9月）</li> <li>・ 市民健康体操を発表（9月）</li> <li>・ 大楠中、高坂小、散水器設置（10月）</li> <li>・ 青葉小、市委託体育研究発表会開催(楽しい体育学習)（10月）</li> <li>・ 鷹取中で小学生の転落事故発生。当岩場での岩登りが禁止となる（10月）</li> <li>・ 第53回市民体育大会記念式典で、市体育功労者9名が表彰される（11月）</li> <li>・ 横須賀陸上競技協会創立45周年記念式典・祝賀会挙行。記念誌発刊（11月）</li> <li>・ 浦郷小、浦賀小体育館竣工（－）</li> <li>・ 「横須賀硬式テニス協会」を「横須賀テニス協会」に改称（－）</li> <li>・ 横須賀山岳協会、30周年誌「山岳協会のあゆみ」発刊（－）</li> </ul>	<p>園）で実行委員会発足（－）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 第35回国民体育大会栃木大会開催。本大会より地区予選会がブロック大会となる（10月）</li> <li>▲ 第35回国民体育大会で本県は21年ぶりに天皇杯3位の快進撃を見せた（10月）</li> <li>◆ 第22回夏季オリンピック大会（モスクワ）開催。参加国80、参加数5,217名。ソ連のアフガニスタン侵攻により、ボイコットが相次ぐ（7月）</li> <li>● 名古屋市が1988年のオリンピック大会開催地に立候補する（11月）</li> <li>◆ 第1回世界女子柔道選手権大会開催（11月）</li> <li>▲ 第2回県中学校駅伝競走大会、「三ツ沢公園周回コース」から「津久井湖周回コース」に変更（11月）</li> <li>● 福岡国際マラソンで、瀬古俊彦がモスクワチャンピオンマラソン優勝のチェルビンスキー（東ドイツ）を破り3連勝（12月）</li> </ul>

<p>1981 (昭和56)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県体育功労者、伊藤和男(陸上)受賞（1月）</li> <li>・ 第14回バレーボール日本リーグ、女子富士フィルム-日立茂原、男子富士フィルム-日本鋼管戦を市総合体育会館で開催（2月）</li> <li>・ 大矢部中（1月）、鷹取中、上の台中、大津小（2月）体育館竣工</li> <li>・ 市営大津庭球場改修完成。クラブハウスとコートも11面に増設され、コート開きが行われる（4月）</li> <li>・ 第32回関東高等学校軟式庭球大会を追浜、大津テニスコートで開催（4月）</li> <li>・ 久里浜中、散水器(9基)設置（4月）</li> <li>・ 体育指導委員の定数が、285から295になる（4月）</li> <li>・ 県立観音崎公園のフィールドアスレチック使用開始（4月）</li> <li>・ 中体連会長、石橋三郎(昭和56)（4月）</li> <li>・ 体育指導委員協議会会長、山川初江(昭和56～平成2)（5月）</li> <li>・ 関東高等学校柔道大会を市総合体育会館で開催（6月）</li> <li>・ 昭和56年度関東軟式庭球一般選手権大会を追浜、大津のテニスコートで開催（6月）</li> <li>・ 望洋小、水泳プール竣工（6月）</li> <li>・ 栗田小、大津中、水泳プール竣工（7月）</li> <li>・ 日華親善高校ボクシング大会、全神奈川対高雄高校の試合を市総合体育会館で開催（7月）</li> <li>・ 昭和56年度全国高校総合体育大会体操競技を市総合体育会館で開催（8月）</li> <li>・ 昭和56年度NHK夏季巡回ラジオ体操の会(指導柳川英麻呂)が、不入斗競技場で、3,000人の市民の参加で行われる（8月）</li> <li>・ 日韓親善ジュニア軟式庭球インドア大会全日本高校選抜、神奈川県高校選抜対韓国高校選抜戦を市総合体育会館で開催（8月）</li> <li>・ 小倉澄男(日産自動車)、第36回国民体育大会空手競技重量級で優勝（9月）</li> <li>・ 山崎良次、第36回国民体育大会レスリング競技少</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「日本ラケットボール連盟」設立（3月）</li> <li>● 福岡市民体育館、全国初の身障者スポーツ教室開催（3月）</li> <li>▲ 昨年末、北アルプス八方尾根で遭難した逗子開成高の山岳パーティー6人全員が遺体で発見され、遭難から134日目に無言の下山をする（5月）</li> <li>▲ 全国高校野球選手権神奈川大会決勝は、横浜高が2年連続4度目の甲子園出場を決める（7月）</li> <li>● 「はばたけ青春、広げよう友情」をスローガンに、全国高校総合体育大会が、三ツ沢競技場に、47都道府県7,145名の役員・選手が参加して、行われる。本県では陸上競技など8競技が行われる（8月）</li> <li>▲ 第1回横浜マラソン、山下公園をスタート。本牧市民公園をゴールとする10km20kmで実施のための実行委員会発足（8月）</li> <li>▲ 全国中学校総合体育大会(野球、庭球、体操)神奈川で開催（8月）</li> <li>● オランダ、マストリヒトの世界柔道選手権大会で山下泰裕が95kg以上級・無差別級に優勝（9月）</li> <li>● バーデンバーデン(西ドイツ)のIOC総会で1988年のオリンピック大会の開催地はソウル(韓国)と決定。名古屋は意外な敗北を喫す（9月）</li> <li>▲ 第26回関東中学校保健体育研究協議会が開催される。700名参加(湯河原中)（10月）</li> <li>● 第36回国民体育大会滋賀大会開催（10月）</li> <li>● 立山香代子(旧姓林)、第65回日本陸上競技選手権大会、砲丸投げに19連勝を達成（10月）</li> <li>● 釜本邦茂(ヤンマー)が本田技研戦で昭和42年4月の対豊田織機戦以来238試合めで200得点を記録する（11月）</li> <li>● 17歳の増田明美(成田高)が女子長距離種目(3,000m、5,000m、10,000m、20kmロード)</li> </ul>
------------------------	--	--

年代	横須賀の体育・スポーツ	国・県内の体育・スポーツ
	<ul style="list-style-type: none"> <li>年男子グレコローマンスタイル 81 kg級、優勝 (10月)</li> <li>県家庭婦人バドミントン大会を市総合体育会館で開催 (10月)</li> <li>第 54 回市民体育大会記念式典で、市体育功労者 13 名が表彰される (11月)</li> <li>小川直之・田村孝(関自工)、56 年度神奈川県スポーツ賞、ヨット競技で受章 (11月)</li> <li>市営西部テニスコート(4面)が市内武の射撃場跡に竣工 (一)</li> </ul>	<p>に続々日本新記録達成 (一)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 早稲田大学K 2 登山隊、世界第二の高峰、カラコルムの K 2 (8611m) の未踏で最難ルート西稜から世界初の登頂に成功 (一)</li> </ul>

1982 (昭和 57)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 第 15 回バレーボール日本リーグ男子富士フィルム-日本鋼管、新日鉄一住友金属戦を市総合体育会館で開催 (1月)</li> <li>● 第 36 回三浦半島県下郡市対抗駅伝競走大会、コースを変更し、スタート地点を市総合体育会館に移し久里浜体育館まで 37.7 kmで開催 (1月)</li> <li>● 桜台中、市委託体力づくり研究発表会開催(1月)</li> <li>● 体力づくり推進のため、第 1 回市体力づくり実践研究発表大会を市総合体育会館で開催 (2月)</li> <li>● 横須賀市体育協会長、高橋孝二辞任。柔道協会長、渡辺利一郎、体育協会長に就任(昭和 57~59) (4月)</li> <li>● 田浦中、テニスコート竣工 (4月)</li> <li>● 中体連会長、吉氷俊一(昭和 57) (4月)</li> <li>● 小体研会長、小林福蔵(昭和 57~58) (4月)</li> <li>● 東日本軟式野球選手権大会、追浜球場で開催 (6月)</li> <li>● 海上自衛隊全国ハンドボール大会を市総合体育会館で開催 (6月)</li> <li>● 大矢部小水泳プール竣工 (6月)</li> <li>● 武山小相撲場、補修工事完了 (6月)</li> <li>● 神明小、高坂小、池上小、長井中、大津中、野比中、水泳プール竣工 (7月)</li> <li>● 浦賀 7 丁目公園水泳プール開設 (7月)</li> <li>● 久里浜中剣道部、県大会、男子団体優勝(横須賀初) (7月)</li> <li>● 日産自動車野球部、都市対抗野球大会に出場。3 位入賞 (8月)</li> <li>● 県中学校新体操選手権大会を市総合体育会館で開催 (8月)</li> <li>● 大津中柔道部、県大会、男子団体優勝 (7月)</li> <li>● 大津中・後藤竜二、全国中学校柔道大会 78 kg級、第 3 位 (8月)</li> <li>● 大津中・戸川慎一郎、全日本中学校陸上競技選手権大会男子走高跳、第 3 位 (8月)</li> <li>● 第 16 回全日本社会人卓球選手権大会を市総合体育会館で開催 (9月)</li> <li>● 追浜小、散水器設置 (9月)</li> <li>● 関東ろう学校卓球大会を市総合体育会館で開催 (10月)</li> <li>● 走水小、市委託体育研究発表会開催 (10月)</li> <li>● 横須賀軟式庭球協会、創立 50 周年記念式典及び記念大会を挙行。50 周年誌発刊 (11月)</li> <li>● 小学校特殊学級合同運動会を開催 (11月)</li> <li>● 第 55 回市民体育大会記念式典で、市体育功労者</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 新日本製鉄釜石ラグビー部、第 19 回日本ラグビー選手権大会に史上初の 4 連覇を達成 (1月)</li> <li>● 天皇杯全日本サッカー選手権大会で日本鋼管が優勝 (1月)</li> <li>▲ 第 54 回選抜高校野球大会に横浜商高(Y高)の 44 年ぶり 6 度目の出場が決まる (2月)</li> <li>● 日体協、公認スポーツドクター制度発足 (4月)</li> <li>● 日本学校健康会発足 (7月)</li> <li>▲ 夏の高校野球県大会決勝で、法政二高が日大高を下し優勝。21 年ぶり 8 度目の出場を決める。神奈川県大会が日本最大の規模になる (7月)</li> <li>▲ 全国中学校陸上競技大会で、男子 200m に、吉岡勇二(浜中)は 21 秒 15 の全国中学新記録を出す (8月)</li> <li>▲ 大和市立光丘中バレーボール、全国大会で優勝 (8月)</li> <li>▲ 県教委、「子どもの体に関する実態調査」をまとめる (9月)</li> <li>◆ バレーボール世界選手権大会男子(ブエノスアイレス)、女子(リマ)で、日本は男女とも 4 位と後退した(9月~10月)</li> <li>● 第 37 回国民体育大会島根大会開催 (10月)</li> <li>▲ 第 37 回国民体育大会で、本県は天皇杯、皇后杯とも 5 位に前進 (10月)</li> <li>▲ 高校生では 14 年ぶりにテニスの全日本チャンピオンになった岡川恵美子(市ヶ尾高)、井上悦子(江南台高)が、プロに転向 (10月)</li> <li>▲ 県中学校総合体育大会陸上競技男子 100m で、石井建吾(湘光中)が 10 秒 6 の全国中学新記録を出す (10月)</li> <li>● 日体協オリンピックキャンペーン「がんばれニッポン」開始 (10月)</li> <li>◆ 第 9 回アジア大会開催(ニューデリー)(11月)</li> <li>▲ 磯崎公美(山北高)はアジア大会(ニューデリー)で、200m、400m、400mR、4×400mR に、日本新記録で 4 つの金メダル獲得 (11月)</li> <li>● 第 1 回全日本女子学生剣道優勝大会、名古屋で開催 (11月)</li> <li>◆ 第 9 回アジア大会(ニューデリー)で、日本は、金メダル 57 個で、61 個の中国に初めて首位を奪われる (11月)</li> </ul>
-----------------	--	--

年代	横須賀の体育・スポーツ	国・県内の体育・スポーツ
	13名が表彰される(11月)	
1983 (昭和58)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県体育功労者、白戸光雄(軟式庭球)受賞(1月)</li> <li>・ 第37回三浦半島県下郡市対抗駅伝大会はゴール付近の交通事情からゴールを市立工業高グラウンドに変更。37.5kmで開催(1月)</li> <li>・ 久里浜体育会館竣工(1月)</li> <li>・ 横須賀ソフトボール協会創立30周年記念式典挙行(2月)</li> <li>・ 荻野小、体育館竣工(2月)</li> <li>・ 市教委「体育的教育活動における安全指導の参考」を発刊。配布(3月)</li> <li>・ 久里浜体育会館開館式挙行。記念行事として、家庭婦人卓球大会、中学校バレーボール大会を開催(3月)</li> <li>・ 田浦中、テニスコート(散水器)工事完成(3月)</li> <li>・ 不入斗中、部室完成(12室)(3月)</li> <li>・ 野比小、体育館竣工(3月)</li> <li>・ 体育指導委員の定数295名から300名に改まる(4月)</li> <li>・ 中体連会長、立木悦郎(昭和58)(4月)</li> <li>・ 県高体連、「横須賀地区」を「横三地区」に改称(4月)</li> <li>・ 少林寺拳法協会、ボウリング協会、アマチュアモーターボート協会の市体育協会への加盟が承認される(5月)</li> <li>・ ユニチカバレーボール選手、野比中学校訪問(5月)</li> <li>・ 昭和58年度関東高等学校男子・女子ソフトボール大会を不入斗球場、追浜球場で開催(6月)</li> <li>・ 昭和58年度関東高等学校体操・新体操競技、アリーナ・久里浜体育会館で開催(6月)</li> <li>・ キリンワールド国際バスケットボール大会、アメリカスタンフォード大ーイギリスナショナルチームのゲームを市総合体育会館で開催(6月)</li> <li>・ 久里浜中剣道部、県大会、男女団体優勝(7月)</li> <li>・ 大津中柔道部、県大会、男子団体優勝(7月)</li> <li>・ 荻野小、野比小、富士見小水泳プール竣工(7月)</li> <li>・ 大津中柔道部、全国中学校柔道大会で団体戦3位入賞。関東中学校柔道大会、後藤竜二、重量級で優勝(8月)</li> <li>・ 竹内清市体育協会副会長、地方自治の功労により、藍綬褒章受章(8月)</li> <li>・ 全国学校体育研究大会神奈川大会(横須賀会場)開催(10月)</li> <li>・ 「体育の日スポーツのつどい」を初めて開催(S57年までは「体育の日歩こう会」)。(現在の「スポーツフェスタ」)(10月)</li> <li>・ 横須賀剣道連盟、創立30周年記念式典、記念大会を挙行(10月)</li> <li>・ 北川竜生(横浜高)、国民体育大会群馬大会、ボクシング競技ライトフライ級に優勝(10月)</li> <li>・ 池田昂二教育長就任(昭和58～平成7)(11月)</li> <li>・ 第56回市民体育大会記念式典で、市体育功労者15名が表彰される(11月)</li> <li>・ 関東総合バスケットボール選手権大会兼全国クラ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 第1回都道府県対抗女子駅伝開催。千葉県優勝(1月)</li> <li>◆ スピードスケート世界スプリント選手権大会(ヘルシンキ)で黒岩彰が初優勝(2月)</li> <li>▲ 第1回国際女子駅伝大会、横浜スタジアム併設コースで開催(3月)</li> <li>● 臨時教育審議会、第1次答申(3月)</li> <li>▲ 横浜市立汲沢中男子バスケットボール部、全国大会で優勝(8月)</li> <li>◆ 第1回世界陸上選手権大会開催(ヘルシンキ)(8月)</li> <li>▲ テニス全日本選手権(大阪うつぼ)で雛子牟田明子(横浜市立瀬谷中)が強敵を連破。史上最年少の女王になる(9月)</li> <li>● 軟式野球全日本選手権大会(水戸)決勝は、45回の延長の末(8時間19分)ライト工業(東京)が田中病院(宮崎)を2-1で破り優勝(9月)</li> <li>● 全日本大学柔道連盟」発足(10月)</li> <li>▲ 第13回世界柔道選手権大会で、日本のエース山下泰裕(東海大教)は、95kg級で史上初の3連覇を達成(10月)</li> <li>▲ 横浜商(Y校)春の選抜野球、夏の選手権、秋の国体の三大会で準優勝する(3～10月)</li> <li>▲ 京浜女子商高、春の選抜高校卓球に続き、夏のインターハイでも15年ぶり2度目の優勝。秋の国体で2連勝を飾り、団体戦3冠に輝いた(3～10月)</li> <li>◆ ブダペストの体操世界選手権大会で、日本選手の優勝は吊り輪(具志堅幸司)だけに終わり、男子団体優勝は中国(10月)</li> <li>▲ 社会人野球の東芝、全国社会人東京大会第58回都市対抗に優勝。全日本選手権に史上初の3冠をかけたが準優勝に終わる(10月)</li> <li>▲ 第22回全国学校体育研究大会(神奈川)開催(10月)</li> <li>● 河野謙三日本体育協会会長逝去(82歳、10月16日)。福永健司副会長が12月7日、後任会長に就任(12月)</li> <li>▲ 日産自動車、全日本卓球選手権女子団体戦に3連勝し、日本リーグは7年連続9度目の優勝を飾る(12月)</li> <li>▲ サッカー天皇杯全日本選手権大会で日産自動車2-0でヤンマーを破り優勝(12月)</li> <li>● NHKの連続ドラマ「おしん」最高の視聴率(-)</li> <li>● 日体協会会長、福永健司(昭和58～63)(-)</li> <li>● 北海道大学冬季ヒマラヤ遠征隊、厳冬のダウラギリ1峰(8167m)に世界で初めて登頂に成功(-)</li> </ul>

年代	横須賀の体育・スポーツ	国・県内の体育・スポーツ
	<p>ブチムバスケットボール選手権大会関東地区予選会を、久里浜体育会館、総合体育会館で開催(12月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第17回バレーボール日本リーグ女子、日立ー日本電気、イトーヨーカドーー三洋電機戦を市総合体育会館で開催(12月)</li> <li>新村英之、ワールドジュニアレスリング大会グレコローマン81kg級、4位(ー)</li> </ul>	

<p>1984 (昭和59)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>県体育功労者、菅原清一郎(野球)、片倉茂(ソフトボール)受賞(1月)</li> <li>「横須賀陸上競技協会」が発展的に解消して「横須賀市陸上競技協会」になる(1月)</li> <li>森崎小、散水器(14基)設置(1月)</li> <li>走水小、全国保健体育優良校として全国学校体育研究連合会から表彰される(1月)</li> <li>第8回やまゆり杯争奪県家庭婦人バレーボール大会決勝で、久里浜クラブ、玉縄(鎌倉)に敗れ準優勝(3月)</li> <li>横浜横須賀道路完成記念マラソン大会を同道路衣笠インターチェンジャー逗子インターチェンジ間を使用し、5km、10km、15kmに2,800人が参加して開催(3月)</li> <li>中体連会長、泥谷不二夫(昭和59~60)(4月)</li> <li>小体研会長、佐々木正芳(昭和59~60)(4月)</li> <li>「第1回ファミリースポーツの集い」開催(〜H19)(S58年まで健康祭りとして開催)(5月)</li> <li>大桶小、校庭改修工事竣工。散水器8基設置(7月)</li> <li>鶴久保小、追浜中、大矢部中・神明中、水泳プール竣工(7月)</li> <li>大津中柔道部、県大会、男子団体優勝(7月)</li> <li>日産自動車硬式野球部、都市対抗野球大会に出場。通算10度目(26年目)にして宿願の初優勝を果たし、黒獅子旗を掌中にする(8月)</li> <li>関東中学校柔道大会を市総合体育会館で開催大津中、男子団体3位入賞(8月)</li> <li>本市からロサンゼルスオリンピック大会女子ライフル射撃スポーツピストルに、平川啓子選手(警視庁)、レスリングフリースタイル100kg級に、本田多聞選手(日大)が出場し、活躍(5位入賞)(8月)</li> <li>第15回全国家庭婦人バレーボール大会に本県代表が出場し、活躍(8月)</li> <li>田川誠一陸上競技協会会長、自治大臣就任祝賀スポーツ人の集いを挙行(8月)</li> <li>田浦中、散水器設置(8月)</li> <li>東芝横須賀野球部、国民体育大会成年の部で優勝(10月)</li> <li>横須賀サッカー協会、創立20周年記念大会及び記念式典を挙行(10月)</li> <li>関東家庭婦人ソフトボール大会に本市のメッツチーム本県代表として出場。健闘する(10月)</li> <li>第1回中学校女子駅伝競走大会開催(10月)</li> <li>池上小、アスレチック設置(10月)</li> <li>日産自動車硬式野球部、59年度神奈川スポーツ賞</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 新日本製鉄釜石ラグビー部、第22回日本ラグビー選手権大会に7連覇達成(1月)</li> <li>▲ 第21回84国際女子駅伝大会、横浜スタジアムをスタートして開催(2月)</li> <li>◆ 第14回冬季オリンピック大会(サラエボ)開催。参加国49、参加選手1,510名。日本、銀1。スピードスケート500mで北澤欣浩、銀メダルの殊勲、期待の黒岩は10位(2月)</li> <li>● 第87次IOC総会で第12回オリンピック東京大会が決定(2月)</li> <li>● 第1回日本ラケットボールダブルス選手権大会開催(2月)</li> <li>● サッカーの釜本邦茂(ヤンマー)が通算202得点をみやげに引退(2月)</li> <li>▲ 全日本ボウリング選手権大会(大阪)で神奈川Aチーム(河上、一場、長谷川)優勝(3月)</li> <li>● 日本山岳隊、カンチェンジュンカで世界初の8000m級の縦走に成功「5月」</li> <li>▲ 全国最高の177校が参加した全国高校野球選手権神奈川大会で、桐蔭学園が延長14回9-6で向上高をくだし、13年ぶり2度めの優勝(7月)</li> <li>▲ 横浜市立岩崎中女子ハンドボール部、全国大会で優勝(8月)</li> <li>◆ 第23回夏季オリンピック大会(ロサンゼルス)開催。参加国140、参加数7,575名。日本、金10、銀8、銅14。ソビエトなど不参加。日本は柔道の山下、体操の具志堅、ピストル射撃の蒲地らの活躍でメダル32を獲得。森末・具志堅(体操)、細川、松岡・斎藤・山下(柔道)、富山・宮原(レスリング)、蒲地(射撃)金メダル(7月~8月)</li> <li>▲ 第23回ロサンゼルスオリンピック大会で本県勢の活躍目立つ。柔道無差別級で山下の金を始め、アーチェリーの山下が銅、下が4位入賞(8月)</li> <li>▲ 全国高校総体体操団体総合で相工大付高が3年ぶり5度目の優勝。バレーボール男子法政二高が優勝。ソフトボール女子平塚商が初優勝(8月)</li> <li>● サッカーの釜本、引退試合が行われる(8月)</li> <li>● 第12回アジア競技大会の広島開催が決定(9月)</li> <li>● 柔道の山下、国民栄誉賞受賞(10月)</li> <li>● 第1回ジャパンカップ男子バレーボール大会、東京他で開催。日本代表3位入賞(11月)</li> <li>▲ 第1回県高校女子駅伝競走大会開催される(12月)</li> </ul>
------------------------	---	---

年代	横須賀の体育・スポーツ	国・県内の体育・スポーツ
	受賞(11月) ・ 長井小、アスレチック設置(11月) ・ 走水小、全国保健体育優良校として全国学校体育研究連合会から表彰される(11月) ・ 第57回市民体育大会記念式典で、市体育功労者20名が表彰される(11月) ・ 横須賀アイススケート場完成(12月) ・ 日、中、韓、国際バスケットボール大会(85ユニバーシアード大会前哨戦)中国-いすゞ自動車、日本-韓国戦を市総合体育会館で開催(12月) ・ 市体育協会渡辺利一郎会長(68歳)急逝(12月) ・ 大矢部中、体育館竣工(12月) ・ 不入斗中、桜台中、体育館改修工事竣工(-) ・ 「横須賀アーチェリー協会」発足(-) ・ 衣笠小、体育科研究発表会開催(きびきびといっぱい活動する体育)(-)	月)

1985 (昭和60)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県体育功労者、佐々木稔(ソフトテニス)、長谷川豊(体操)、進藤正(陸上)受賞(1月)</li> <li>・ 走水小、県学校体育研究優良校として県学校体育研究連合会から表彰される(1月)</li> <li>・ 関東高等学校軟式庭球インドア大会を市総合体育館で開催(1月)</li> <li>・ 大矢部中に全天候型野外コート完成(2月)</li> <li>・ 第2回関東ジュニアレスリング大会横須賀大会を市総合体育会館で開催(3月)</li> <li>・ 第9回やまゆり杯争奪県家庭婦人バレーボール大会決勝で久里浜クラブは玉縄(鎌倉)に2連敗。準優勝に終わる(3月)</li> <li>・ 鴨居中、水泳プール、部室12室完成(3月)</li> <li>・ 市体育協会長に竹内清就任(昭和60~平成12)(4月)</li> <li>・ 武山中、市委託体力づくり実践研究推進(4月)</li> <li>・ 川口市体育協会との交流スポーツ大会を川口市で開催(陸上競技他13種目競技)(6月)</li> <li>・ 第19回県中学校総合体育大会を横須賀ブロックで開催(7月)</li> <li>・ 久里浜中剣道部、県大会、男子団体、優勝(7月)</li> <li>・ 大津中柔道部、県大会、男子団体、優勝(7月)</li> <li>・ 長沢中、水泳プール完成(8月)</li> <li>・ 常葉中・溝口紀宏、全国中学校陸上競技選手権大会100m、準決勝進出(8月)</li> <li>・ 大津中柔道部、県大会で優勝し、全国大会出場(8月)</li> <li>・ 追浜中柔道部、関東大会5位入賞(8月)</li> <li>・ 鴨居中・高橋博文、全日本中学校陸上競技選手権大会男子400m、3位・50秒21(8月)</li> <li>・ 不入斗中体操部、県大会、女子団体優勝(8月)</li> <li>・ 高坂小、アスレチック完成(11月)</li> <li>・ 横須賀市体育協会創立50周年記念式典を挙行。記念誌を発刊。32種目協会・1職域団体、42,000名の組織になる(11月)</li> <li>・ 第58回市民体育大会記念式典で市体育功労者20名が表彰される(11月)</li> <li>・ 市民駅伝大会のコースが、本年、第40回大会から現在の神明中周辺になる(12月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 全国中学校体育連盟、創立30周年記念式典を東京青山会館で挙行(1月)</li> <li>● 第1回全国中体連研究大会開催(1月)</li> <li>● 第1回ワールドカップ女子マラソン大会を広島で開催(4月)</li> <li>● 第1回ワールドカップ男子マラソン大会(広島)で中山竹通、2時間8分15秒、世界歴代3位(日本最高記録)で堂々3位入賞。国別対抗でも日本チーム2位に入賞(4月)</li> <li>● 第1回ジャパンカップ女子バレーボール大会(東京他)、日本代表は3位に入賞(4月)</li> <li>● 柔道の山下泰裕、全日本選手権で齋藤を下し3連覇(4月)</li> <li>● 柔道の山下泰裕選手不滅の203連勝。世界の王者10年の偉業を持って現役を引退(6月)</li> <li>▲ 第16回関東中学校バドミントン大会を相模原市総合体育館で開催。サッカーを三ツ沢競技場で開催(8月)</li> <li>● ユニバーシアード神戸大会開催(8月)</li> <li>● 総理府「体力・スポーツに関する世論調査」実施(10月)</li> <li>● 第1回全日本トライアスロン大会を宮古島で開催(-)</li> <li>▲ 「津久井町体育協会」発足(-)</li> </ul>
----------------	--	--

年代	横須賀の体育・スポーツ	国・県内の体育・スポーツ
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 諏訪小、散水器設置 (12月)</li> <li>・ 「横須賀ゲートボール連盟」発足 (ー)</li> <li>・ 増川健次郎、第8回全国ジュニアオリンピック夏季水泳競技大会、男子10歳以下50m平泳ぎ、優勝 (ー)</li> <li>・ 関自工ヨット部、全日本選手権大会470級、スナイブ級、優勝。第31回全日本実業団ヨット選手権大会、スナイブ級、優勝 (ー)</li> </ul>	

<p>1986 (昭和61)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県体育功労者、猪熊功(柔道)、渡辺直人(スキー)受賞 (1月)</li> <li>・ 長沢中、体育館竣工 (2月)</li> <li>・ 鷹取小、光洋小、久里浜小、アスレチック設置 (2月)</li> <li>・ 西部体育館(現西体育会館)竣工 (2月)</li> <li>・ 夏島小、野比小、粟田小、アスレチック設置 (3月)</li> <li>・ 市体育指導委員理論講習会開催 (3月)</li> <li>・ 体育課長、増島拓次(昭和61~平成5) (4月)</li> <li>・ 「宮城野部屋横須賀後援会」発足 (4月)</li> <li>・ 中体連会長、杉山和治(昭和61~62) (4月)</li> <li>・ 小体研会長、白幡正(昭和61) (4月)</li> <li>・ 中体研会長、長谷川豊(昭和61) (4月)</li> <li>・ アーチェリー協会、市体育協会加盟 (4月)</li> <li>・ 余熱利用の温水プール(くりはま花の国プール)竣工 (5月)</li> <li>・ スポーツ少年団創立20周年記念誌(あゆみ)発刊 (6月)</li> <li>・ 久里浜中剣道部、県大会、男子団体、優勝 (7月)</li> <li>・ 大津中柔道部、県大会、男子団体、優勝 (7月)</li> <li>・ 追浜中柔道部、関東大会、男子団体、3位 (8月)</li> <li>・ 大津中柔道部、関東大会、男子団体、準優勝 (8月)</li> <li>・ 大津中・岩田桂司、第17回全国中学校柔道選手権大会、重量級、優勝 (8月)</li> <li>・ 横須賀学院高・田宮雪江、水泳関東大会、100m背泳ぎ、3位 (8月)</li> <li>・ 第10回アジア大会ボウリング競技女子ダブルス、一場佳子、3人チーム、金メダル、5人チーム、銀メダル (10月)</li> <li>・ 第10回アジア大会ライフル射撃競技で、加藤啓子選手、スポーツピストル団体、2位、個人、6位 (10月)</li> <li>・ 一場佳子(ボウリング)、神奈川県スポーツ賞受賞(11月)</li> <li>・ 第59回市民大会記念式典で市体育功労者20名が表彰される (11月)</li> <li>・ 鴨居中・石井美央、第17回ジュニアオリンピック陸上競技大会女子200m、優勝・25秒23(大会新記録)、女子100m優勝・12秒25(11月)</li> <li>・ 大津中・長塚仁夫、第17回陸上ジュニアオリンピック大会男子110mH、優勝・14秒97 (11月)</li> <li>・ 一場佳子(ボウリング)、神奈川県スポーツ賞受賞(11月)</li> <li>・ 城北小、水泳プール竣工 (ー)</li> <li>・ 横須賀ソフトボール協会創立35周年記念式典挙行 (ー)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▲ 県高体連、第20回全国高等学校体育連盟研究大会開催 (1月)</li> <li>◆ 第1回冬季アジア大会を札幌で開催。7か国417名が参加 (3月)</li> <li>● 日本体育・学校健康センター発足 (3月)</li> <li>▲ 県中体連「神奈川県中学校体育連盟史」発刊 (3月)</li> <li>▲ 県体協、体力測定事業開始 (4月)</li> <li>▲ 県中体連事務局が県立スポーツ会館内に設置される (4月)</li> <li>● 日体協スポーツ憲章が制定施行される (5月)</li> <li>● 「全国都道府県体育協会連合会」発足 (6月)</li> <li>▲ 「神奈川県中学校体育連盟30周年誌」発刊 (6月)</li> <li>● 教育課程審議会、「格技」を「武道」と名称変更することで合意 (7月)</li> <li>● 全国高等学校総合体育大会(山口県)開催 (8月)</li> <li>▲ 全国中学校体育大会(ソフトテニス、ハンドボール)本県で開催 (8月)</li> <li>▲ 横浜市立上の宮中バレーボール部男子、全国中学校バレーボール大会で優勝 (8月)</li> <li>● 「全国大学女子野球連盟」発足 (8月)</li> <li>● 第1回全日本一輪車フルマラソン大会、北海道で開催 (8月)</li> <li>● 第1回世界ゲートボール大会、札幌で開催 (8月)</li> <li>◆ 第10回アジア大会が韓国ソウルで開催される。27か国4,800名参加 (9月)</li> <li>● 第41回国民体育大会、山梨で開催。神奈川、天皇杯4位、皇后杯8位、11競技48名が優勝 (10月)</li> <li>◆ IOC、1992年夏季五輪大会から野球を正式競技にすることを決定 (10月)</li> <li>● 児玉泰介、1986年北京国際マラソンで2時間7分35秒の本年度世界最高。日本人初の7分台で初優勝 (10月)</li> <li>● 室伏重信、第10回アジア大会、ハンマー投げに5連覇 (10月)</li> <li>▲ 第1回県中学校女子駅伝大会(金沢区並木タウン周回コース)で開催 (11月)</li> <li>● 保体審「社会体育指導者の資格付与について」建議 (12月)</li> <li>◆ 国際重量挙げ連盟、女子種目の採用を正式決定 (ー)</li> <li>● 松下和幹、アーチェリーの天津国際大会30mで357点の世界新記録 (ー)</li> </ul>
------------------------	---	--

年代	横須賀の体育・スポーツ	国・県内の体育・スポーツ
	<ul style="list-style-type: none"> <li>県横工高・千葉裕司、第41回国民体育大会レスリング競技フリー100kg級、優勝（－）</li> <li>東芝横須賀、天皇賜杯第41回軟式野球大会に優勝（4連覇）（－）</li> </ul>	

1987 (昭和62)	<ul style="list-style-type: none"> <li>県体育功労者、芹沢勇二郎(卓球)受賞（1月）</li> <li>武山中、市委託体力づくり実践研究発表（生涯スポーツへのアプローチ）（1月）</li> <li>坂本小、がけ崩れ校庭修復工事完了（2月）</li> <li>坂本小、アスレチック完成（2月）</li> <li>坂本小、市委託体育研究発表会開催。年間指導計画作成配布（2月）</li> <li>田戸小、望洋小、荻野小、岩戸小、アスレチック完成（2月）</li> <li>小原台小、体育研究始まる(楽しい体育の授業をめざして)（4月）</li> <li>長井中、文部省指定格技指導推進校になる(64年まで)（4月）</li> <li>小体研会長、藤尾良正(昭和62)（4月）</li> <li>大楠小、水泳プール竣工（7月）</li> <li>大津中柔道部、県大会、男子団体優勝（7月）</li> <li>公郷中・渡辺浩、全国中学校陸上競技大会、1年100m、準優勝（8月）</li> <li>大津中・長塚仁夫、全国中学校陸上競技大会、男子110mH、第2位（8月）</li> <li>大津中・駒村、全国中学校陸上競技大会、男子400m、第6位（8月）</li> <li>衣笠中・藤井竜也、全国中学校卓球大会、出場（8月）</li> <li>大津中陸上部、県大会、男女総合に2年連続優勝（10月）</li> <li>大津中・長塚仁夫、ジュニアオリンピック男子110mH、第2位（10月）</li> <li>鴨居中・石井美央、日本陸上競技連盟から河野一郎章を受章（10月）</li> <li>第38回中学校駅伝大会、長井中周辺コースで開催(38回～41回)（10月）</li> <li>第4回女子中学校駅伝大会、長井中周辺コースで開催(4回～7回)（10月）</li> <li>安田瑞穂(京急三浦フィールドアーチェリークラブ)、第42回国民体育大会アーチェリー競技成年女子団体、優勝、成年女子個人、第2位（10月）</li> <li>岩岡伸晴(少年工科大学)、第42回国民体育大会レスリング競技少年男子の部フリースタイル74kg級、3位（10月）</li> <li>第60回市民体育大会記念式典で、市体育功労者19名が表彰される（11月）</li> <li>山川初江(体育指導委員協議会会長)文部大臣表彰受賞（11月）</li> <li>市体育指導委員30周年記念事業(12月)</li> <li>鴨居小、昭和62年度学童水泳優良校として日本水連より表彰される（－）</li> <li>市制80周年記念事業として大相撲横須賀場所、日中バレーボール大会、バスケットボール日本リーグ、綱引き大会を開催（－）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本一輪車協会、初の一輪車選手権大会を東京で開催（3月）</li> <li>「日本武術太極拳連盟」発足（4月）</li> <li>▲ 県立尊仏山荘、改築工事竣工（4月）</li> <li>▲ 第1回国民体育大会誘致委員会を開催(県体協)（5月）</li> <li>● 全日本中学校長会理事会で中学生の国民体育大会参加を合意（5月）</li> <li>◆ 第1回ワールドカップラグビー開催(豪・ニュージーランド)。オールブラックス優勝(5月)</li> <li>● 国内初のビーチバレーボール大会、沖縄で開催（5月）</li> <li>● 衣笠祥雄(広島カープ)、国民栄誉賞受賞（6月）</li> <li>● 全国高等学校総合体育大会(夏季冬季全競技)北海道で開催(8月、1月、2月)</li> <li>▲ 藤沢市立御所見中、全国中学校卓球大会女子団体戦で優勝（8月）</li> <li>● スポーツの振興に関する懇話会発足（9月）</li> <li>● 第42回国民体育大会沖縄で開催。天皇杯7位、皇后杯7位、本県は9競技45名が優勝(10月)</li> <li>● 第1回ジャパンカップクライミング競技会開催（10月）</li> <li>◆ 初の6人制ビーチバレー世界選手権大会、アメリカで開催（10月）</li> <li>▲ 県中学校駅伝大会、津久井湖コース(第2回～第7回)から第8回以降横浜並木中周辺コースになる（11月）</li> <li>◆ 「国際トライアスロン連盟」発足（11月）</li> <li>◆ ユニバーシアード冬季大会、札幌開催決定（11月）</li> <li>● 中学生の国民体育大会参加が認められる(対象：3年生、種目：水泳、陸上、体操、スケート[フィギュア])（12月）</li> <li>● 保体審「スポーツプログラマーの養成について」建議（12月）</li> <li>● 中山竹通、第41回福岡国際マラソン選手権大会にて1987年世界最高記録で優勝・2時間8分18秒（12月）</li> </ul>
----------------	--	---

年代	横須賀の体育・スポーツ	国・県内の体育・スポーツ
1988 (昭和 63)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県体育功労者、川田五三六(バスケットボール)、田中武夫(体育協会)、丹羽正(ソフトテニス)受賞(1月)</li> <li>・ 第43回三浦半島県下駅伝競走大会、昭和天皇崩御のため開催を自粛する(1月)</li> <li>・ 坂本小、市委託の体育研究をまとめ、体育科年間指導計画を作成配布する(2月)</li> <li>・ 津久井小、アスレチック完成(3月)</li> <li>・ 不入斗公園陸上競技場、全天候型への改修工事着工(4月)</li> <li>・ 硬式空手協会、市体育協会加盟(4月)</li> <li>・ 自転車協会、市体育協会退会(4月)</li> <li>・ 中体連会長、長谷川豊(昭和63)(4月)</li> <li>・ 小体研会長、林幸勇(昭和63)(4月)</li> <li>・ 関東高等学校軟式庭球大会、横須賀で開催(6月)</li> <li>・ 浦賀中、水泳プール竣工(7月)</li> <li>・ 追浜中柔道部、県大会、男子団体、優勝(7月)</li> <li>・ 神明中・吉田岳世、第28回全国中学校選抜水泳競技大会出場(8月)</li> <li>・ 衣笠中・藤井竜也、全国中学校卓球大会出場(8月)</li> <li>・ 横須賀学院中・田宮雪江、水泳全国大会、100m背泳ぎ、5位(8月)</li> <li>・ 岩戸中体操部、県大会、男子団体、優勝(8月)</li> <li>・ 横須賀学院中・田宮雪江、第43回国民体育大会、水泳競技少年少女B100m背泳ぎ、第4位・1分07秒02(9月)</li> <li>・ ソウルオリンピック大会ヨット競技に関自工ヨット部、小川直之・田村孝組(トナー級)、中村健次・高橋雅之組(470級)出場(9月)</li> <li>・ 県横高・長塚仁夫、第43回国民体育大会、陸上競技少年男子A110m JH、第3位・14秒53(10月)</li> <li>・ 追浜小、アスレチック完成(11月)</li> <li>・ 第61回市民体育大会記念式典で、市体育功労者19名が表彰される(11月)</li> <li>・ 望洋小、サッカーふれあい教室開催。奥寺氏、指導者として来校(12月)</li> <li>・ 長井小、第5回全国ミニバスケットボール優勝大会、第3位(-)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 第15回冬季オリンピック大会(カルガリー)開催。参加国57、参加選手3,239名。日本、銅1。橋本聖子、カルガリー、ソウル冬夏五輪に連続出場しスケート全5種目に入賞(2月)</li> <li>◆ わが国初の屋根つきドームの東京ドーム(BIG EGG)オープン(3月)</li> <li>◆ 日体協において国体の本県開催は、第53回国民体育大会に決定(3月)</li> <li>◆ 文部省機構改革。生涯学習局設置。スポーツ課が生涯スポーツ課と競技スポーツ課になる(4月)</li> <li>▲ 県、「第53回国体準備室」を開設(4月)</li> <li>▲ 県、町村体協活動奨励事業開始(4月)</li> <li>◆ 「日本女子ラグビーフットボール連盟」発足(全国に30チーム)(4月)</li> <li>◆ 全国高体連、創立40周年記念式典挙行政(5月)周年誌発刊(6月)</li> <li>▲ 日本野球連盟神奈川支部、県体協加盟(5月)</li> <li>▲ 県高体連、創立40周年記念式典挙行政(5月)創立40周年記念号を発刊(6月)</li> <li>● スポーツプログラマー養成制度創設(6月)</li> <li>◆ 日本女子体育連盟主催の第1回全国高校・大学ダンスフェスティバルを神戸で開催(8月)</li> <li>◆ 第24回夏季オリンピック大会(ソウル)開催。参加国160、参加選手8,465名。日本、金4、銀3、銅7。佐藤(レスリング)、斎藤(柔道)、鈴木(水泳)金メダル。人出は過去最高(9月)</li> <li>▲ オリンピックに中学生初参加。横浜市立上菅田中学校3年・中野亜弥子が参加。50m自由形26秒45、100m自由形56秒72。ともに日本新記録樹立(9月)</li> <li>◆ 国民体育大会2順目開催(10月)</li> <li>▲ 横浜市立西谷中学校、男子800mRで中学新記録樹立・1分30秒08(10月)</li> <li>● 第1回全国スポーツ・レクリエーション祭開催(11月)</li> <li>◆ 教育課程審議会、「格技」を「武道」に名称変更、と答申(12月)</li> <li>◆ I O C、五輪の正式種目にスケートのショートトラックを承認(12月)</li> </ul>

1989 (昭 64・平成元)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県体育功労者、田中武義(銃剣道)受賞(1月)</li> <li>・ 追浜中、格技室竣工(3月)</li> <li>・ 自転車協会、市体育協会退会(3月)</li> <li>・ 「第53回国民体育大会横須賀市誘致委員会」設立。第1回誘致委員会開催(4月)</li> <li>・ 中体連会長、齋藤親照(平成1~2)(4月)</li> <li>・ 小体研会長、鈴木喜好(平成1)(4月)</li> <li>・ 関東高校レスリング大会、横須賀で開催(6月)</li> <li>・ 北体育会館(温水プール)竣工記念式典挙行政。オリンピック水泳100m背泳ぎ金メダリスト鈴木大地、エキジビション招待(8月)</li> <li>・ 池上中・増川健次郎、水泳全国大会、400m個人メドレー第5位(8月)</li> <li>・ 神明中・吉田岳世、水泳全国大会、200m個人メドレー、第7位(8月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 昭和天皇崩御(1月)</li> <li>● 新元号、「平成」になる(1月)</li> <li>● 伊藤みどり、フィギュアスケート世界選手権で日本フィギュアスケート史上初の金メダル(3月)</li> <li>▲ 第2回アジア大会・冬季競技(札幌)で今井秀人(相模原市立麻溝台中)がスケート・ショートトラック・3,000mに第5位・5分33秒71(3月)</li> <li>● 小・中・高等学校学習指導要領告示。「格技」が「武道」になる(3月)</li> <li>▲ 県体協、町村体協活動奨励事業開始(4月)</li> <li>▲ 県高体連、303校358,264名加盟(4月)</li> <li>● 1998年第18回オリンピック冬季大会を長野市に招致することを閣議決定(6月)</li> </ul>
--------------------	---	--

年代	横須賀の体育・スポーツ	国・県内の体育・スポーツ
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 不入斗公園陸上競技場、全天候型競技場改修工事竣工（10月）</li> <li>・ 浦郷小、市委託体育研究発表会開催（豊かな心情を育てる体育学習～一人一人を大切に～）（10月）</li> <li>・ 岩田桂司、第44回国民体育大会柔道競技少年男子の部、第3位、平成元年度全国高等学校総合体育大会柔道競技、優勝（10月）</li> <li>・ 小川司、第44回国民体育大会レスリング競技グレコローマンスタイル82kg級、第3位（10月）</li> <li>・ 渡辺純平、第44回国民体育大会バスケットボール競技少年男子の部、第2位（10月）</li> <li>・ 第44回国民体育大会柔道競技少年男子の部、安部淳、根岸豊とともに第3位（10月）</li> <li>・ 平野准矢、第44回国民体育大会レスリング競技グレコローマンスタイル82kg級、第3位（10月）</li> <li>・ 鈴木雅之、第11回全国ジュニアオリンピック水泳大会男子10歳以下50m自由形、優勝・29秒09（10月）</li> <li>・ 長井小、水泳プール竣工（11月）</li> <li>・ 第62回市民体育大会記念式典で、市体育功労者20名が表彰される（11月）</li> <li>・ 長井中、文部省指定格技（武道）指導推進校研究発表会開催（11月）</li> <li>・ 長井中、全国保健体育優良校として表彰される（11月）</li> <li>・ 関自工ヨット部、第35回全日本実業団選手権大会470級、優勝（－）</li> <li>・ 全国選抜卓球大会をアリーナで開催（－）</li> <li>・ 追浜球場が改修され、両翼98m、中堅122mになる（－）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 財団法人日本オリンピック委員会設立（日体協から独立）（8月）</li> <li>● 消費税3%スタート</li> <li>▲ 全国高等学校総合体育大会（高知県）開催（8月）</li> <li>▲ 第44回国民体育大会、北海道札幌市等で開催。神奈川県、天皇杯3位、皇后杯6位、14競技54名優勝。水泳・男子400m個人メドレーで衣笠竜也（横浜・永田中）が優勝・全国中学新（9月）</li> <li>● 日本体育学会、横浜で開催（10月）</li> <li>▲ 関東中体連保健体育研究大会、川崎市で開催（10月）</li> <li>● 千代の富士、国民栄誉賞受賞（9月）</li> <li>● 保健体育審議会、「21世紀に向けたスポーツの振興方策について」答申（11月）</li> <li>▲ 県体協、創立50周年記念式典・祝賀会举行（11月）</li> <li>● 第1回全国高校女子駅伝大会開催（京都）。市立船橋高が優勝（12月）</li> <li>● 日体協会長、青木半治（平成元年～5）（12月）</li> <li>● 1995年ユニバーシアード夏季大会の福岡開催決定（12月）</li> </ul>

<p>1990 (平成2)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県体育功労者、相場征雄（野球）、戸部宗七郎（ソフトテニス）受賞（1月）</li> <li>・ なぎなた協会副会長山本操、勲五等瑞宝章受章（1月）</li> <li>・ 大楠中格技室（武道館）竣工（3月）</li> <li>・ 第53回国民体育大会第3回準備委員会で開催種目正式決定（バスケットボール、軟式野球、柔道）（3月）</li> <li>・ 市立高等学校部活動強化育成事業（4部活動）始まる（市立横須賀：サッカー、柔道、市工：野球、市商：ソフトボール）（4月）</li> <li>・ 小体研会長、石渡得司（平成2～3）（4月）</li> <li>・ 大矢部小、創立10周年記念講演会開催。講師：三屋裕子（モントリオールオリンピック女子バレーボール銅メダル選手）（これからの時代を生きる子どもたちに求められるもの）（5月）</li> <li>・ 神明中・吉田岳世、水泳全国大会、100m、200m・自由形、第4位。100mは県中学記録（8月）</li> <li>・ 夏島小、水泳プール竣工（8月）</li> <li>・ 東海大相模高・高橋洋樹、第39回全国高等学校柔道大会、団体優勝（8月）</li> <li>・ 第11回アジア大会ヨット競技、関自工ヨット部、総合ポイント優勝。男子470級中村健次・高橋雅之、女子470級、足立宗子・宇毛洋子組（9～10</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▲ 「藤野町体育協会」発足（1月）</li> <li>● 全国中体連研究大会、名古屋で開催される（1月）</li> <li>● 第1回生涯スポーツコンベンション開催（2月）</li> <li>● 船津圭三、史上初の犬ぞりによる南極大陸横断に成功（3月）</li> <li>▲ 「県ゲートボール連盟」「県少林寺拳法連盟」が県体協に加盟（3月）</li> <li>▲ 「神奈川県体育協会史」発刊（3月）</li> <li>● 第2回アジア冬季大会（札幌）開催。相模原市立麻溝台中・今井英人、ショートトラック3,000mに第5位・5分33秒71（3月）</li> <li>● 第1回女子アイスホッケー世界選手権大会開催（3月）</li> <li>▲ 第53回国民体育大会準備委員会において、国体開催基本方針並びに競技別会場内定（3月）</li> <li>▲ 県体協、少年スポーツ指導安全対策マニュアル「スポーツを楽しくするために」を発刊（3月）</li> <li>▲ 「相模湖町体育協会」発足。これに伴い県下全市町村に体育協会が揃う（4月）</li> <li>● 全国高等学校総合体育大会、宮城県で開催（7月）</li> <li>◆ 女子空手道の第1回世界選手権大会を福岡市</li> </ul>
-----------------------	---	--

年代	横須賀の体育・スポーツ	国・県内の体育・スポーツ
	<p>月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 江浜勲・中沢肇組、全日本軟式卓球選手権大会ダブルス優勝(10月)</li> <li>・ 小原台小、市委託体育科研究発表会開催(11月)</li> <li>・ 森崎小、児童落下の事故により、モンキージャングル(固定遊具)を撤去することになる(11月)</li> <li>・ 第63回市民体育大会記念式典で、市体育功労者15名が表彰される(11月)</li> <li>・ 高橋雅之・中村健次(関自工)、神奈川スポーツ賞受賞(11月)</li> <li>・ 大矢部中・須田航、陸上ジュニアオリンピック大会、1,500m、第5位(12月)</li> <li>・ 市教委、「運動部活動指導者のために」発刊配布(主として、運動部活動安全指導管理)(12月)</li> <li>・ 豊島小、全国水泳優秀校として日本水連から表彰される(―)</li> <li>・ 大津小、市委託体育研究発表会開催。「くすのき体操」披露。好評を得る(進んで学習に取り組む子どもを育てる体育科の指導)(―)</li> <li>・ 市横須賀高、「クラブ活動を巡る諸問題について」研究推進(―)</li> <li>・ 「横須賀市太極拳協会」発足(―)</li> </ul>	<p>民体育館で開催(7月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 初の全日本女子野球選手権大会開催(8月)</li> <li>◆ IOC、オリンピック憲章全面改訂。プロ・アマオープン化へ(9月)</li> <li>◆ 第96次国際オリンピック委員会総会、東京で開催(9月)</li> <li>◆ 第11回アジア大会(北京)開催(9月)</li> <li>▲ 第45回国民体育大会、福岡県で開催。神奈川県、天皇杯8位、皇后杯10位、8競技、50名が優勝(10月)</li> <li>● 日本体育・学校健康センター法の一部改正により、「スポーツ振興基金」設立(12月)</li> </ul>

<p>1991 (平成3)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県体育功労者、生田実(テニス)受賞(1月)</li> <li>・ 森崎小、県体育研究優良校として県小学校体育連合会から表彰される(1月)</li> <li>・ 第53回国民体育大会第4回誘致委員会開催。同委員会解散(2月)</li> <li>・ 常葉中・宮出智幸、第5回全日本中学生オールスターバスケットボール大会(横須賀開催)、優勝(2月)</li> <li>・ 中体連会長、鈴木茂男(平成3)</li> <li>・ 体育指導委員協議会会長、浅葉孝雄(平成3～14)(5月)</li> <li>・ 追浜中柔道部、県大会、女子団体、優勝(7月)</li> <li>・ 大津中、関東中学校柔道選手権大会、男子団体優勝(8月)</li> <li>・ 浦賀中柔道部、関東大会、男子団体、3位(8月)</li> <li>・ 大津中柔道部、全国中学校柔道選手権大会、男子団体、8位入賞(8月)</li> <li>・ 市立横高・市川隆史、第44回全国高等学校陸上競技選手権大会(8月)、第46回国民体育大会(10月)、東アジアジュニア対抗選手権大会(―)、少年男子110mH、優勝・全国高校、14秒15</li> <li>・ 逗葉高・細川恒、第44回全国高等学校対抗陸上競技選手権大会、砲丸投、優勝・17m 57(8月)</li> <li>・ 横須賀学院高・大泉佳子、第14回全国高等学校柔道選手権大会女子66kg級、ベスト4(8月)</li> <li>・ 浦賀中・鈴木雅之、水泳関東大会、200自由形、第3位(8月)</li> <li>・ 鴨居小、水泳プール竣工(9月)</li> <li>・ 第53回国民体育大会横須賀市準備委員会発起人会開催(9月)</li> <li>・ 水泳協会創立65周年記念大会举行(9月)</li> <li>・ 第42回男子中学校駅伝大会、観音崎公園内折り返しコースで開催(42回～55回)。第8回女子中学校</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▲ 「県パワーリフティング協会」県体協加盟(3月)</li> <li>● ユニバーシアード冬季大会(札幌)開催(3月)</li> <li>● 中教審「新しい時代に対応する教育の諸制度の改革について」答申(4月)</li> <li>● 高校の体育科、全国で139校(公立63校、市立76校)になる(4月)</li> <li>▲ 県教育庁「指導部体育課」が「生涯学習部スポーツ課」になる(4月)</li> <li>◆ 第41回世界卓球選手権大会(千葉)開催(5月)</li> <li>◆ 1998年第10回オリンピック冬季大会(長野)開催決定(6月)</li> <li>▲ 「県生涯スポーツ振興会議」設立(7月)</li> <li>● 全国高等学校総合体育大会、静岡で開催(8月)</li> <li>◆ 第3回世界陸上競技選手権大会開催(国立)。男子100mにCルイス、9秒86、男子走幅跳到Mパウエル、8m95の世界記録達成(8月)</li> <li>● 谷口博美、世界陸上競技選手権大会の男子マラソンで、日本人初の優勝(9月)</li> <li>▲ 第46回国民体育大会石川県で開催。神奈川県、天皇杯7位、皇后杯8位(10月)</li> <li>● 長野オリンピック冬季大会組織委員会発足(11月)</li> <li>● 第1回全日本少年ミニサッカー大会(室内五人制)開催(11月)</li> <li>◆ 女子サッカー、第1回ワールドカップ開催(11月)</li> <li>▲ 市町村アマチュアゴルフ協会18協会で「県ゴルフ協会」設立(12月)</li> <li>● 「日本軟式庭球連盟」、「日本ソフトテニス連盟」に名称変更(12月)</li> <li>▲ 県、「神奈川スポーツプラン」策定(―)</li> </ul>
-----------------------	---	--

年代	横須賀の体育・スポーツ	国・県内の体育・スポーツ
	駅伝大会も同様(8回～21回)(10月) ・ 森崎小、市委託体育研究発表会開催(児童が生き生きと活動するための体育指導のあり方)(11月) ・ 第64回市民体育大会記念式典で、市体育功労者19名が表彰される(11月) ・ 森崎小、アスレチック完成(12月) ・ 市営大津相撲場の土俵を日本相撲連盟標準規格の土俵にする(一) ・ 三浦高校卓球部、関東高校卓球大会、男子団体、3位(一)	

1992 (平成4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県体育功労者、本間慎司(陸上競技)受賞(1月)</li> <li>・ 第53回国民体育大会横須賀市準備委員会第1回総会開催(2月)</li> <li>・ 衣笠中、武道館竣工(3月)</li> <li>・ 池上中、テニスコート竣工(4月)</li> <li>・ 中体連会長、慶長俊彦(平成4)(4月)</li> <li>・ 小体研会長、河内良雄(平成4)(4月)</li> <li>・ レクリエーション協会会長、芝野米次(平成4～6)(4月)</li> <li>・ 神明中、県生涯スポーツ振興事業推進指定校として6月31日まで研究推進(5月)</li> <li>・ 神明中剣道部、関東大会、男子団体ベスト8(8月)</li> <li>・ 久里浜中サッカー部、県大会、優勝(7月)</li> <li>・ 大津中柔道部、県大会、女子団体、優勝(7月)</li> <li>・ 久留和子ども会、第6回全日本小学生男子ソフトボール大会、優勝(7～8月)</li> <li>・ 大津中・野村千賀子、関東中学校水泳大会女子800m、優勝(8月)</li> <li>・ 岩戸中・山本絵里、関東中学校陸上競技選手権大会1年女子走幅跳、優勝・4m97(8月)</li> <li>・ 走水小、アスレチック撤去(8月)</li> <li>・ 第53回国民体育大会横須賀市準備委員会第1回総会開催(8月)</li> <li>・ 横浜高・保住直孝、全国高等学校総合体育大会ボクシング競技ライトヘビー級、優勝(2年連続)(8月)</li> <li>・ 浦賀中・高山一樹、第23回全国中学校柔道大会男子78kg超級、第3位(8月)</li> <li>・ 横須賀学院高・島本剛志、全国高等学校総合体育大会自転車競技ポイントレース、優勝(8月)</li> <li>・ 神明中柔道部、関東大会、男子団体ベスト8(8月)</li> <li>・ 浦賀中・鈴木雅之、水泳全国大会、100m自由形、8位(8月)</li> <li>・ 大津中・野村千賀子、水泳関東大会、800m自由形、優勝(8月)</li> <li>・ 鷹取小、光洋小、水泳プール竣工(9月)</li> <li>・ 高橋義博、第47回国民体育大会クレ射撃競技トラップ部門、団体優勝、競技別総合優勝(トラップ・スキート部門)(10月)</li> <li>・ 第65回市民体育大会記念式典で、市体育功労者20名が表彰される(11月)</li> <li>・ 坂本中、テニスコート竣工(12月)</li> <li>・ 国民体育大会開催を市議会で決議(バスケットボール、軟式野球、柔道、スポーツ芸術)(12月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 第8回日本中体連研究大会、香川で開催(1月)</li> <li>● JOC、五輪メダリストに褒賞金を贈る事を決定、金300万円、銀200万円、銅100万円(1月)</li> <li>◆ 第16回冬季オリンピック大会(アルペールビル)開催。参加国64、参加数1,801名。スキーノルディック複合団体(三ヶ田、河野、荻原)、札幌五輪の70m級ジャンプ以来20年ぶりの金メダル。日本、金1、銀2、銅4。スピードスケートの橋本聖子(銅)、フィギュアスケートの伊藤みどり(銀)は日本女子初のメダル。ノルディック複合団体、金メダル(2月)</li> <li>● 「日本タッチフットボール協会」発足(3月)</li> <li>● 国公立小・中・高校等、第2土曜日が休みになる(4月)</li> <li>▲ 県、神奈川スポーツ賞・オリンピック賞制定(4月)</li> <li>◆ 「国際アマチュアレスリング連盟」が「国際レスリング連盟」に改称。プロにも門戸を開くことになる(4月)</li> <li>◆ 第25回夏季オリンピック大会(バルセロナ)開催。参加国169、参加数、9,367名。日本、金3、銀8、銅11、吉田・古賀(柔道)、岩崎(水泳)金メダル(7月)</li> <li>● 山形新幹線開通(7月)</li> <li>● 全国高等学校総合体育大会静岡で開催(8月)</li> <li>▲ 相模原市立男子バレーボール、全国大会で優勝(8月)</li> <li>● 9月から第2土曜日休業(学校週五日制)(9月)</li> <li>◆ 第9回パラリンピック開催(バルセロナ)86か国参加(9月)</li> <li>● 第47回国民体育大会秋季大会山形で開催。神奈川、天皇杯10位、皇后杯10位(10月)</li> <li>● 日中合同登山隊がナムチャバルワ峰の初登頂に成功(10月)</li> <li>◆ 第1回世界相撲選手権大会開催。25カ国の選手が参加(12月)</li> </ul>
---------------	---	--

年代	横須賀の体育・スポーツ	国・県内の体育・スポーツ
	<ul style="list-style-type: none"> <li>「横須賀市ゴルフ協会」発足（－）</li> <li>「軟式庭球協会」を「ソフトテニス協会」に名称変更（－）</li> <li>三浦高校卓球部、関東高等学校卓球大会、男子団体、第3位（－）</li> </ul>	

1993 (平成5)	<ul style="list-style-type: none"> <li>県体育功労者、田中幸男(スポーツ少年団)受賞(1月)</li> <li>田戸小、水泳の普及振興で日本水連から表彰される(4月)</li> <li>小体研会長、佐藤勲(平成5)(4月)</li> <li>中体研会長、小川征男(平成5～11)(4月)</li> <li>体育課長、渡邊武(平成5～10)(4月)</li> <li>飯島晶子(京樽)第7回全日本女子レスリング選手権大会56kg級、優勝(5月)</li> <li>澤田秀男市長就任(平成5～17)(7月)</li> <li>第27回県中学校総合体育大会を横須賀ブロックで開催(7月)</li> <li>田浦中ソフトテニス部、県大会女子団体に横須賀勢として初優勝(7月)</li> <li>久里浜中剣道部、県大会、男子団体、優勝(7月)</li> <li>大津中男子ソフトボール部、県大会、優勝(7月)</li> <li>岩戸中・山本絵里、第20回全日本中学校陸上競技選手権大会女子走幅跳、第4位・5m52(8月)</li> <li>久里浜中剣道部、全国中学校選抜剣道大会男子団体、ベスト8(8月)、</li> <li>第39回全日本実業団ヨット競技選手権大会、スナイブ級、関自工、優勝(8月)</li> <li>大津中、運動部室焼失(11月)</li> <li>鶴久保小、市委託体育研究発表会開催(自主的な学習態度を育てる体育学習)(11月)</li> <li>第66回市民体育大会記念式典で市体育功労者20名が表彰される(11月)</li> <li>岩戸中・山本絵里、第24回ジュニアオリンピック大会女子走幅跳、第3位・5m29(11月)</li> <li>横須賀剣道連盟、創立40周年記念大会挙(11月)</li> <li>明浜小、アスレチック完成(12月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 第9回日本中体連研究大会、宮城県で開催される(1月)</li> <li>● 第65回選抜高校野球大会開会式で文部大臣森山真弓が女性初の始球式(3月)</li> <li>▲ 「郡体協」を「市町村体協」に改称(4月)</li> <li>● プロサッカー、Jリーグ開幕(5月)</li> <li>● 「日本市民スポーツ連盟」発足(7月)</li> <li>▲ 第53回国民体育大会夏・秋季大会の神奈川県開催、内定(7月)</li> <li>▲ 第27回県中学校総合体育大会(横須賀ブロック)での義援金が、県中体連から北海道南西沖地震の被災地に送られる(7月)</li> <li>▲ 全国中学校選抜体育大会、水泳競技で、近内圭太郎(鎌倉・第二中)が100m背泳ぎに全国中学新で優勝。58秒00(8月)</li> <li>● 全国高等学校総合体育大会、静岡で開催(8月)</li> <li>● 日体協第12代会長に女性初の高原須美子就任(平成5～7)(8月)</li> <li>● 第48回国民体育大会、香川・徳島両県で開催。神奈川県、天皇杯12位、皇后杯11位、5競技48名が優勝(10月)</li> <li>● 日本中体連研究大会、宮城県で開催される(11月)</li> <li>● 第1回全国中学校駅伝大会、熊本城内公園周辺コースで開催される(12月)</li> <li>▲ 県スポーツ少年団創立30周年記念式典祝賀会を挙(12月)</li> <li>● 石川県に日本初のサッカー専門学校「日本サッカー専門学院」開校。プロサッカー選手の育成を目指す(－)</li> </ul>
---------------	--	---

1994 (平成6)	<ul style="list-style-type: none"> <li>県体育功労者、古賀正一(レスリング)、徳田利春(陸上)、藤原幸介(ハンドボール)受賞(1月)</li> <li>武山中、体育研究発表(体力づくり)(1月)</li> <li>不入斗中・大矢部中、武道館竣工(3月)</li> <li>「パワーリフティング協会」、市体育協会加盟(4月)</li> <li>市長室に国体準備室設置。齋藤實室長(4月)</li> <li>中体連会長、早野憲担(平成6)(4月)</li> <li>小体研会長、鈴木英雄(平成6)(4月)</li> <li>第53回国民体育大会横須賀市準備委員会、第3回総会開催(6月)</li> <li>坂本中柔道部、県大会、男子団体、優勝(7月)</li> <li>田浦中女子バスケットボール部、県大会、優勝(8月)</li> <li>浦賀中・鈴木雅之、水泳全国大会、100m自由形、第3位(8月)</li> <li>浦賀中・黒岩憲吾、水泳関東大会、200m平泳ぎ、第3位(8月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● サッカーJリーグ初代王者にヴェルディ川崎(1月)</li> <li>◆ 第17回冬季オリンピック大会(リレハンメル)開催。この回から夏季オリンピック大会の中間年に開催。参加国67、参加数1,737名。日本、金1、銀2、銅2。ノルディック複合2連覇(阿部、河野、荻原)金メダル(2月)</li> <li>● オリンピック競技大会優秀者顕彰規定公布(2月)</li> <li>▲ 県立相模湖漕艇場管理棟竣工(2月)</li> <li>◆ IOC、2000年シドニー大会からトライアスロンを公式種目に決定(スイム1,500m、バイク40km、ラン10km)(9月)</li> <li>● 関西国際空港開港(9月)</li> <li>◆ 第12回アジア大会を広島で開催(10月)</li> <li>● 第49回国民体育大会、愛知県で開催。神奈川県、天皇杯9位、皇后杯5位、10競技45名が優勝(10月)</li> </ul>
---------------	--	---

年代	横須賀の体育・スポーツ	国・県内の体育・スポーツ
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第 49 回国民体育大会夏季大会、4 種目、選手 22 名派遣（8 月）</li> <li>・ 第 22 回関東中学校卓球大会を市総合体育会館で開催（8 月）</li> <li>・ 市児童水泳記録大会開催(最後の大会。本年をもって終了)（9 月）</li> <li>・ 中村健次・高木正人組、(関自工)、第 12 回アジア大会ヨット競技 470 級、優勝(10 月)</li> <li>・ 第 49 回国民体育大会秋季大会、14 種目、選手 30 人派遣(10 月)</li> <li>・ 神奈川スポーツ賞、高木正人(関自工)、ヨット競技、受賞(11 月)</li> <li>・ 第 67 回市民体育大会記念式典で、市体育功労者 20 名が表彰される（11 月）</li> <li>・ 田中武義(県銃剣道連盟副会長)、財部重彦(県ハンドボール協会副会長)文部大臣体育功労者表彰、受賞(11 月)</li> <li>・ 「横須賀銃剣道協会」発足（－）</li> <li>・ 馬堀小、全国保健体育優良校として、全国学校体育研究連合会から表彰される（－）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 群馬県冬季サガルマータ南西壁登山隊、世界最高峰エベレスト南西壁の冬季初登頂に成功(10 月)</li> <li>● 全日本スキー連盟(S J A)、スノーボードの大会を初めて主催（12 月）</li> <li>● 東京六大学野球連盟、女子選手の登録を認める（－）</li> <li>● 高体連、インターハイなど主大会への外国人参加を、95 年 4 月から、エントリー数の 20%前後とすることを決定（－）</li> </ul>

<p>1995 (平成 7)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県体育功労者、志村真悟(卓球)、小林福蔵(水泳)受賞（1 月）</li> <li>・ 平作小、アスレチック完成（1 月）</li> <li>・ 廣瀬章教育長就任（平成 7～14）（3 月）</li> <li>・ レクリエーション協会会長、竹折輝隆(平成 7～20)（4 月）</li> <li>・ 中体連会長、佐藤設夫(平成 7～8)（4 月）</li> <li>・ 小体研会長、松本英也(平成 7～8)（4 月）</li> <li>・ 第 53 回国民体育大会の神奈川県開催並びに会期が日体協理事会において正式決定（7 月）</li> <li>・ 第 53 回国民体育大会横須賀市準備委員会第 4 回総会開催。同準備委員会解散。横須賀市実行委員会設立総会開催（7 月）</li> <li>・ 第 53 回国民体育大会開催記念第 42 回横須賀市少年野球大会開催(追浜第 2 球場)（7 月）</li> <li>・ 久里浜中剣道部、県大会、男子団体、優勝（7 月）</li> <li>・ 久里浜中男子ソフトボール部、県大会、優勝（7 月）</li> <li>・ 第 53 回国民体育大会開催決定記念第 46 回市長杯争奪市内中学校・高等学校バスケットボール大会開催(南部体育会館)（8 月）</li> <li>・ 第 50 回国民体育大会夏季大会に 4 種目、19 名の選手を派遣（8 月）</li> <li>・ 田浦中・片桐宏和、全国中学校陸上競技選手権大会男子共通 100m、第 4 位・11 秒 27(8 月)</li> <li>・ 夏島小、ふれあいサッカー教室開催。木村司選手(マリノス)来校（8 月）</li> <li>・ 岩戸中体操部、関東中学校体操大会、男子団体、第 5 位（8 月）</li> <li>・ 第 44 回関東ろう学校卓球大会を市総合体育会館で開催。18 校、185 名参加（9 月）</li> <li>・ 第 50 回国民体育大会秋季大会に、15 種目、36 名の選手を派遣（10 月）</li> <li>・ 光洋小、体育科研究発表会開催(楽しい体育・展開と工夫)（10 月）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 日本中体連研究大会、広島で開催（1 月）</li> <li>● 阪神淡路大地震起こる（1 月）</li> <li>● 神戸製鋼ラグビー部、ラグビー日本選手権 7 連覇（1 月）</li> <li>● 荻原健司、ノルディックスキー複合ワールドカップ個人総合 3 連覇(3 月)</li> <li>▲ 蛭ヶ岳山荘廃止（3 月）</li> <li>● 「日本トランポリン協会」、日体協の正式加盟団体に昇格（6 月）</li> <li>● 第 53 回国民体育大会の神奈川県開催が決定（7 月）</li> <li>◆ 第 1 回世界なぎなた選手権大会開催。8 か国 100 名参加（7 月）</li> <li>● 中学生の全国大会の名称が、「全国中学校選抜体育大会」から「全国中学校体育大会」に名称変更（8 月）</li> <li>● 第 18 回ユニバーシアード福岡大会開催。サッカー日本代表チームが優勝（8～9 月）</li> <li>◆ 世界柔道選手権大会（千葉）開催（9～10 月）</li> <li>◆ 世界体操競技選手権大会（鯖江）開催（10 月）</li> <li>▲ 第 50 回国民体育大会秋季大会、福島県で開催。天皇杯 7 位、皇后杯 12 位。8 競技、58 名優勝（10 月）</li> <li>● 体育局に「2002 年ワールドカップの日本招致活動推進室」設置（11 月）</li> <li>▲ 県立体育センター改修工事竣工（－）</li> <li>● 日体協会長、安西孝之(平成 7～17)（－）</li> <li>● 日本大学エベレスト登山隊、唯一残されていた未踏の北東稜を経て世界最高峰エベレスト登頂に成功（－）</li> </ul>
------------------------	---	--

年代	横須賀の体育・スポーツ	国・県内の体育・スポーツ
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中村健次・高木正人(関自工)、第24回全日本470級ヨット選手権大会、優勝(10月)</li> <li>・ 山本絵里(新栄高)、第50回国民体育大会陸上競技少年B女子走幅跳、第2位・6m03(10月)</li> <li>・ 光洋小、県学校体育研究連合会から保健体育優良校として表彰される(11月)</li> <li>・ 根岸小、市委託体育研究発表会開催(児童の自主性・主体性を育てる体育の研究)(11月)</li> <li>・ 第68回市民体育大会記念式典で市体育功労者20名が表彰される(11月)</li> <li>・ 第53回国民体育大会開催決定記念第46回横須賀、三浦、逗子、鎌倉地区柔道段別選手権大会開催(市総合体育会館)(11月)</li> <li>・ 浅葉孝雄(体育指導委員協議会会長)文部大臣表彰受賞(11月)</li> <li>・ 竹内清市体育協会長、勲三等瑞宝章受章(一)</li> <li>・ 春の関東高校卓球大会、市総合体育会館で開催(一)</li> <li>・ 青葉小、体育科研究推進(めあてを持って生き生きと取り組む子をめざして)(一)</li> </ul>	

<p>1996 (平成8)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県体育功労者、原田嘉夫(野球)受賞(1月)</li> <li>・ 神明中、武道館竣工(3月)</li> <li>・ 「国体準備室」を「国体事務局」(国体総務課・国体競技課)に組織改正。杉本俊一事務局長(4月)</li> <li>・ 長浦小、NHK・BS「スーパーヒーローにチャレンジ」の取材、池谷幸雄キャスター。全職員、全PTA参加(5月)</li> <li>・ 「第53回国民体育大会横須賀市おお汗こ汗推進協議会」設立総会開催(7月)</li> <li>・ 高山樹里、第26回アトランタオリンピックソフトボール競技、第4位(8月)</li> <li>・ 小原台小水泳プール竣工(8月)</li> <li>・ 長井中、県中学校相撲大会、優勝。全国大会出場(8月)</li> <li>・ 中村健次・高木正人(関自工)、アトランタオリンピック大会ヨット競技、男子470級、出場(8月)</li> <li>・ 第51回国民体育大会夏季大会に4種目、24名の選手を派遣(8月)</li> <li>・ 「市長杯バスケットボール大会中学の部」は本年をもって終了(昭和25年から続いていた)(8月)</li> <li>・ 新栄高・山本絵里、第49回全国高等学校陸上競技選手権大会女子走幅跳、第2位・6m02、同混成競技、優勝・4,968点(8月)</li> <li>・ 馬堀中・田野淳、第23回全日本中学校陸上競技選手権大会男子200m、第3位・22秒84(8月)</li> <li>・ ソフトボール横須賀選抜、第10回全日本小学生男子ソフトボール大会、第3位(8月)</li> <li>・ 「おお汗こ汗みんなでスポーツ」開催(市総合体育会館)(9月)</li> <li>・ ジャジャママファイターズ、第1回全日本エルダーソフトボール大会、第3位(9月)</li> <li>・ 根岸小、全国学校体育優良校として、全国学校体育研究連合会から表彰される(10月)</li> <li>・ 第51回国民体育大会秋季大会に10種目、31名を派遣(10月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 全国中学校体育連盟研究大会を長崎で開催(1月)</li> <li>● 第1回全国都道府県対抗男子駅伝大会開催。広島県優勝(1月)</li> <li>◆ 第3回冬季アジア大会(ハルビン)開催。日本、金8個獲得(2月)</li> <li>● 第1回全日本フットサル大会開催(2月)</li> <li>● 日本相撲連盟、女性のアマチュア相撲団体、「新日本相撲連盟」発足(2月)</li> <li>● 全国中体連、97年度の全国中学校体育大会から朝鮮中学校などの外国人学校の参加を認める(2月)</li> <li>▲ 県高体連、加盟校306校になる(4月)</li> <li>● 2002年ワールドカップ日韓共催決定(5月)</li> <li>● 体育局「2002年ワールドカップ準備室」設置(6月)</li> <li>● 中教審「21世紀を展望したわが国の教育のあり方について」第一次答申(7月)</li> <li>● O157集団中毒発生。厚生省、伝染病に指定(7月)</li> <li>▲ アトランタオリンピック出場選手の激励会を神奈川自治会館で行う(7月)</li> <li>◆ 第26回夏季オリンピック大会(アトランタ)開催。参加国197か国、参加数10,332名。日本、金3、銀6、銅5獲得。恵本・中村・野村(柔道)金メダル(7月)</li> <li>● 有森裕子、五輪女子マラソンでバルセロナ、アトランタの2大会連続でメダルを獲得(7月)</li> <li>◆ 第10回パラリンピック、アトランタで開催。日本から選手123名参加(8月)</li> <li>● 第35回全国学校体育研究大会を秋田で開催(8月)</li> <li>● 第51回国民体育大会を広島県で開催。神奈川、天皇杯5位、皇后杯6位、14競技、79名が優勝(10月)</li> </ul>
-----------------------	---	---

年代	横須賀の体育・スポーツ	国・県内の体育・スポーツ
	<ul style="list-style-type: none"> <li>横須賀市陸上競技協会創立 60 周年記念式典挙行 (10 月)</li> <li>新栄高・山本絵里、第 51 回国民体育大会女子走幅跳、第 3 位・5 m84 (10 月)</li> <li>田浦中 駅伝、県大会女子の部で優勝。全国大会で活躍 (11 月)</li> <li>馬堀中・田野淳、第 27 回ジュニアオリンピック陸上競技大会 100m、第 2 位・10 秒 82 (11 月)</li> <li>豊島小、市委託体育研究発表会開催(めあてをもち意欲的に取り組む子をめざして) (11 月)</li> <li>シーサイドマラソン、平成町道路開通に伴いコースを新港～観音崎に変更 (11 月)</li> <li>第 69 回市民体育大会記念式典で、市体育功労者 20 名が表彰される (11 月)</li> <li>久里浜中、文部省指定運動部活動研究推進校として発表し、全国学校体育研究連合会から表彰される (12 月)</li> <li>青葉小、体育研究推進 (めあてを持ち生き生きと取り組む子をめざして) (一)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 第 1 回アジア相撲選手権大会を大阪で開催。10 か国 30 名参加 (10 月)</li> <li>● 初の小選挙区比例代表制の総選挙(第 41 回)が行われる (10 月)</li> </ul>

1997 (平成 9)	<ul style="list-style-type: none"> <li>県体育功労者、菅原勉(野球)、丸尾隆史(サッカー)、細谷虎夫(陸上)受賞 (1 月)</li> <li>横須賀アリーナ・サブアリーナ竣工 (3 月)</li> <li>池上小、アスレチック完成 (3 月)</li> <li>横須賀スタジアム竣工(全面人工芝になる)(3 月)</li> <li>中学校総合体育大会、学制改革 50 周年記念優勝カップ、準優勝楯を更新する (4 月)</li> <li>中体連会長、増島拓次(平成 9～12) (4 月)</li> <li>小体研会長、小林勇雄(平成 9～10) (4 月)</li> <li>野比中、武道館竣工 (4 月)</li> <li>横須賀アリーナ・サブアリーナ落成式挙行。開館 (4 月 17 日)。30m の室内アーチェリー場が完成。室内大会、練習が可能になる (4 月)</li> <li>大矢部中・松本勝範、関東中学校剣道大会、優勝 (8 月)</li> <li>常葉中・横内大智、全国中学校陸上競技選手権大会棒高跳、第 4 位・4 m35 (8 月)</li> <li>新栄高・山本絵里、第 50 回全国高等学校陸上競技対抗選手権大会、女子 100mH 優勝・14 秒 21、女子走幅跳優勝・6 m11、女子 7 種競技優勝・4, 968 点(三冠達成) (8 月)</li> <li>第 52 回国民体育大会夏季大会に 4 種目、21 名を派遣 (8 月)</li> <li>横須賀チーム、第 11 回全日本小学生男子ソフトボール大会、第 3 位 (8 月)</li> <li>横須賀シーガルズ F C, 第 2 回全日本女子ジュニアユースサッカー選手権大会、優勝 (8 月)</li> <li>県工工・清水公成、第 52 回国民体育大会ボウリング競技少年の部団体戦、優勝 (9 月)</li> <li>ろう学校・高 3・五十嵐圭、全国ろう学校陸上競技大会三段跳、優勝・11m48 (10 月)</li> <li>汐入小、市委託体育研究発表会開催(豊かな心情を育てる体育の学習) (10 月)</li> <li>第 52 回国民体育大会秋季大会に 8 種目、21 名を派遣 (10 月)</li> <li>第 52 回国民体育大会バスケットボール競技成年</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 日本中学校体育連盟研究大会、長崎で開催 (1 月)</li> <li>● 女性の新相撲の第 1 回全日本選手権大会を、大阪で開催 (3 月)</li> <li>● 第 1 回全日本女子ジュニアユースサッカー選手権大会開催 (3 月)</li> <li>◆ 第 10 回世界剣道選手権大会 (京都) 開催 (3 月)</li> <li>▲ 伊勢原射撃場の管理運営を、県体協が県から受託 (4 月)</li> <li>● 外国人学校の生徒の全国大会参加が認められる(財・日本中体連) (4 月)</li> <li>▲ 県中体連、467 校 8 ブロック・22 地区になる (4 月)</li> <li>● 第 15 回男子ハンドボール世界選手権大会 (熊本) 開催 (5 月)</li> <li>● 大場満郎、世界初の単独歩行による北極海横断に成功 (6 月)</li> <li>▲ 伊勢原射撃場が新装オープン (6 月)</li> <li>▲ 県中体連 50 周年記念第 31 回県中学校総合体育大会開催 (8 月)</li> <li>▲ 蛭ヶ岳山荘改築工事着工 (8 月)</li> <li>● 保健体育審議会答申 (9 月)</li> <li>▲ 第 52 回国民体育大会(なみはや国体)秋季大会開幕。天皇杯 4 位、皇后杯 5 位。10 競技、50 名優勝 (10 月)</li> <li>● 日本ラグビー協会「全国高校 7 人制大会」の創設を決定 (10 月)</li> <li>▲ 経ヶ岳山荘オープン (11 月)</li> <li>● 「2002 年ワールドカップサッカー大会日本組織委員会」発足 (12 月)</li> </ul>
----------------	---	--

年代	横須賀の体育・スポーツ	国・県内の体育・スポーツ
	<p>男子の部、磯崎功幸(関自工)、阿部晃充(関東学院)、第2位(10月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第70回市民体育大会記念式典で市体育功労者20名が表彰される(11月)</li> <li>・ 豊島小、全国保健体育優良校として、全国学校体育研究連合会より表彰される(11月)</li> <li>・ アスパイアー号(クルーザーヨット30FT)1艇、ディングー(OP級)3艇、住友重機(株)から市へ寄贈される(11月)</li> <li>・ 久里浜中、全国保健体育優良校として、全国学校体育研究連合会から表彰される(11月)</li> <li>・ 新栄高・山本絵里、神奈川スポーツ賞受賞(11月)</li> <li>・ 関自工ヨット部、全日本選手権ヨット競技、B14クラス・49erクラス・470級の各クラスで優勝(11月)</li> <li>・ 第1回関東高校新人卓球大会兼関東選抜大会を横須賀アリーナで開催(12月)</li> </ul>	

<p>1998 (平成10)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県体育功労者、黒瀬幸彦(相撲)、石渡得司(ソフトボール)受賞(1月)</li> <li>・ 野比小、散水器設置(2月)</li> <li>・ スキー市民大会参加者200名を超える(2月)</li> <li>・ 鷹取中、武道館竣工(3月)</li> <li>・ 教育委員会事務局の組織改正により「指導部体育課」が「生涯学習部スポーツ課」になる(4月)</li> <li>・ スポーツ課長、渡邊武(体育課長→スポーツ課長)(4月)</li> <li>・ 小学校児童陸上記録大会を6月に実施、(10月に国体開催のため)(6月)</li> <li>・ 横浜国大・山本絵里、第9回日本学生種目別選手権大会、女子走幅跳、優勝(6月)</li> <li>・ 日産自動車・江浜勲、平成10年度全国軟式卓球選手権大会、男子サーティ、優勝(6月)</li> <li>・ ろう学校・高2・鈴木正一、関東ろう学校陸上競技大会、走高跳、優勝・1m65、走幅跳、優勝・5m87(7月)</li> <li>・ 武山中剣道部、県大会、男子団体優勝(7月)</li> <li>・ 岩戸中・森拓朗、全日本中学校陸上競技選手権大会、男子棒高跳、第2位・4m65(県中学新)(8月)</li> <li>・ 常葉中・岩井聡、全日本中学校陸上競技選手権大会、男子棒高跳、第8位・4m20(8月)</li> <li>・ 第53回国民体育大会夏季大会に4種目、15名を派遣(8月)</li> <li>・ 市商高・宮内友美子、第22回全日本高校ボウリング選手権大会、優勝(8月)</li> <li>・ 新栄高・田野淳、第51回全国高等学校総合体育大会陸上競技4×400mR、優勝(8月)</li> <li>・ 市工高定時制、第8回全国高等学校定時制通信制バスケットボール大会、優勝(8月)</li> <li>・ 久里浜中・横溝まや、全国中学校選抜剣道大会出場(8月)</li> <li>・ 大津中・熊木陽子、水泳関東大会、800m自由形、優勝(大会新)(8月)</li> <li>・ 横須賀シーガルズFC女子ジュニアユースチーム、第3回全日本女子ジュニアユースサッカー選</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▲ 神奈川県中学校体育連盟「創立50周年記念誌」発刊(1月)</li> <li>◆ 第18回冬季オリンピック大会(長野)開催。参加国72、参加数2,302名。日本、金5、銀1、銅4。清水宏保スケート500m、里谷多英女子モーグル、舟木和喜ジャンプラージヒル、岡部・斎藤・原田・舟木ラージヒル団体、西谷岳ショートトラック500m。過去最多の金メダル(2月)</li> <li>▲ 国体新ユニフォーム決定(3月)</li> <li>▲ 県立スポーツ会館の開所式を挙行政(4月)</li> <li>▲ 県高体連、県内大会の合同チームによる参加が可能になる(4月)</li> <li>▲ かながわ・ゆめ国体開幕祭を平塚市総合公園で開催(5月)</li> <li>◆ F I F Aワールドカップ・フランス大会開催。参加国32。優勝フランス。日本初出場(6・7月)</li> <li>● 中教審「新しい時代を拓く心を育てるために」答申(6月)</li> <li>● 「スポーツ振興投票準備室」設置(7月)</li> <li>▲ 第53回国民体育大会夏季大会開催(相模原グリーンプール)(9月)</li> <li>● 第53回日本体力医学会全国大会を横浜で開催(9月)</li> <li>● 第53回国民体育大会秋季大会開会(横浜国際競技場)場奈川、天皇杯優勝(3,635.5点)、皇后杯優勝(1,582.25点)(10月)</li> <li>● 日本中体連研究大会(神奈川大会)開催(10月)</li> <li>● 1998年世界バレーボール選手権大会(東京他)開催(11月)</li> <li>● 全国高体連創立50周年記念式典を挙行政。50周年誌発刊(11月)</li> <li>● 小・中学校学習指導要領告示(12月)</li> <li>● 2008年第29回オリンピック大会の大阪市招請を閣議了承(12月)</li> <li>● 高橋尚子、バンコク・アジア大会の女子マラソンで驚異的な日本最高記録で優勝・2時間21</li> </ul>
------------------------	--	--

年代	横須賀の体育・スポーツ	国・県内の体育・スポーツ
	<p>手権大会、優勝（8月）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第53回国民体育大会・かながわ・ゆめ国体開催（柔道、軟式野球、バスケットボール、スポーツ芸術）3競技とも総合優勝（10月）</li> <li>・ 第53回国民体育大会秋季大会に17種目、65人を派遣（10月）</li> <li>・ 坂本中武道館、国民体育大会柔道競技の練習会場になる（10月）</li> <li>・ 田浦中、全校生徒が国民体育大会軟式野球競技を応援する（10月）</li> <li>・ 緑ヶ丘高校新体操部、第53回国民体育大会、第3位（10月）</li> <li>・ 少年工科学校・花岡浩一、第53回国民体育大会銃剣道競技少年男子、優勝（10月）</li> <li>・ 海上自衛隊・西尾浩治、第53回国民体育大会水泳競技成年男子30歳以上50m平泳ぎ、優勝（10月）</li> <li>・ 海上自衛隊・宮澤功・中島智・前田英美、第53回国民体育大会ソフトボール競技成年2部、優勝（10月）</li> <li>・ 東芝ライテック・小川浩一、生化学工業・佐久間伸一、横須賀消防局・二本木定茂、第53回国民体育大会軟式野球競技成年一部壮年、優勝（10月）</li> <li>・ 湘南信用金庫チーム、第53回国民体育大会軟式野球競技成年2部、優勝（10月）</li> <li>・ 湘南女子高校・浅石早紀、第53回国民体育大会なぎなた競技少年女子、試合競技優勝（10月）</li> <li>・ 市商高・立川真紗美、第53回国民体育大会バスケットボール競技少年女子、第3位（10月）</li> <li>・ 汐入小、全国保健体育研究優良校として全国学校体育研究連合会から表彰される（11月）</li> <li>・ 湘南女子高校、第2回全日本ユースサッカー選手権大会、優勝（11月）</li> <li>・ 関自工ヨット部、全日本女子470級選手権大会、優勝（11月）</li> <li>・ 第71回市民体育大会記念式典で市体育功労者20名が表彰される（11月）</li> <li>・ 「横須賀市スポーツチャンバラ協会」発足（－）</li> </ul>	<p>分47秒（12月）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 日本学校体育研究大会（岡山大会）開催（－）</li> </ul>

<p>1999 (平成11)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 青葉小、体育館解体完了（1月）</li> <li>・ 汐入小、市委託体育・体力づくり研究発表会開催（1月）</li> <li>・ 陽光小、アスレチック完成（1月）</li> <li>・ 日産・坂本憲一、平成11年度全日本卓球選手権大会、男子フォーティ、優勝（1月）</li> <li>・ 大津小・島田彩香、第22回全国JOCジュニアオリンピックカップ春季水泳競技大会、11～12歳女子100m平泳ぎ、優勝（3月）</li> <li>・ スポーツ課長、三縄保（平成11～16）（4月）</li> <li>・ 小体研会長、安藤寛（平成11～12）（4月）</li> <li>・ 横浜国大・山本絵里、第68回全日本学生陸上競技選手権大会、女子走幅跳、優勝（6月）</li> <li>・ 日産・江浜勲、平成11年度全日本軟式卓球選手権大会、男子サーティ、優勝（6月）</li> <li>・ 湘南女子高校、全日本高等学校女子サッカー選手権大会、優勝（7月）</li> <li>・ 久里浜通信学校・安保泰斗、世界ジュニアカヌー</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 日本中学校体育連盟研究大会（三重大会）開催（1月）</li> <li>◆ 県高体連、創立50周年記念式典を挙行（横浜西公会堂）（2月）、「創立50周年記念誌」発刊（6月）</li> <li>● 高等学校学習指導要領告示（3月）</li> <li>◆ 第7回世界室内陸上競技選手権大会（前橋）開催（3月）</li> <li>▲ 「かながわ・ゆめ国体記念スポーツ振興基金」を設立（4月）</li> <li>▲ 「神奈川県トライアスロン連合」、県体協加盟（5月）</li> <li>▲ 「県ダンススポーツ連盟」、県体協に仮加盟（5月）</li> <li>● 武豊、競馬の日本ダービーで史上初の2連覇を達成（5月）</li> <li>◆ IOC総会（ソウル）で、2006年冬季オリンピック開催地、トリノに決定（6月）</li> </ul>
------------------------	---	--

年代	横須賀の体育・スポーツ	国・県内の体育・スポーツ
	<p>選手権大会（クロアチア）、第3位(8月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 久里浜中・横溝、女子関東中学校剣道大会、ベスト8（8月）</li> <li>・ 第54回国民体育大会夏季大会に4種目、18名を派遣(8月)</li> <li>・ 横須賀市陸上協会リトルスクールリレーチーム、全国小学生陸上競技大会、2位・53秒30(8月)</li> <li>・ 新栄高・田野淳、第52回全国高等学校陸上競技選手権大会、200m、400m、4×400mRで優勝、三冠達成(8月)</li> <li>・ 大津中・島田彩香、水泳全国大会、200m平泳ぎ、第4位(8月)</li> <li>・ ろう学校・鈴木正一、関東ろう学校陸上競技大会男子三段跳、優勝・12m25、走幅跳、第2位(8月)</li> <li>・ 横須賀選抜チーム、第13回全日本小学生男子ソフトボール大会、第3位(8月)</li> <li>・ 第54回国民体育大会秋季大会に17種目、38名を派遣(10月)</li> <li>・ 西尾幸治(海自隊)、第53回国民体育大会夏季大会水泳競技成年男子30歳以下50m平泳ぎ、優勝(9月)</li> <li>・ 猪熊功(県柔連会長)、文部大臣体育功労章受章(11月)</li> <li>・ シーサイドマラソンに大学対抗の部を制定(11月)</li> <li>・ 第72回市民体育大会記念式典で市体育功労者20名が表彰される(11月)</li> <li>・ 野比東小、体育研究発表会開催(11月)</li> <li>・ 田野淳(新栄高)、神奈川県スポーツ賞受賞(11月)</li> <li>・ 「横須賀合気道連盟」発足(12月)</li> <li>・ 「横須賀市カヌー協会」発足。会長、竹内英明(一)</li> <li>・ エアーライフル射撃場(くりはま花の国)竣工(一)</li> <li>・ 若命勇次郎、横須賀市体育協会顧問、勲五等双光旭日章授章(一)</li> <li>・ 浦賀中、全国保健体育優良校として、全国学校体育研究連合会より表彰される(一)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 国旗国歌に関する法律公布・施行(8月)</li> <li>● 全国スポーツ少年団軟式野球交流大会を、本県で開催(8月)</li> <li>◆ 第23回世界新体操選手権大会(大阪)開催(9～10月)</li> <li>● 第54回国民体育大会秋季大会、熊本県で開催。神奈川県、天皇杯8位、皇后杯9位(10月)</li> <li>● 篠原信一、世界柔道選手権大会で日本人選手としては10年ぶりに2階級を制覇(10月)</li> <li>● 第16回日本中学校体育連盟研究大会(北海道大会)開催(11月)</li> <li>● 第38回全国学校体育研究大会(水戸大会)開催(11月)</li> <li>● 財団法人大阪オリンピック招致委員会発足(11月)</li> <li>● 山口衛里、第21回東京国際女子マラソンで驚異的な国内最高記録(2時間22分39秒)をマークして優勝((11月)</li> <li>● 中教審「初等中等教育と高等教育との接続の改善について」答申(12月)</li> </ul>
2000 (平成12)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県体育功労者、鶴野文彦(相撲)、泉水孝子(なぎなた)、古郡敬一(スキー)受賞(1月)</li> <li>・ 桜小、体育館竣工(1月)</li> <li>・ 基地体育協会が市体育協会を退会(3月)</li> <li>・ パワーリフティング協会が市体育協会を退会(3月)</li> <li>・ 横須賀女子ソフトボールチーム、関東小学生女子ソフトボール大会、優勝(4月)</li> <li>・ 中体研会長、渡辺圭治(平成12～15)</li> <li>・ 関東高校女子バレーボール大会開催(5月)</li> <li>・ 日産自動車都市対抗出場壮行会開催(7月)</li> <li>・ 衣笠中・阿知和梨乃、関東中学校陸上競技大会1年女子100m、第3位(8月)</li> <li>・ 第55回国民体育大会夏季大会に5種目、16人を派遣(8月)</li> <li>・ 関自工・関一人、第55回国民体育大会夏季大会ヨット競技成年男子470級、優勝(8月)</li> <li>・ 市商業高定時制、バスケットボール男子、定時制通信制高校全国大会で優勝(8月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▲ 「県スポーツチャンバラ協会」、「県オリエンテering協会」、「県鉛筆道協会」、県体協加盟(3月)</li> <li>● 中教審「少子化と教育について」報告(4月)</li> <li>● 保体審「スポーツ振興基本計画の在り方について」答申(8月)</li> <li>● 文部省、スポーツ振興基本計画告示(9月)</li> <li>◆ 第27回夏季オリンピック大会(シドニー)開催。日本、金5、銀8、銅5。高橋尚子、日本女子マラソンで初の金メダル獲得。瀧本・井上・野村・田村(柔道)、高橋(陸上女子マラソン)金メダル(9・10月)</li> <li>▲ 第55回国民体育大会、富山県で開催。神奈川県、天皇杯4位、皇后杯5位(10月)</li> <li>● 第39回全国学校体育研究大会(青森)開催(10月)</li> <li>● イチロー、米大リーグアリーグで日本人初の首位打者に輝く(10月)</li> <li>● 高橋尚子、国民栄誉賞受賞(10月)</li> </ul>

年代	横須賀の体育・スポーツ	国・県内の体育・スポーツ
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 横須賀選抜チーム、第14回全日本小学生男子ソフトボール大会、第3位(8月)</li> <li>・ 浦賀中出身・高山樹里、(シドニーオリンピック、ソフトボール競技決勝出場。銀メダル獲得)を浦賀中がTV応援(9月)</li> <li>・ 第55回国民体育大会秋季大会に19種目、38人を派遣(10月)</li> <li>・ 横浜商大高・松本勝範、第55回国民体育大会剣道競技少年男子、優勝(10月)</li> <li>・ 神明中女子ソフトボール部、県新人大会、優勝(10月)</li> <li>・ 第73回市民体育大会記念式典で市体育功労者20名が表彰される(11月)</li> <li>・ バドミントン協会、創立50周年記念式典・祝賀会開催(11月)</li> <li>・ 馬堀中・与儀芽衣、第31回ジュニアオリンピック陸上競技大会女子Bクラス100mH優勝・14秒86(11月)</li> <li>・ 高山樹里(ソフトボール)神奈川スポーツ賞、オリンピック賞、受賞(11月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 藤田敦史、福岡国際マラソンで日本最高記録を樹立・2時間06分51秒(12月)</li> </ul>

<p>2001 (平成13)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県体育功労者、鈴木昭利(バレーボール)、海藤晃(ボクシング)、長谷川忠信(レク・インディアカ)受賞(1月)</li> <li>・ 第55回三浦半島県下郡市対抗駅伝競走大会、大雪のため中止になる(1月)</li> <li>・ 市野球協会から市中体連野球専門部に、中総合野球大会の優勝旗が寄贈される(2月)</li> <li>・ 硬式空手協会、市体育協会を退会(3月)</li> <li>・ 池上中野球部、春季県大会に横須賀勢として初優勝(3月)</li> <li>・ 臨海水泳プール閉鎖、市営水泳プールが10か所から9か所になる(鷹取、田浦、平作、根岸、浦賀、鴨居、久里浜、富浦、長沢、村岡)(4月)</li> <li>・ 中体連会長、瀧川恒明(平成13~14)(4月)</li> <li>・ 小体研会長、鈴木武俊(平成13~14)(4月)</li> <li>・ 小学校児童相撲大会、本年より女子の部創設(5月)</li> <li>・ 第35回神奈川県中学校総合体育大会を横須賀ブロックで開催(7月)</li> <li>・ 坂本中・小林、関東中学校剣道大会、ベスト8(敢闘賞)</li> <li>・ 岩戸中・佐々木祐太、全日本中学校陸上競技選手権大会、棒高跳、第6位(8月)</li> <li>・ 第56回国民体育大会夏季大会に4種目、18人を派遣(8月)</li> <li>・ 県藤沢高・安田可奈子、第54回全国高等学校陸上競技選手権大会女子3,000m競歩、優勝(8月)</li> <li>・ 馬堀中・与儀芽衣、第28回全日本中学校陸上競技選手権大会共通100mH、第3位(8月)</li> <li>・ 追浜中バスケットボール部、県大会、女子優勝(8月)</li> <li>・ 第56回国民体育大会秋季大会に17種目、44人を派遣(10月)</li> <li>・ 鴨居中、県中学校駅伝大会女子の部、優勝(11月)</li> <li>・ 横須賀市中学校体育連盟創立50周年記念式典挙</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 中央省庁等改革「文部科学省」発足(1月)</li> <li>● 文科省に「スポーツ・青少年局」設置(1月)</li> <li>● 第17回日本中体連研究大会(愛媛)開催(1月)</li> <li>● 財団法人「全国高等学校体育連盟」発足(3月)</li> <li>◆ 2008年第29回夏季オリンピック大会開催地に北京決定(4月)</li> <li>● 第46回世界卓球選手権大会(大阪)開催(4~5月)</li> <li>● 第9回世界水泳選手権大会(福岡)開催。立花美哉・武田美保、シンクロデュエットで、日本人初の金メダルを獲得(7月)</li> <li>● 田村亮子、世界柔道選手権大会女子48kg級で前人未到の5連覇を達成(7月)</li> <li>● 室伏広治、世界陸上競技選手権大会、男子ハンマー投げで、投擲種目では日本人初の銀メダルを獲得(8月)</li> <li>● 第1回日本スポーツマスターズ開催(9月)</li> <li>● 第56回国民体育大会秋季大会、宮城県で開催。天皇杯4位、皇后杯9位(10月)</li> <li>● 文科省、「児童・生徒の運動競技に関する基準」を示す)</li> <li>● スポーツ科学センター開所(10月)</li> <li>● 第40回全国学校体育研究大会(宮崎市)開催(11月)</li> <li>● 「スポーツ振興投票の収益による助成の基本方針」文部科学大臣決定(11月)</li> <li>● 中教審「教育振興基本計画の策定と教育基本法のあり方について」諮問(11月)</li> </ul>
------------------------	---	--

年代	横須賀の体育・スポーツ	国・県内の体育・スポーツ
	<p>行。50周年誌発刊(11月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第74回市民体育大会記念式典で、市体育功労者17名が表彰される(11月)</li> <li>・ 第12回烏川ロードレース大会に本市選手が参加し、倉渕村との交流が始まる(～第19回)(11月)</li> <li>・ 鴨居中・横山、田中、東日本女子駅伝大会出場(11月)</li> <li>・ 第40回横三地区高等学校断郊競走大会、本年をもって終了(高体連の判断により)(12月)</li> <li>・ 田浦中卓球部、県新人大会、優勝。全国選抜大会に出場(12月)</li> <li>・ 横須賀ソフトボール協会創立50周年記念式典を挙行(－)</li> <li>・ 鶴久保小・奈良梨央、第24回全国JOCジュニアオリンピックカップ水泳競技、女子11歳50m背泳ぎ、優勝(－)</li> <li>・ 海自隊・松井玲子、第6回全日本ジャパンオープンハンドボールトーナメント、優勝(－)</li> <li>・ 横浜F・マリノスジュニアユース追浜、第13回全日本ユース(U-15)サッカー選手権大会、優勝(－)</li> <li>・ 諏訪小・日吉麻夏、第24回全国JOCジュニアオリンピックカップ水泳競技女子10歳以下50mバタフライ、第3位(－)</li> <li>・ 湘南学高女子サッカー部、第10回全国高等学校女子サッカー選手権大会、優勝(－)</li> </ul>	

<p>2002 (平成14)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県体育功労者、高橋茂(柔道)、鈴木茂男(バレーボール)、井料克己(ハンドボール)千葉光昭(スポーツ少年団)受賞(1月)</li> <li>・ 藤原尉夫教育長就任(平成14～18)(2月)</li> <li>・ 豊島小、全国学校体育研究連合会より全国保健体育優良校として表彰される(2月)</li> <li>・ 市インディアカ協会10周年記念式典を挙行(2月)</li> <li>・ 田浦中女子卓球部、全国中学校卓球大会(青森)出場(3月)</li> <li>・ 横須賀学院高、全国高校空手道選抜大会、女子団体形、第3位(3月)</li> <li>・ 日大藤沢高・山縣養一、第46回全国高等学校選抜レスリング大会、フリースタイル85kg級、優勝(3月)</li> <li>・ 市教委、「体育的教育活動における安全指導の参考」を改訂し発刊。配布(4月)</li> <li>・ 中体連会長、渡邊武(平成15～16)(4月)</li> <li>・ 「日産自動車都市対抗野球大会出場壮行会」開催(7月)</li> <li>・ 常葉中・田口香里、関東中学校陸上競技大会1年女子100m、第2位(8月)</li> <li>・ 浦賀中・鈴木彩、全国中学校柔道大会(兵庫)出場(8月)</li> <li>・ 三浦高校卓球部・川村選手、インターハイ卓球で横須賀初の個人優勝(8月)</li> <li>・ 第57回国民体育大会夏季大会に4種目、18人を派遣(8月)</li> <li>・ 横須賀選抜、第16回全日本小学生男子ソフトボール大会、優勝(8月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 第18回日本中学校体育連盟研究大会(東京)(1月)</li> <li>● 全国高体連研究発表大会(沖縄)開催(1月)</li> <li>◆ 第19回冬季オリンピック大会(ソルト・レーク・シティ)開催。参加国78、参加者数2,503名(史上最多)。日本、金0、銀1、銅1(2月)</li> <li>▲ 「神奈川県エアロビック連盟」、「神奈川県合気道協会」、県体協加盟(3月)</li> <li>▲ 県立伊勢原射撃場、整備のため休場(16年3月まで)(4月)</li> <li>◆ 2002年ワールドカップサッカー大会開催(日韓共催)(6月)</li> <li>● 日本アマチュアボクシング連盟、初の女子の大会を開催(6月)</li> <li>● 全国高校総体にカヌー競技が加わる(8月)</li> <li>● 中教審「子どもの体力向上のための総合的な方策について」答申(9月)</li> <li>● 第57回国民体育大会、高知県で開催。神奈川、天皇杯4位、皇后杯6位(10月)</li> <li>● 第41回全国学校体育研究大会開催(10月)</li> <li>● 北島康介、釜山アジア大会、200m背泳ぎで世界新記録樹立・2分9秒37(10月)</li> <li>● 中教審「新しい時代にふさわしい教育基本法と教育振興計画のあり方について」(中間報告)(11月)</li> <li>● 第19回日本中学校体育連盟研究大会(いわき市)開催(11月)</li> <li>● 全国高体連、「競技者及び指導者規定」施工。合同チームについての基準を設ける(－)</li> </ul>
------------------------	--	---

年代	横須賀の体育・スポーツ	国・県内の体育・スポーツ
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 横須賀スターズ、第 19 回全日本少年軟式野球大会、優勝（8月）</li> <li>・ 奈良梨央(イトマン)、第 25 回全国 JOC ジュニアオリンピックカップ夏季水泳大会、女子 12 歳 100m 背泳ぎ、第 2 位、50m 背泳ぎ、第 3 位（8月）</li> <li>・ 川田正二、第 57 回国民体育大会夏季大会ボウリング競技少年男子の部、優勝（9月）</li> <li>・ 川田幸一(いすゞ)、第 57 回国民体育大会夏季大会ボウリング競技成年男子個人の部、第 3 位（9月）</li> <li>・ 公郷小、竜巻により体育館屋根 10m 四方が飛ばされる。ガラス 90 枚破損（10月）</li> <li>・ 第 57 回国民体育大会秋季大会に 14 種目 42 人を派遣（10月）</li> <li>・ 県横高・荒川郁穂、第 57 回国民体育大会秋季大会陸上競技少年女子 A400m、第 3 位（10月）</li> <li>・ 関自工・轟賢二郎・関一人、第 14 回アジア大会、ヨット競技 470 級、第 2 位(10月)</li> <li>・ 関自工・井上幾郎、第 14 回アジア大会、ヨット競技、男子ミストラル級、第 3 位(10月)</li> <li>・ 陸自・佐伯将士、第 14 回アジア大会、カヌー競技男子 k-41,000m、優勝(10月)</li> <li>・ 陸自・安保泰斗、第 14 回アジア大会、カヌー競技男子 C-21,000m、優勝(10月)</li> <li>・ 第 75 回市民体育大会記念式典で市体育功労者 20 人が表彰される（11月）</li> <li>・ ソフトテニス協会創立 70 周年記念式典、祝賀会举行（11月）</li> </ul>	

<p>2003 (15)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県体育功労者、一蔦浩(ゲートボール)、鈴木一(卓球)、大久保英俊(バドミントン)、井出一三(野球)、藤野利夫(空手)受賞（1月）</li> <li>・ 川田光一(いすゞ)、第 42 回全日本ボウリング選手権大会、3 人戦、6 人戦、優勝（3月）</li> <li>・ 川田正二、第 42 回全日本ボウリング選手権大会、3 人戦、6 人戦、優勝（3月）</li> <li>・ 横須賀学院高、第 23 回全国高等学校空手道選抜大会、第 3 位（3月）</li> <li>・ 大塚台小学校、開校（4月）</li> <li>・ 小体研会長、座間博(平成 15~16)（4月）</li> <li>・ 体育指導委員協議会会長、中村栄治(平成 15~20)（5月）</li> <li>・ 大矢部中・山田弥生、第 27 回全日本中学生ボウリング選手権大会、女子の部、優勝(7月)</li> <li>・ 常葉中・日吉麻夏、全国中学校水泳大会(北海道)出場（8月）</li> <li>・ 常葉中・田口香里、関東中学校陸上競技選手権大会 2 年女子 100m、第 4 位・12 秒 82(8月)</li> <li>・ 田浦中・川上春奈、全国中学校陸上競技選手権大会 100mH、出場（8月）</li> <li>・ 第 58 回国民体育大会夏季大会に 4 種目、22 人を派遣（8月）</li> <li>・ ソフトボール横須賀選抜、第 17 回全日本小学生男子ソフトボール大会、優勝（8月）</li> <li>・ 県横高・荒川郁穂、第 56 回全国高等学校陸上競技選手権大会女子 400m、優勝（8月）</li> <li>・ ソフトボール横須賀チーム、第 17 回全日本小学生</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 第 5 回アジア冬季競技大会(青森)開催（2月）</li> <li>▲ 松沢成文県知事、県体協会長に就任（5月）</li> <li>◆ 2010 年第 21 回冬季オリンピック大会、カナダバンクーバー開催に決定（7月）</li> <li>● 北島康介、世界水泳選手権大会、100m・200m 平泳ぎで世界新記録を樹立して優勝・100m 59 秒 78、200m 2 分 9 秒 42（7月）</li> <li>● 鹿島丈博、世界体操選手権のあん馬で日本人選手初の優勝。鉄棒と合わせ 2 冠（8月）</li> <li>● 末続慎吾、世界陸上選手権 200m で短距離種目では日本人選手初のメダルとなる銅を獲得（8月）</li> <li>◆ 世界柔道選手権大会(大阪)開催（9月）</li> <li>● 第 58 回国民体育大会、静岡県で開催。神奈川、天皇杯 7 位、皇后杯 10 位（10月）</li> <li>● 独立行政法人日本スポーツ振興センター発足（10月）</li> <li>● 第 42 回全国学校体育研究大会、開催（11月）</li> </ul>
----------------------	--	--

年代	横須賀の体育・スポーツ	国・県内の体育・スポーツ
	<p>男女ソフトボール大会、優勝（8月）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 池上中・片岡裕也、第26回全国ジュニアオリンピックカップ水泳競技大会、13～14歳男子200m背泳ぎ、第2位（8月）</li> <li>・ 金子栞(KSSスイミング)、第26回ジュニアオリンピックカップ水泳競技大会、11歳女子50m自由形、優勝（8月）</li> <li>・ 常葉中・日吉麻夏、第26回全国ジュニアオリンピック水泳競技大会、12歳女子50m自由形、優勝（8月）</li> <li>・ 川田光一(いすゞ)、第57回国民体育大会夏季大会ボウリング競技成年男子個人の部、第3位（9月）</li> <li>・ 作山雅光（Aボウル）、第36回全日本新人ボウリング選手権大会、成年男子、優勝（9月）</li> <li>・ 田戸小・6年山田葉月、全国新相撲大会（堺市）、ベスト8（9月）</li> <li>・ 県横高・荒川郁穂、第58回国民体育大会秋季大会陸上競技少年女子A400m、第3位（10月）</li> <li>・ 富士見小、市委託体育研究発表会開催（心も体も健やかな児童をめざして－豊かなかわりを大切にしたい体育学習）、成果を冊子として発行（10月）</li> <li>・ 大塚台小駅伝クラブ、久里浜中と交流（小中連携）（10月）</li> <li>・ 田浦中・川上春奈、ジュニアオリンピック陸上競技大会100mH、出場（10月）</li> <li>・ 第58回国民体育大会秋季大会に15種目、42人を派遣（10月）</li> <li>・ 東京農大・土肥飛、第58回国民体育大会ボクシング競技成年男子フェザー級、第2位（10月）</li> <li>・ 山縣養一(日大)、国体、高校総体、高校選抜、レスリングフリースタイル85kg級、優勝。3冠達成（10月）</li> <li>・ 横須賀学院高・村田絢子、第3回世界ジュニア&amp;カデット空手道選手権大会、女子個人形、優勝（10月）</li> <li>・ 第76回市民体育大会記念式典で市体育功労者20名が表彰される（11月）</li> <li>・ 横須賀剣道連盟、創立50周年記念式典・祝賀会・記念大会举行（11月）</li> <li>・ 横山智映、田中千裕(白鵬高)、第22回全国都道府県対抗女子駅伝競走大会、第2位（11月）</li> <li>・ 少林寺拳法協会、創立30周年記念式典・大会举行（11月）</li> <li>・ 「横須賀市相撲協会」が「横須賀市相撲連盟」に改称（－）</li> <li>・ 横須賀なぎなた協会、日本武道協議会から全日本少年武道優良団体の表彰を受ける（－）</li> </ul>	

<p>2004 (平成16)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県体育功労者、志井憲一(銃剣道)、大津宏之(ソフトテニス)、門裕茂雄(レクリエーション)、中村英夫(ソフトボール)受賞（1月）</li> <li>・ バスケットボール・スーパーリーグ(東芝－新潟)開催（2月）</li> <li>・ 第58回県下郡市対抗駅伝大会で、横須賀市が過去最高の第2位・2時間39分54秒（2月）</li> <li>・ 武山小、体育館竣工（3月）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 中教審「食に関する指導体制の整備について」答申（1月）</li> <li>● 第20回記念日本中学校体育連盟研究大会(岡山)開催（1月）</li> <li>◆ 第28回夏季オリンピック大会(アテネ)開催。参加国202、参加数10,684名。日本、金8、銀9、銅12。鈴木・野村・内芝・谷・谷本・上野・塚田・阿武(柔道)、柴田(水泳)、室伏・</li> </ul>
------------------------	--	--

年代	横須賀の体育・スポーツ	国・県内の体育・スポーツ
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県横高・ラグビー部、全国高校ラグビー大会出場（3月）</li> <li>・ 常葉中ソフトボール部、関東中学生選抜ソフトボール大会(群馬)、第3位（3月）</li> <li>・ 横須賀剣道連盟創立50周年記念式典挙行。記念誌発刊（3月）</li> <li>・ 大塚台小、富士見小、キラキラタイム実践研究拠点校(～18年)（4月）</li> <li>・ 中体研会長、田中靖和(平成16)（4月）</li> <li>・ 「市合気道連盟」、市体育協会に加盟（5月）</li> <li>・ アテネオリンピック出場選手激励会を正庁で開催（5月）</li> <li>・ 常葉中ソフトボール部、全日本中学生ソフトボール大会(大阪)、出場（7月）</li> <li>・ 大矢部中・山田弥生、第28回全日本中学生ボウリング選手権大会、女子の部、優勝(2年連続)（7月）</li> <li>・ 常葉中・日吉麻夏、全国中学校水泳大会女子100mバタフライ、出場（8月）</li> <li>・ 関一人・轟謙次郎組、第28回アテネオリンピック大会ヨット競技セーリング男子470級、銅メダル獲得（8月）</li> <li>・ 第59回国民体育大会夏季大会に3種目、14人を派遣（8月）</li> <li>・ 鴨居中・大橋遙、関東中学校陸上競技大会女子200m、優勝・25秒26（8月）</li> <li>・ 公郷中・月野裕一、関東中学校陸上競技大会男子800m、優勝2分01秒06（8月）</li> <li>・ 川田正二(鈴木設備工業)、ボウリングワールドカップ全国決勝大会、優勝（8月）</li> <li>・ 高山樹里(浦賀中出身)、アテネオリンピックソフトボール競技で銅メダル獲得（9月）</li> <li>・ 立川真沙美(久里浜中→市商業高)、アテネオリンピック女子バスケットボール競技日本代表。10位（9月）</li> <li>・ アテネオリンピック結果(上記の他)（10月） <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 女子サッカー：山本絵美、矢野喬子[7位]</li> <li>➢ 男子サッカー：石川直宏[13位]</li> <li>➢ セーリング：中村健次、高木正人[15位]</li> </ul> </li> <li>・ 第59回国民体育大会秋季大会に16種目、42人を派遣（10月）</li> <li>・ 第77回市民体育大会記念式典で、市体育功労者20名が表彰される（11月）</li> <li>・ 今野巧(湘南学院高)、第20回日本ジュニア陸上選手権大会男子棒高跳、第3位（11月）</li> <li>・ 関一人・轟賢二郎(セーリング)、神奈川県スポーツ賞・オリンピック賞受賞（11月）</li> <li>・ 中村栄治(体育指導委員協議会会長)、文部科学大臣表彰受賞（11月）</li> </ul>	<p>野口(陸上)、吉田・伊調(レスリング)、北島(水泳)、体操男子団体、金メダル(8月) 体操男子団体総合は28年ぶり6度目の金(8月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 野村忠宏、柔道男子60kg級で金メダルを獲得し、五輪3連覇を達成（8月）</li> <li>● 成田真由美、パラリンピックの水泳7種目で優勝。3大会通算15個の金メダルを獲得（9月）</li> <li>▲ 第59回国民体育大会秋季大会を埼玉県で開催。神奈川、天皇杯3位、皇后杯5位（10月）</li> <li>● 第43回学校体育研究大会(徳島)開催（11月）</li> <li>▲ 県、「アクティブかながわスポーツビジョン」策定（12月）</li> </ul>
2005 (平成17)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県体育功労者、関根晃子(体操)、岸正晴(レクリエーション)、深川忠男(ソフトテニス)受賞（1月）</li> <li>・ 市総合高、体育館落成式を挙行（3月）</li> <li>・ 陽光小学校閉校（3月）</li> <li>・ 不入斗公園陸上競技場、写真判定装置導入（3月）</li> <li>・ スポーツ課長、大場智和(平成17～20)（4月）</li> <li>・ スポーツ少年団本部長、折原房男(鈴木明前本部長</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 第21回日本中学校体育連盟研究大会(沖縄)開催（1月）</li> <li>▲ 「神奈川県ダンススポーツ連盟」、県体協加盟（3月）</li> <li>● 食育基本法制定（6月）</li> <li>● 宇津木妙子、指導者としての長年の貢献が評価され、国際ソフトボール殿堂入り（6月）</li> </ul>

年代	横須賀の体育・スポーツ	国・県内の体育・スポーツ
	<p>逝去のため) (平成 17 年 4～) (4 月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中体連会長、夏野正(平成 17) (4 月)</li> <li>・ 小体研会長、上村公(平成 17～18) (4 月)</li> <li>・ 中体研会長、西之宮博文(平成 17～18) (4 月)</li> <li>・ 蒲谷亮一市長就任(平成 17～21) (7 月)</li> <li>・ 武山中・川口文、関東中学校陸上競技選手権大会女子 800m、第 7 位(8 月)</li> <li>・ 常葉中女子ソフトボール部、関東中学校ソフトボール大会、優勝(8 月)</li> <li>・ 第 60 回国民体育大会夏季大会に 4 種目、24 人を派遣(8 月)</li> <li>・ 関東ブロック中学校保健体育研究発表大会神奈川大会横須賀会場開催(バイサイド・ポケット)、公開授業、ハンドボール: 吉田友美(不入斗中)、器械運動: 石井美乃(馬堀中)、体づくり: 三橋政義(久里浜中)</li> <li>・ 第 60 回国民体育大会秋季大会に 19 種目、44 人を派遣(10 月)</li> <li>・ 市中学校駅伝(男子 56 回、女子 22 回)、森のロッジ方面へ一部コース変更(男子 56 回～58 回、女子 22 回～24 回)(10 月)</li> <li>・ 横須賀市体育協会創立 70 周年記念式典・祝賀会を挙行。記念誌を発刊。組織は 39 種目 32,000 名(11 月)</li> <li>・ 第 78 回市民体育大会記念式典で市体育功労者 18 名が表彰される(11 月)</li> <li>・ 市空手道協会創立 50 周年記念式典・大会を挙行(一)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 2012 年第 30 回夏季オリンピック大会開催地にイギリス・ロンドン決定(7 月)</li> <li>● 第 60 回国民体育大会岡山県で開催。神奈川、天皇杯 10 位、皇后杯 20 位(10 月)</li> <li>● 第 44 回全国学校体育研究大会(富山)開催(11 月)</li> <li>● 富田洋之、世界体操選手権男子個人総合で日本選手として 31 年ぶりに優勝(11 月)</li> <li>● 朝青龍、大相撲で史上初となる 7 連覇と年間 6 場所完全制覇を同時に達成(11 月)</li> <li>● 日体協会長、森喜朗(平成 17～現在)(一)</li> </ul>

<p>2006 (平成 18)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県体育功労者、齋藤真佐代(体操)、戸泉昭一郎(柔道)、内田美智子(フォークダンス)、伊東彰一(ソフトボール)、横須賀フォークダンス協会、受賞(1 月)</li> <li>・ 第 60 回三浦半島県下駅伝競走大会、横須賀市初優勝(1 月)</li> <li>・ 田中茂教育長就任(平成 18～19)(2 月)</li> <li>・ 大塚台小、中学校建設用地を新校庭として造成工事し竣工(3 月)</li> <li>・ 市営水泳プールの所管がスポーツ課から土木みどり部緑地管理課に所管替えになる(4 月)</li> <li>・ 中体連会長、松永和夫(平成 18～19)(4 月)</li> <li>・ 大楠中・3 年三橋洸介、全日本ジュニアテコンドー選手権大会中学男子ウエルター級、優勝(7 月)</li> <li>・ 常葉中ソフトボール部、全国中学校ソフトボール大会、ベスト 8。関東中学校ソフトボール大会、優勝(8 月)</li> <li>・ プール排水口のネジ止め、他県での排水口吸い込み死亡事故に伴い、内側のネジを含め点検修理実施(8 月)</li> <li>・ 第 61 回国民体育大会夏季大会に 4 種目、16 人を派遣(8 月)</li> <li>・ 市長杯バスケットボール大会・高等学校の部、本年もって終了(昭和 25 年から続いた中学の部は平成 8 年で終了)(8 月)</li> <li>・ 田浦小、湘南シーレックス訪問授業実施(9 月)</li> <li>・ 衣笠小、マリノスサッカーキャラバンが来校(9</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 第 22 回日本中学校体育連盟研究大会(和歌山)開催(1 月)</li> <li>◆ 第 20 回冬季オリンピック大会(2006 イタリア・トリノ)開催。参加国 80、参加数 2,633 名。日本金 1。荒川静香、女子フィギュアスケートで日本選手初の金(2 月)</li> <li>▲ 県体育協会、山下泰裕新会長就任(3 月)</li> <li>◆ 第 1 回ワールドベースボールクラシックに日本優勝。監督・王貞治(3 月)</li> <li>▲ 第 61 回国民体育大会、兵庫県で開催。神奈川、天皇杯 6 位、皇后杯 6 位(9 月)</li> <li>● 第 23 回日本中学校体育連盟研究大会(和歌山)開催(11 月)</li> <li>● 第 45 回全国学校体育研究大会(宇都宮)開催(11 月)</li> <li>◆ 第 15 回アジア大会(カタール・ドーハ)開催。高校生、目覚ましい活躍。高校生が金 3、銀 13、銅 4 獲得(12 月)</li> <li>◆ 第 6 回アジア冬季大会(中国・長春)開催。高校生、金 1、銀 6、銅 1 獲得(2 月)</li> <li>● 全国高体連、高野連と特待生問題で協議(一)</li> </ul>
-------------------------	---	--

年代	横須賀の体育・スポーツ	国・県内の体育・スポーツ
	月) ・ 常葉中・日吉麻香、第 61 回国民体育大会夏季大会水泳競技少年女子 B200m リレー、全中タイ記録・1 分 48 秒 89 (9 月) ・ 浦賀中、市中学校駅伝大会、男女とも優勝(10 月) ・ 望洋小、キラキラタイムドッジボール大会、開催(10 月) ・ 第 61 回国民体育大会秋季大会に 13 種目、36 人を派遣(10 月) ・ 平作小、マリノスサッカーキャラバン開催(11 月) ・ 第 79 回市民体育大会記念式典で市体育功労者 14 名が表彰される(11 月) ・ 横須賀市陸上競技協会創立 70 周年記念式典・祝賀会挙行。70 周年誌発刊(11 月) ・ バスケットボール協会創立 60 周年記念式典・祝賀会挙行(12 月) ・ 諏訪小、保健体育研究(心も体も健やかな子どもを育てる保健体育学習)推進(－)	

2007 (平成 19)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県体育功労者、鈴木海經(空手)、元文伊千夫(バスケットボール)受賞</li> <li>・ 第 61 回三浦半島県下駅伝競走大会、横須賀市 2 年連続優勝(1 月)</li> <li>・ 横須賀市陸上競技協会創立 70 周年記念技術講習会挙行(1 月)</li> <li>・ 第 1 回 1 万メートルプロムナードウォーク(市体協主催)開催。参加数約 1,000 人(3 月)</li> <li>・ 小体研会長、藤田昭雄(平成 19～20)(4 月)</li> <li>・ 中体研会長、田中康志(平成 19～20)(4 月)</li> <li>・ 第 32 回小学校児童相撲大会、女子の部 32 校 194 名、男子の部 39 校 274 名、合計 468 名参加(5 月)</li> <li>・ 体育指導委員協議会の 3 部会が、「企画部、広報部、研修部」になる(5 月)</li> <li>・ 防衛大学校ヨット部、創立 50 周年記念式典を挙行(6 月)</li> <li>・ 関東高等学校なぎなた大会開催(6 月)</li> <li>・ 永妻和子教育長就任(平成 19～)(8 月)</li> <li>・ 関東・全国出場者激励会(中学生)の会場が、「まなびかんホール」から「市役所の正庁」に戻る(8 月)</li> <li>・ 全国選抜リトルリーグ野球大会開催(スタジアム等)(8 月)</li> <li>・ 井上康生柔道教室開催(横須賀地区柔道協会主催)(8 月)</li> <li>・ 第 62 回国民体育大会夏季大会に 4 種目、9 人を派遣(8 月)</li> <li>・ 第 62 回国民体育大会秋季大会に 14 種目、49 人を派遣(10 月)</li> <li>・ 第 19 回鳥川ロードレース大会、本年をもって市としての交流を終了(11 月)</li> <li>・ 第 32 回横須賀シーサイドマラソン(市制 100 周年記念)開会式会場、スタートを含めたコースを三笠公園に戻す(11 月)</li> <li>・ 2007 中核市サミット開催(芸術劇場)。第 4 分科会「スポーツ振興による活力ある街づくり」コーディネーター出光ケイ氏。特別講演「スポーツと地域づくり」講師奥寺康彦氏(11 月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 全国高体連研究発表大会(石川)開催(1 月)</li> <li>▲ 県体協、いじめ防止ポスター 1 万 9 千枚配布(5 月)</li> <li>● 谷亮子、柔道の世界選手権で 7 度目の優勝(9 月)</li> <li>● 第 62 回国民体育大会秋田大会開催。神奈川、天皇杯 4 位、皇后杯 6 位(10 月)</li> <li>● 第 46 回全国学校体育研究大会(京都)開催(11 月)</li> <li>● 全国高体連「競技者に関する別途規定」を設ける(－)</li> <li>● 石川遼、史上最年少で男子プロゴルフツアー優勝(－)</li> <li>● 国枝慎吾、車椅子テニスで史上初の年間グランドスラムを達成(－)</li> </ul>
-----------------	---	--

年代	横須賀の体育・スポーツ	国・県内の体育・スポーツ
	<ul style="list-style-type: none"> <li>第 80 回市民体育大会記念式典で体育功労者 18 名が表彰される (11 月)</li> <li>武雅兄 (体育指導委員協議会会長)、文部科学大臣表彰受賞 (11 月)</li> </ul>	

2008 (平成 20)	<ul style="list-style-type: none"> <li>県体育功労者、平泉忠廣(空手)、田中靖和(体操)、本萱今朝信(野球)受賞 (1 月)</li> <li>第 62 回三浦半島県下駅伝競走大会、横須賀市 3 年連続優勝 (1 月)</li> <li>横須賀市スポーツ栄光章表彰要綱(S54 年制定)を廃止し、新たに要綱を制定 (2 月)</li> <li>第 62 回市町村対抗「かながわ駅伝競走大会」、降雪のため中止になる (2 月)</li> <li>市横須賀総合高、グラウンド竣工(人工芝テニスコート 6 面、300mトラック、サッカー場、ラグビー場、野球場) (2 月)</li> <li>横須賀女性ソフトボール連盟 30 周年記念祝賀会を挙げる (2 月)</li> <li>第 2 回 1 万メートルプロムナードウォーク開催 (ヴェルニー公園～市立美術館) (3 月)</li> <li>横須賀チーム、第 1 回春季全日本小学生男子ソフトボール大会、優勝 (3 月)</li> <li>中体連会長、岩澤住武(平成 20～21) (4 月)</li> <li>第 33 回小学校児童相撲大会(男子 277 名、女子 204 名、合計 481 名参加) (5 月)</li> <li>衣笠中・山縣良嗣、第 34 回全国中学生レスリング選手権大会 59 kg級、第 3 位 (6 月)</li> <li>北京オリンピック出場者激励会、商工会議所で開催 (7 月)</li> <li>金子栞(日大高校)、全国高等学校総合体育大会水泳競技女子 50m自由形、優勝・25 秒 84(大会新) (8 月)</li> <li>横須賀チーム、第 22 回全日本小学生男子ソフトボール大会、優勝 (8 月)</li> <li>横須賀学院高・木戸侑来、第 63 回国民体育大会大分大会ゴルフ競技女子団体、3 位 (9 月)</li> <li>高張広海(東海大)、第 77 回日本学生対抗選手権大会男子走高跳、第 3 位・2 m13 (9 月)</li> <li>北京オリンピック報告会(西山麗・ソフトボール・金メダル獲得、富澤慎・セーリング・10 位、近賀ゆかり・矢野喬子・女子サッカー・4 位、谷口博之・男子サッカー、西山選手は中央駅前広場で市民に報告会を開く (9 月)</li> <li>第 81 回市民体育大会記念式典で市体育功労者 19 名が表彰される (10 月)</li> <li>第 59 回市中学校駅伝大会(男子)、第 25 回(女子)、コースが変更され、「国道 16 号馬堀海岸区間コース」になる (10 月)</li> <li>スキー協会創立 60 周年記念式典・祝賀会挙げる (11 月)</li> <li>西山麗 (ソフトボール) 神奈川スポーツ賞・オリンピック賞、受賞 (11 月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>第 24 回日本中学校体育連盟研究大会(静岡)開催 (1 月)</li> <li>小・中学校学習指導要領が改訂告示される。20 年 3 月に告示されてから 6 回目の改訂 (3 月)</li> <li>浅田真央、世界フィギュアスケート選手権大会、女子シングルで日本選手最年少優勝 (3 月)</li> <li>▲ 県体協、いじめ防止の社会貢献で県教委から表彰される (3 月)</li> <li>◆ 第 29 回夏季オリンピック大会 (北京) 開催。204 か国、11,193 名参加。日本、金 9、銀 6、銅 11。内柴、石井、谷本、上野 (柔道)、吉田、伊調(レスリング)、北島 (水泳)、ソフトボール女子、金メダル。ソフトボール女子は初の金。北島康介は平泳ぎで 2 種目連覇 (8 月)</li> <li>● オリンピック北京大会優勝者の顕彰及び表彰を行う (8 月)</li> <li>● 第 63 回国民体育大会開催。神奈川、天皇杯 4 位、皇后杯 4 位 (10 月)</li> </ul>
2009 (平成 21)	<ul style="list-style-type: none"> <li>県体育功労者、齋藤幸次(陸上)、伊藤陽文(剣道)、渡邊千代吉(ボウリング)、折原房男 (スポーツ少年団)受賞 (1 月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▲ 横浜国際女子駅伝、本年をもって終了 (2 月)</li> <li>● 日体協、2011 年の創立 100 周年を見据えて、「総合型地域スポーツクラブ全国協議会」を設立</li> </ul>

年代	横須賀の体育・スポーツ	国・県内の体育・スポーツ
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第 63 回三浦半島県下駅伝競走大会、横須賀市 4 連覇ならず。平塚市について第 2 位（1 月）</li> <li>・ 第 63 回市町村対抗神奈川駅伝、横須賀市 4 位（2 月）</li> <li>・ スポーツ栄光章、13 チーム及び 52 名が受章（2 月）</li> <li>・ スポーツ大賞(北京オリンピック)西山麗、ソフトボール競技、金メダル</li> <li>・ スポーツ大賞特別賞(北京オリンピック) <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 近賀ゆかり(日テレ・ベレーザ)、女子サッカー、4 位</li> <li>➢ 矢野喬子(浦和レッズレディース)、女子サッカー、4 位</li> <li>➢ 富澤慎(関自工)、セーリング、10 位</li> <li>➢ 谷口博之(川崎フロンターレ)、サッカー、本戦出場</li> </ul> </li> <li>・ 第 3 回 1 万メートルプロムナードウォーク(横横道路、佐原 IC-馬堀海岸 IC 開通記念)荒天のため中止（3 月）</li> <li>・ 不入斗公園陸上競技場改修工事竣工（3 月）</li> <li>・ スポーツ課長、伊藤学(平成 21～)（4 月）</li> <li>・ レクリエーション協会会長、岸正晴(平成 21～)（4 月）</li> <li>・ 小体研会長、柏木雅一(平成 21～)（4 月）</li> <li>・ 中体研会長、山下廣(平成 21～)（4 月）</li> <li>・ 市体育協会会長、松井哲三退任、後任はカヌー協会会長で副会長の竹内英明就任(平成 21～)（5 月）</li> <li>・ 体育指導委員協議会会長、武雅兄(平成 21～)（5 月）</li> <li>・ 体育指導委員協議会の 3 部会が、総務部、事業部、企画研修部になる（5 月）</li> <li>・ 第 34 回小学校児童相撲大会開催。本年より室内開催になる（5 月）</li> <li>・ 横須賀市体操協会、創立 50 周年記念式典・祝賀会举行（6 月）</li> <li>・ 「横須賀市児童生徒体力づくり推進研修講座」設立(本市初)（6 月）</li> <li>・ 吉田雄人市長就任（平成 21～）（7 月）</li> <li>・ 第 43 回県中学校総合体育大会(横須賀ブロック)開催（7 月）</li> <li>・ 岩戸中男子バレーボール、県大会優勝。関東大会出場(7 月・8 月)</li> <li>・ 日大高校・金子栞、神奈川スポーツ賞受賞(10 月)。全国高校総体水泳 50m 自由形、連覇・25 秒 75 (大会新)。第 64 回国民体育大会、同連覇・25 秒 69 (大会新)（10 月）</li> <li>・ 横須賀学院高・熊谷アンドリュー、横浜高校・向吉勝吾、神奈川スポーツ賞受賞。サッカー国民体育大会少年男子、連覇（10 月）</li> <li>・ 常葉中ソフトボール、県新人ソフトボール大会、優勝。関東大会出場（10 月）</li> <li>・ 市体育協会顧問竹内清(85 歳)逝去（11 月）</li> <li>・ 山田昭子(体育指導委員協議会副会長)、文部科学大臣表彰受賞（11 月）</li> <li>・ ハンドボール協会創立 50 周年記念式典・祝賀会举行（12 月）</li> </ul>	<p>（2 月）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ ワールドベースボールクラシックに日本優勝監督：原辰則（3 月）</li> <li>● 文科省、「今後の総合型地域スポーツクラブの進行のあり方について、～7つの提言～」を発表（8 月）</li> <li>● イチロー、メジャーリーグ新記録の 9 年連続 200 本安打達成（9 月）</li> <li>● 第 64 回国民体育大会(新潟・ときめき国体)開催。天皇杯 5 位、皇后杯 4 位（10 月）</li> <li>● 内村航平、世界体操選手権大会、男子個人総合、日本史上最年少優勝(10 月)</li> <li>● 文科省、全国体力・運動能力・運動習慣等の調査結果発表（12 月）</li> </ul>

## 参 考 図 書

- ・国民体育大会 50 年の歩み  
（財・日本体育協会）
- ・国民体育大会のあゆみ  
（都道府県体育協会連絡協議会）
- ・かながわ・ゆめ国体報告書  
（かながわ・ゆめ国体実行委員会）
- ・かながわ・ゆめ国体横須賀市報告書
- ・かながわ・ゆめ国体記録写真集  
（横須賀市実行委員会）
- ・神奈川県体育史
- ・健民神奈川（県立体育センター）
- ・スポーツ 80 年史（日本体育協会）
- ・神奈川県体育協会 50 年誌
- ・神奈川県体育協会・体協要覧
- ・神奈川県高等学校体育連盟 50 周年誌
- ・神奈川県中学校体育連盟史（61, 3）
- ・神奈川県中学校体育連盟 50 周年誌
- ・神奈川陸上競技協会 70 周年記念誌
- ・横浜スポーツ 100 年のあゆみ
- ・横須賀市史
- ・横須賀の教育のあゆみ  
（明治・大正・昭和編）
- ・横須賀市立各学校沿革史
- ・横須賀市教育史通史編
- ・横須賀市教育史年表編
- ・戦後 40 年横須賀教育史年表
- ・横須賀市体育のあゆみ
- ・横須賀市体育協会誌（60, 11）
- ・横須賀市体育協会 70 周年誌
- ・横須賀市レクリエーション協会 20 年のあゆみ
- ・横須賀市スポーツ少年団創立 20 周年記念誌  
「あゆみ」
- ・横須賀市中学校体育連盟創立 50 周年記念誌
- ・横須賀市小学校体育研究会会報
- ・横須賀市ソフトテニス協会 70 周年記念誌
- ・横須賀市水泳協会創立 65 周年記念誌
- ・横須賀市陸上競技協会 70 周年誌
- ・横須賀女性ソフトボール連盟  
創立 30 周年記念誌
- ・岩波近代日本総合年表
- ・近代スポーツ年表・三訂版（大修館書店）
- ・時事新報
- ・体育・スポーツ指導実務必携（平成 17 年版）
- ・横須賀市体育指導委員協議会 30 周年記念誌
- ・近代日本総合年表

横須賀市体育・スポーツのあゆみ年表（昭和元年～平成 21 年）

---

平成 23 年（2011 年） 3 月

発行所 横須賀市教育委員会事務局生涯学習部スポーツ課  
〒239-8550 横須賀市小川町 11 番地  
電話 046-822-4000（代表）

---